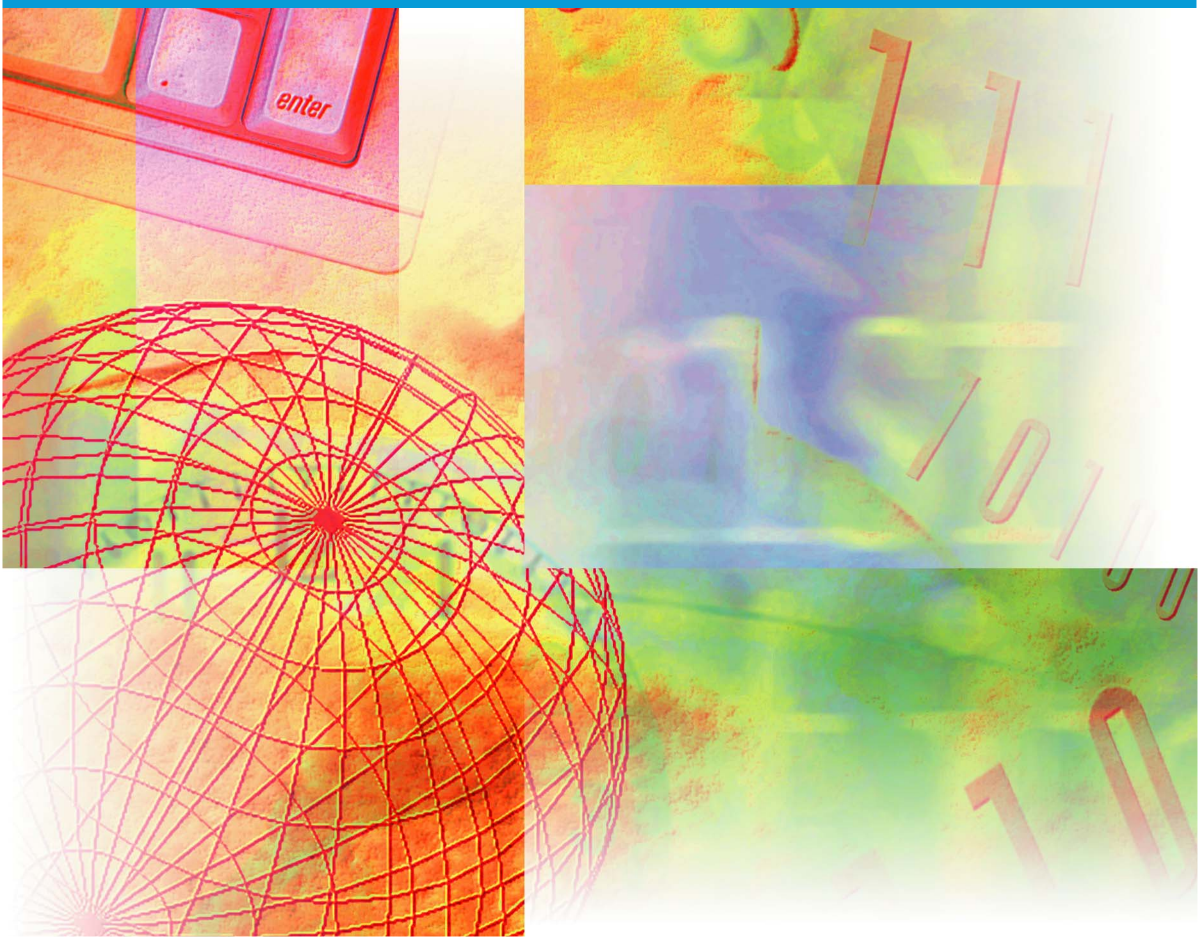
Canon

Satera MF8180

ユーザーズガイド



最初にお読みください。

ご使用前に必ず本書をお読みください。
いつでも使用できるように大切に保管してください。

JPN

取扱説明書の分冊構成について

本製品の取扱説明書は、次のような構成になっています。目的に応じてお読みいただき、本製品を十分にご活用ください。

このマークが付いているガイドは、製品に同梱されている紙マニュアルです。

CD-ROM このマークが付いているガイドは、付属の CD-ROM に含まれている PDF マニュアルです。

- **製品の設定方法については**
- **ソフトウェアのインストールについて知るには**
- **ネットワークの設定方法について知るには**

スタートアップガイド（紙マニュアル）

- **コピーおよびプリントに関する説明については**
- **困ったときには**

ユーザーズガイド（本書）（紙マニュアル）

- **ファクスに関する説明については**
- **困ったときには**

ファクスガイド（紙マニュアル）

- **ソフトウェアのインストールおよび説明については**
- **プリントおよびスキャナ動作について知るには**
- **困ったときには**

ソフトウェアガイド（CD-ROM）

- **リモート UI に関する説明については**

リモート UI ガイド（CD-ROM）

- **ネットワークの接続と設定方法については**

ネットワークガイド（CD-ROM）

製品名
・F148800（Satera MF8180）

- PDF 形式のマニュアルを表示するには、Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader が必要です。ご使用のシステムに Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader がインストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページからダウンロードし、インストールしてください。
- 本書は、改良のため画面等は予告なく変更されることがあります。正確な仕様が必要な場合はキヤノンまでお問い合わせください。
- 本書に万一ご不審な点や誤り、または記載漏れなどお気付きのことがありましたら、ご連絡ください。
-

ユーザーズガイドの構成について

第1章 お使いになる前に　必ずお読みください

第2章 用紙の取り扱い

第3章 原稿の取り扱い

第4章 プリンタとして使う

第5章 コピーするには

第6章 スキャンするには

第7章 システムモニタでジョブを確認する

第8章 日常のメンテナンス

第9章 困ったときには

第10章 各種機能を登録する／設定する

第11章 付録

本製品の仕様や索引を掲載しています。

目次

第 6 章　スキャンするには

第 7 章　システムモニタでジョブを確認する

第 8 章　日常のメンテナンス

第 9 章　困ったときには

第 10 章　各種機能を登録する／設定する

第 11 章　付録

はじめに

このたびは Canon Satera MF8180 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。また、お読みいただいた後もいつでも使用できるよう大切に保管してください。

本書の読みかた

マークについて

本書では、本製品を使用する上で安全のためにお守りいただきたいことや役に立つ情報に、下記のマークを付けています。

警告	取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負うおそれのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
注意	取り扱いを誤った場合に、傷害を負うおそれや物的損害が発生するおそれのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
重要	操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルを防ぐために、必ずお読みください。
メモ	操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをお勧めします。

キーの表記について

本書では、操作するキーを以下のように記号と［　］を用いて表しています。［　］内には操作パネル上のキー名称が示されています。

［白黒スタート］、または［カラースタート］を押します。

画質

［画質］を押します。

ディスプレイに表示されるメッセージ

ディスプレイのメッセージは以下のように＜　＞で囲んで表しています。

- ＜メモリガ　イッパイデス＞と表示されたときは、本製品は原稿を読み取れません。
- ディスプレイに＜ソート＞と表示されます。

規制について

電波障害規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

商標について

Canon、Canon ロゴ、Satera はキヤノン株式会社の商標です。

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

原稿などを読み込む際の注意事項

以下を原稿として読み込むか、あるいは複製したり、加工したりすると、法律により罰せられる場合がありますのでご注意ください。

■ 著作物など

他人の著作物を権利者に無断で複製などすることは、個人的または家庭内その他これに準ずる限られた範囲においての使用を目的とする場合を除き違法となります。また、人物の写真などを複製する場合には肖像権が問題となることがあります。

■ 通貨、有価証券など

以下のものを本物と偽って使用する目的で複製すること、またはその本物と紛らわしいものを作成することは法律により罰せられます。

- 紙幣、貨幣、銀行券（外国のものを含む）
- 国債証券、地方債証券
- 郵便為替証書
- 郵便切手、印紙
- 株券、社債券
- 手形、小切手
- 定期券、回数券、乗車券
- その他の有価証券

■ 公文書など

以下のものを本物と偽って使用する目的で偽造することは法律により罰せられます。

- 公務員または役所が作成した免許証、登記簿謄本その他の証明書や文書
- 私人が作成した契約書その他権利義務や事実証明に関する文書
- 役所または公務員の印影、署名または記号
- 私人の印影または署名

［関係法律］

- 刑法
- 著作権法
- 通貨及証券模造取締法
- 外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律
- 郵便法
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙犯罪処罰法
- 印紙等模造取締法

⚠ 安全にお使いいただくために

本製品をお使いになる前に、この「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、正しくご使用ください。ここに書かれている警告・注意事項は、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容ですので、必ずお守りください。また、本書に記載されていること以外は行わないでください。誤った使い方をされますと、けがの原因になることがあります。また、通常の使い方以外で発生した故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。

- 本製品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。

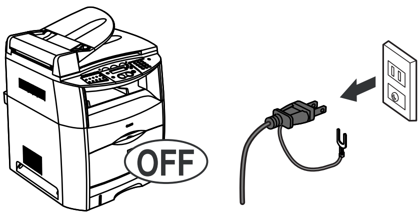
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

- 外付け電話機用差込口は、電話網の仕様と完全には一致していないため、接続される通信機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- 外付け電話機の種類によっては、ご使用になれない場合や、一部機能が利用できない場合があります。
- お使いになる電話回線に、すでに何台かの電話機等が接続されている場合は、本製品または外付け電話機がご使用になれない場合があります。この場合は、他の電話機等を外してください。
- 一般電話回線と本製品の間に、アダプタ（ターミナルアダプタなど）が接続された場合、アダプタなどが電話網の仕様と完全には一致していないため、製品が正常に動作しないことがあります。
- 本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、受信文書の全部、または一部が消失したり、通話や録音などの機会を逸したために生じた損害や万が一、本製品に登録された情報内容が消失してしまうこと等の純粋経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。本製品に登録された情報内容は、別にメモをとるなどして保管くださるようにお願いします。
- 本製品は、お客様固有のデータを登録または保持可能な製品です。本製品内に登録または保持されたデータの流出による不測の損害などを回避するために、本製品を廃棄、譲渡、返却される際には、本製品内に登録または保持されたデータを取扱説明書等を元に消去くださるようお願いいたします。
- 本製品の設置や配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本製品は、お買い求めのときには国内の相手の方と通信することを前提とした設定になっています。海外との通信を主に行われる方は、重要な通信を行う前に相手の方と正常に通信できるか確認してください。正常に通信できないときは、本製品の設定を変更することにより、通信できるようになる場合もありますので、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
- 本製品の外観および機能などの仕様は、お客様にお知らせすることなく変更される場合があります。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

設置について

⚠ 警告

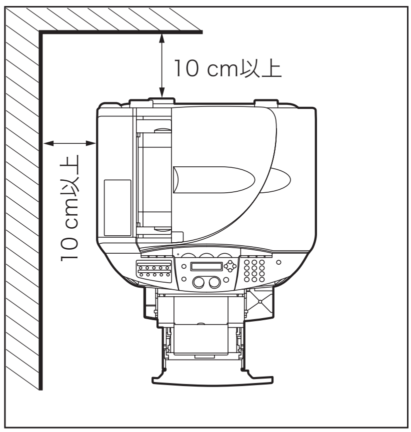
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が本製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。
- 本製品の上に次のような物を置かないでください。これらが本製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。
  本製品内部に入った場合は、直ちに電源コードを抜いてお近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
  ・ネックレスなどの金属物
  ・コップ、花瓶、植木鉢など、水や液体が入った容器



⚠ 注意

- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所、振動の多い場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 本製品には通気孔がありますので、壁や物でふさがないように設置してください。通気孔がふさがれると本製品内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。
- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本製品が正常に動作しない場合があります。
- 温度が急激に変化する場所には置かないでください。冷えきった部屋をストーブなどで急激に暖めたときなどは本製品の内部に水滴が付着し、部分的に写らないコピーが発生する原因となることがあります。
- 本製品を次のような場所に設置しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
  ・湿気やほこりの多い場所
  ・水道の蛇口付近などの水気のある場所
  ・直射日光のあたる場所
  ・高温になる場所
  ・火気に近い場所
  ・スピーカなど磁気を含んだ機器や、磁界を生ずる機器に近い場所
  ・クーラ、暖房器具、換気扇などから風が直接当たる場所
  ・振動が多い場所
  ・換気の悪い場所
  ・揮発性可燃物やカーテンに近い場所
  ・床が丈夫でない場所
  ・調理台のそばなど、油飛びや湯気のあたるような場所

- 本製品の設置場所等によっては、近くに置いたラジオへの雑音やテレビ画面のチラツキやゆがみなどが発生する場合があります。
  このような現象が本製品の影響と思われましたら、本製品の電源プラグをいったん抜いてください。電源を切ることによりラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、以下のような方法を試みてください。
  - ・本製品をテレビなどから遠ざける。
  - ・本製品またはテレビなどの向きを変える。
- 電気製品・AV・OA 機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（パソコン、電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコンなど）。
  - ・磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - ・テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 硫化水素の発生する場所（温泉地など）では、本製品の寿命が短くなることがあります。
  - ・風通しの悪い場所に設置しないでください。
    本製品は使用中オゾンを発生します。オゾンの量は人体に影響を及ぼすほどの量ではありませんが、風通しの悪い場所で長時間使用したり、大量の印刷をしたりするときは換気に十分留意し、環境に配慮して使用してください。
  - ・本製品の通風孔を壁や他の機器などから 10 cm 以上離して設置してください。



  - ・温度差の激しい場所に設置しないでください。15 ～ 30 ℃の環境でお使いください。
  - ・湿度 10 ～ 80% の環境でお使いください。
  - ・屋外での設置や使用は避けてください。

電源について

⚠ 警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものを置いたり、引っぱったり、無理に曲げたりしないでください。傷ついた部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因になることがあります。
- ぬれた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電の原因になることがあります。
- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用したタコ足配線をしないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- 電源コードは電源コンセントの奥までしっかりと差し込んでください。差し込みが不十分ですと、火災や感電の原因になることがあります。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- アース線を接続してください。アース線を接続しないで万一漏電した場合は、火災や感電の原因になることがあります。
- アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。

  〈アース線を接続してもよいもの〉

  電源コンセントのアース端子

  接地工事（D 種）が行われているアース線端子

  〈アース線を接続してはいけないもの〉

  水道管や蛇口：配管の途中でプラスチックになっている場合があり、その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。

  ガス管：ガス爆発や火災の原因になることがあります。

  電話線のアースや避雷針：落雷のときに大量の電流が流れ、火災や感電の原因になることがあります。
- AC100 V の商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグは、AC100 V15A 専用コンセントに差し込んでください。やむをえず同じコンセントに他の電気製品の電源プラグを差し込む場合は、電流値がコンセントの最大値を超えないように注意してください。火災の原因となることがあります。
- 電源コードは、必ず付属のものをお使いになり、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品を構内交換機（PBX）等に接続してお使いになる場合は、あらかじめお近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。確認できない場合は、絶対に接続してお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 本製品は国内電源仕様になっていますので、海外ではご使用になれません。
- 原則的に延長コードを使用しないでください。また、延長コードの多重配線をしないでください。火災や感電の原因になることがあります。やむを得ず延長コードを使用する場合は、AC100 V15A 以上のものを使用してください。使用時は束をほどき、電源コードと延長コードの接続が確実になるように根もとまで電源プラグを差し込んでください。
- アース線を接続する場合は、必ず電源プラグを電源コンセントに接続する前に行ってください。また、アース線を取り外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。

注意

- 表示された以外の電源電圧で使用しないでください。火災や感電の原因になることがあります。
- コンセントに差し込んだ機器の使用電力の合計がブレーカの許容電力を超えないようご注意ください。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱると、電源コードの芯線の露出、断線など電源コードや本製品が傷つき、その部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。
- いつでも電源コードが抜けるように、電源コードの周りには物を置かないでください。非常時に電源コードが抜けなくなります。
- 雷雨のときは本製品の電源コードをコンセントから抜いてください。落雷により火災や感電の原因になることがあります。

重要

- 電源プラグとコンセントの接合部分のまわりにごみが付着したら、乾いた清潔な布で拭き取ってください。
- エアコンやテレビ、コピー機などと同じコンセントに接続しないでください。ノイズを発生したり、本製品の操作に不具合を生ずることがあります。
- 次のような場合は本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。
  - ・電源コードやプラグが傷んだり、断線しているとき
  - ・本製品の中に水などの液体がこぼれたとき
  - ・本製品が雨に濡れたり水がかかったとき
  - ・同梱の取扱説明書の手順どおりに操作しても本製品が正常に動作しないとき

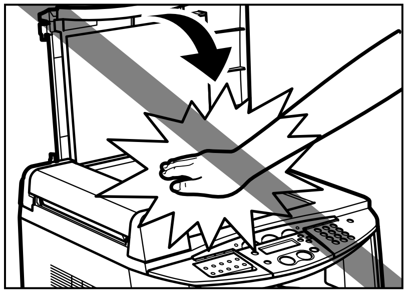
    手順にない不正な調整をしてしまうと、故障の原因となったり、正常な動作に戻すまでに特殊な修理が必要となりますのでご注意ください。
  - ・本製品を落としたり、傷つけたりしたとき
  - ・本製品の動作に明らかに異常がみられるとき、エラーランプが点滅し続けるとき
  - ・長時間ご使用にならないとき
- 本製品の電源コードを無停電電源に接続しないでください。
- 本製品の電源プラグを抜いたときは、差し直すまでに５秒以上間隔をおいてください。

取り扱いについて

警告

- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。内部には高圧・高温の部分があり、火災や感電の原因になることがあります。
- 本製品のキャビネットは外さないでください。感電や故障の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
- 万一、本製品を倒したり、キャビネットを破損した場合、本製品の電源プラグをコンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。
- 異常な音がしたり、煙が出たり、熱が出たり、変なにおいがした場合は、直ちに電源コードを抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になることがあります。
- 本製品の近くでは可燃性のスプレーなどを使用しないでください。スプレーのガスなどが本製品内部の部品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。

- 本製品を移動させる場合は、必ず電源コードを抜き、電話線コードを取り外してください。そのまま移動すると電源コードや電話線コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります。
- 本製品内部にクリップやホチキスの針などの金属片を落とさないでください。また、水、液体や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）をこぼさないでください。これらが本製品内部の部品に接触すると、火災や感電の原因になることがあります。万一、これらが本製品内部に入った場合は、直ちに電源コードを抜いてお近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
- ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で本製品を操作しないでください。故障や感電の原因となることがあります。
- 原稿台ガラスカバーは、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因となることがあります。



- 原稿台ガラスに本などの厚い原稿をセットしたときは、原稿台ガラスカバーを上から強く押さえないでください。原稿台ガラスが破損して、けがの原因となることがあります。原稿台ガラスの許容荷重は約 2 kg（約 500 ページの電話帳 1 冊分）までです。
- 通信やコピーなどの動作中に電源プラグを抜いたり、本製品の開閉部を開けたりしないでください。故障の原因となることがあります。
- 電源プラグをコンセントからを抜いてから、再度差し込む場合は、5 秒以上の間隔を置いてください。
- 停電時や電源プラグをコンセントから抜いた場合に、画情報を維持するバックアップ電池の充電時間には約 8 時間必要です。また、完全にバックアップ電池が空になるような充放電を繰り返しますと電池寿命が早くなりますので、長期間使用しないとき以外は電源プラグをコンセントから抜いておくような使用は避けるようご注意願います。なお、画情報のバックアップ電池は電池単体での交換はできません。高価なパッケージの交換となります。
- 用紙は当社推奨品をご使用ください。推奨品以外の用紙をお使いになった場合のトラブルにつきましては、当社では保証いたしかねますのでご了承ください。推奨品につきましては、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。
- 記録紙は、青焼き紙などと重ねて保管しないでください。
- ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、柔らかい布に水を含ませて、かたく絞ってから拭いてください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。
- トナーカートリッジのドラムに手を触れないでください。ドラムの表面に手の油や汚れが付着すると、きれいな印字ができなくなります。
- しわ、折れのある紙、湿っている紙、一度記録した紙の裏面などは使用しないでください。紙づまりの原因となることがあります。
- 残った用紙は包装紙に包み、湿気が少なく直射日光の当たらないところに保管してください。

- 紙づまりのとき、用紙は破れないように静かに取り除いてください。取り除く途中で用紙が破れたときは、紙片を本製品の中に残さずすべて取り除いてください。
- 本製品を離れたところに陸送したり空輸するときは、必ずトナーカートリッジを取り外してください。トナーカートリッジに強い光が当たらないように保護袋に入れるか厚い布で包んでください。

⚠ 注意

- 本製品の上に重いものを置かないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因になることがあります。
- 連休などで長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源コードを抜いてください。
- レーザ光は、人体に有害となるおそれがあります。そのため本製品では、レーザ光はレーザスキャナユニット内にカバーで密封されており、お客様が通常の操作をする場合にはレーザ光が漏れる心配は全くありません。安全のために以下の注意事項を必ずお守りください。
- 本書で指示された以外のカバーは、絶対に開かないでください。
- カバー内部に貼ってある注意ラベルをはがさないでください。

- 万一、レーザ光が漏れて目に入った場合、目に障害が起こる原因になることがあります。
- この製品は IEC60825-1:1993 においてクラス 1 レーザ製品であることを確認しています。

⚠ 取扱説明書に指定された手順以外の操作をすると放射線を浴びる危険があります。

- 厚みのある本などを読み取るときに原稿台ガラスカバーを強く押し付けないでください。原稿台ガラスカバーを損傷したり、けがの原因となります。
- 強くゆすったり、ぶつけたりしないでください。
- 移動するときは必ず電源プラグを抜いてください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常が見られましたら、すぐに電源プラグを抜き、キヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

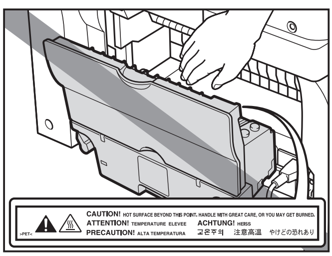
保守／点検について

警告

- 清掃のときは電源コードを抜いてください。火災や感電の原因になることがあります。
- 電源コードを定期的に抜き、その周辺および電源コンセントにたまったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源コードを長期間差したままにすると、その周辺にたまったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になることがあります。
- 清掃のときは、必ず水または水で薄めた中性洗剤を含ませて固く絞った布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が本製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。
- 原稿搬送ローラの清掃には、中性洗剤を使用しないでください。ローラ類を傷める原因となることがあります。
- 原稿読取部を清掃するときは、電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かずに清掃すると、火災や感電の原因となることがあります。
- 本製品内部には、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が本製品内部に触れないように注意してください。やけどや感電の原因になることがあります。
- 使用済みのトナー容器を火中に投じないでください。トナー容器内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になることがあります。

注意

- 本製品内部の定着器周辺は、使用中に高温になります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、定着器周辺に触れないように注意してください。やけどの原因になることがあります。
- 紙づまり処理やトナー容器を交換するときは、トナーで衣服や手を汚さないように注意してください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに必ず水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなることがあります。
- トナーカートリッジの交換や紙づまりなどで開閉部などを開けるときには、突起物に引っかけたり、開閉部で手を挟むとけがの原因となることがあります。
- 紙づまりで用紙を本製品内部から取り除くときは、紙づまりしている用紙の上にのっているトナーが飛び散り、目や口に入らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 用紙を補給するとき、原稿づまりや紙づまりを取り除くときは、原稿や用紙の端で手を切ったりしないように注意してください。
- トナー容器を補給口から取り外すときは、トナーが飛び散って目や口などに入らないように、丁寧に取り出してください。万一、トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- つまった用紙を取り除くとき、「高温注意」と表示がある部分とローラ部は高温になっています。やけどの原因となることがありますので、用紙以外には触れないでください。



消耗品について

⚠ 警告

- トナー容器を火中に投じないでください。トナーに引火して、やけどや火災の原因になることがあります。
- トナー容器、用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーや用紙に引火して、やけどや火災の原因になることがあります。
- トナー容器を廃棄する場合は、回収窓口までお持ちいただくか、トナーが飛び散らないようにトナー容器を袋に入れて、自治体の指示に従って処理してください。

⚠ 注意

- トナーなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。万一、トナーを飲んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- 新しいトナーカートリッジを振るときは、静かに振ってください。激しく振るとトナーが飛び散ることがあります。

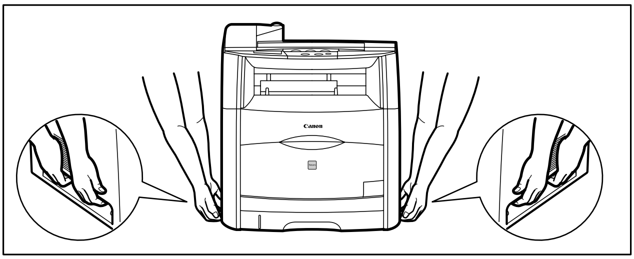
その他

⚠ 警告

- 心臓ペースメーカーをご使用の方へ
  - ・本製品から微弱な磁気が出ています。心臓ペースメーカーをご使用の方は、異常を感じたら本製品から離れてください。そして直ちに、医師にご相談ください。

⚠ 注意

- 本製品に貼付されている警告や手順に従ってください。
  - ・持ち運ぶときはトナーカートリッジを外してください。
  - ・持ち運ぶときは、カセットの取っ手などは持たないでください。破損の原因となることがあります。
  - ・持ち運ぶときは下の図のように持ってください。



  - ・停電が起きた場合や電源プラグをコンセントから抜いた場合は、ファクシミリの機能、動作が停止すると同時に、メモリに蓄積されている原稿（メモリ送信、代行受信など）が消えてしまう場合があります（内蔵のバッテリにより、約 40 分間 * はバックアップ機能がはたらきます）。

    *：製品が初期状態であり、バッテリーが充分に充電されているときの数値です。

資源再利用のお願い

キヤノンでは環境保全ならびに資源の有効活用のため、リサイクルの推進に努めております。回収窓口が製品により異なりますので、以下の内容をお読みいただき、ご理解とご協力をお願いします。

■ 使用済み複写機の受け入れ場所について

使用済みとなった複写機につきましては、次のように回収を行っています。お問い合わせ先に注意してご連絡願います。

Canon	キヤノンでは、環境保全と資源の有効活用のため、回収されたオフィス用、使用済み複写機のリサイクルを推進しています。 使用済みの複写機の回収については、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談センターもしくは担当の営業にお問い合わせください。 なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、廃棄物処理法に従い処分してください。

お使いになる前に

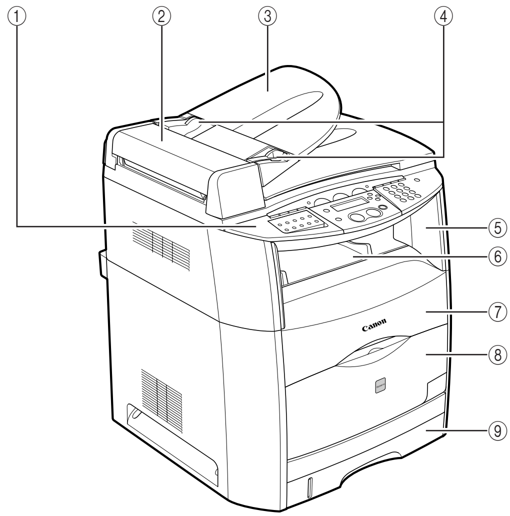
1
CHAPTER

本製品を使ってできること、本体各部の名称とはたらき、本製品をお使いになる前に知っておいていただきたいことを記載しています。

本体各部の名称とはたらき

本製品の主な名称とはたらきは、次のとおりです。

■ 前面



① **操作パネル**

本製品を操作します。

② **ADF（自動原稿給紙装置）**

原稿を読み取りユニットに自動的に送ります。

③ **原稿給紙トレイ**

原稿を置きます。

④ **スライドガイド**

原稿の幅に合わせてセットします。

⑤ **操作パネル部**

本体内部を点検するときに開きます。

⑥ **排紙トレイ**

プリントされた出力紙を排紙します。

⑦ **カートリッジカバー**

トナーカートリッジやドラムカートリッジを装着したり、つまった用紙を取り除くときに開きます。

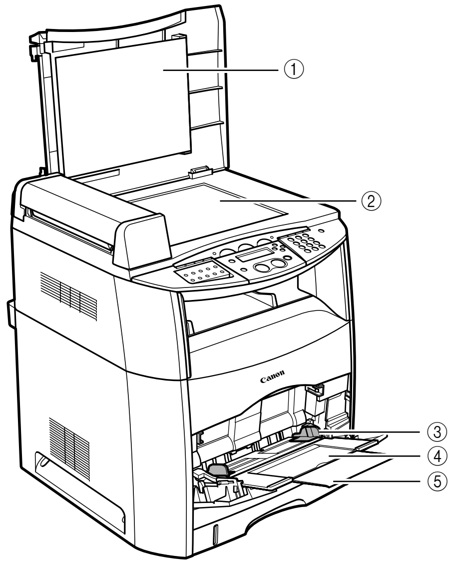
⑧ **手差しトレイ**

用紙を手差しトレイから給紙するときにここを開けて用紙をセットします。

⑨ **カセット**

用紙をセットします。

■ 内部



① **原稿台ガラスカバー**

原稿をコピーやスキャンするために原稿台ガラス上に置くときに開きます。

② **原稿台ガラス**

原稿を置きます。

③ **用紙ガイド**

手差しトレイにセットした用紙の幅に合わせてガイドの位置を調整します。積載制限ガイドが付いており、このガイド下まで用紙をセットできます。

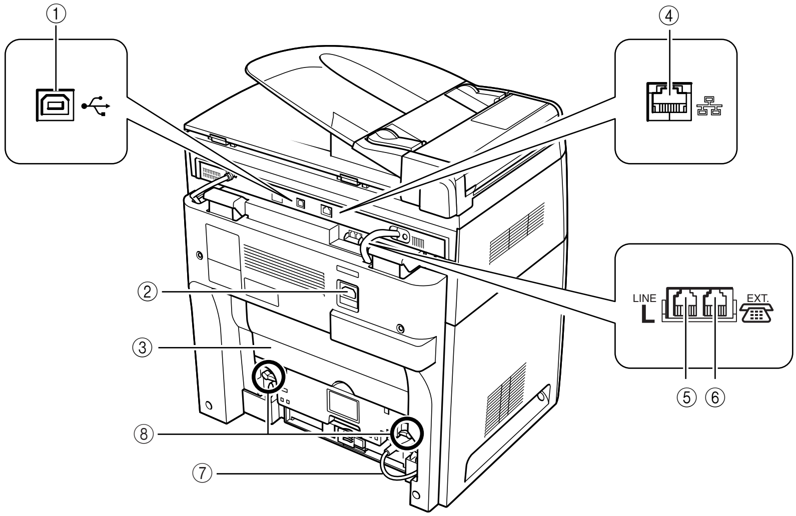
④ **補助トレイ**

手差しトレイに用紙をセットするときに引き出します。必ずこの補助トレイを引き出してから用紙をセットしてください。

⑤ **延長トレイ**

A4 サイズの用紙などの長いサイズの用紙をセットするときに用紙が垂れ下がらないようにします。

■ 背面



① **USB ポート**

USB（Universal Serial Bus）ケーブルを接続します。

② **電源ソケット**

電源コードを接続します。

③ **フェイスアップカバー**

印字面を上にして出力紙を排出したいときや、紙づまりを除去するときに開きます。

④ **LAN ポート**

LAN ケーブルを接続します。

⑤ **電話回線差込口**

電話回線コードを接続します。

⑥ **外付け電話機用差込口**

外付けの電話機を使うときは、ここに接続します。

⑦ **操作部／エンジン部接続コード**

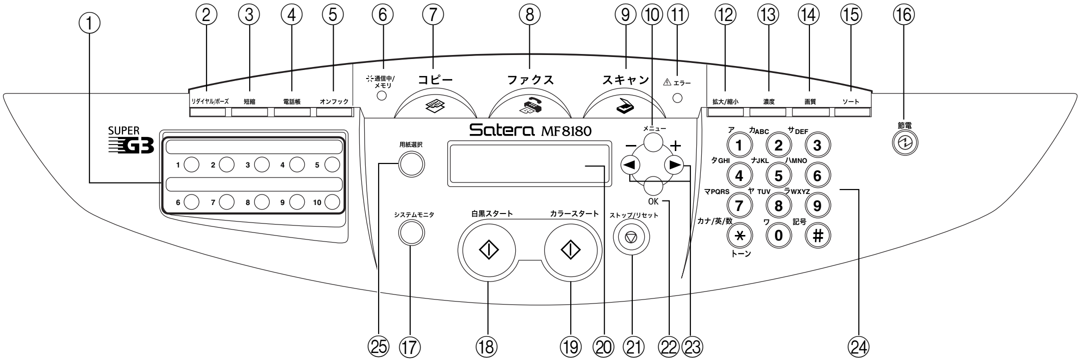
操作部とエンジン部を接続し、電源を供給しているコードです。

⑧ **ロック解除レバー**

定着ユニットの交換や、定着ユニット付近での用紙ジャムの除去するときに使用します。

操作パネル各部の名称とはたらき

ワンタッチダイヤルパネルを閉じた状態



① **ワンタッチダイヤル**

ワンタッチダイヤルキーに登録したファクス／電話番号にダイヤルするときに押します。

② **リダイヤル／ポーズ**

電話番号入力中はポーズ挿入、ファクス待機中はリダイヤルキーになります。

③ **短縮**

短縮ダイヤルを使うときに押します。

④ **電話帳**

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録した相手先を検索してダイヤルするときに押します。

⑤ **オンフック**

ファクス情報サービスなど、相手の応答を聞きながら送受信するときに押します。

⑥ **通信中／メモリランプ**

本製品が動作中は点滅、コピー動作中やメモリ内に文書があるときは点灯します。

⑦ **コピー**

コピーモードに切り替えます。

⑧ **ファクス**

ファクスモードに切り替えます。

⑨ **スキャン**

スキャンモードに切り替えます。

⑩ **メニュー**

設定メニューを表示します。

⑪ **エラーランプ**

本製品にトラブルが発生したときに点滅します。エラーの内容はディスプレイに表示されます。

⑫ **拡大／縮小**

コピーモードで拡大／縮小コピーをするとき押します。

⑬ **濃度**

コピーモード、ファクスモードのときに濃度を選択することができます。

⑭ **画質**

コピーモード、ファクスモードのときに画質を選ぶことができます。

⑮ **ソート**

コピーモードのときにソートを選ぶことができます。

⑯ **節電**

節電モードにするとき／解除するときに押します。節電モード中は、［節電］のみが点灯し、その他は消灯します。

⑰ **システムモニタ**

コピー、ファクス、プリント、レポート印刷などの処理状況をチェックするときに押します。

⑱ **白黒スタート**

ファクスの受信や送信を開始するときや、白黒コピーをするとき、スキャンを開始するときに押します。

⑲ **カラースタート**

カラーコピーをするときやカラースキャンをするときに押します。

⑳ **ディスプレイ**

コピー機能やファクス機能の基本画面、各種設定画面が表示されます。

㉑ **ストップ／リセット**

各種設定画面から待受画面に戻るときや、ファクスの送受信を止めるときに押します。

㉒ **OK**

登録や設定の内容を確認／確定するときに押します。

㉓ **［◀（－）］［▶（+）］**

項目を検索するときや設定内容を確認するときに押します。

㉔ **テンキー**

数字や文字を入力するときに押します。

㉕ **用紙選択**

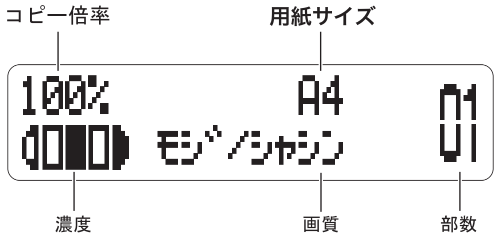
給紙場所をカセットと手差しトレイで切り替えます。

ディスプレイの表示について

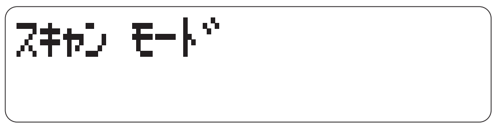
待受画面の表示は選択したモードに応じて異なります。

コピーモード、スキャンモードまたはファクスモードの待受画面は以下のようになります。

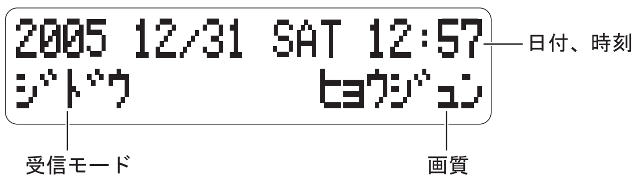
■ コピーモード



■ スキャンモード



■ ファクスモード



本製品は通常のファクス送受信のほか、画質を選択できる／ダイヤル登録などの便利な機能があります。ファクスについての詳細は、「ファクスガイド」を参照してください。

メモ
- 本製品の電源を入れると、ディスプレイには<シバラク　オマチクダサイ> と数分間表示され、コピーモードの待受画面に切り替わります。

節電モードについて

本製品には節電機能があります。一定時間、本製品を操作しなかった場合や、操作パネル上の［節電］を押した場合には、節電モードになります。

メモ
- 節電モードのときでもコンピュータからのデータ受信プリントやファクスの受信は可能です。
- 節電モードに移行するまでの時間は、3 ～ 30 分の範囲で変更できます。また、節電機能をオフにすることもできます。節電モードの詳しい設定は「タイマー設定」の「4. オートセツデン」（→ P.10-8）を参照してください。
- 次の状態のときは、節電機能ははたらきません。
  - ・コピー、ファクスまたはプリント中
  - ・ファクスの送受信中
  - ・読み取り中
  - ・コピーをメモリに保存中、ソートその他の機能が動作中、またはメモリランプの点灯中
  - ・紙づまりが発生した場合
  - ・エラーコードが表示され、エラーランプが点滅しているとき
  - ・カセットの用紙が切れたとき
  - ・<＊カートリッジ　モウスグ　コウカン>がディスプレイに表示されたとき
    ＊はカートリッジ色を表します。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー）
- 次の場合には自動的に節電モードが解除されます。
  - ・コンピュータからプリントジョブを受け取ったとき
  - ・コンピュータからスキャンジョブを受け取ったとき
  - ・ファクスを受信したとき
  - ・本製品に接続された外付け電話機のハンドセットを外したとき

節電モードを設定する

1 ［節電］を押します。

ディスプレイの表示が消え、節電キーが点灯します。

メモ
- 本製品が節電モードから復帰した直後、またはコピー終了直後は、15 秒以上間隔をおいてから［節電］を押してください。

節電モードを解除する

1 **［節電］を押します。**

節電キーが消灯し、ディスプレイには待受画面が表示されます。

メモ
- 本製品は通常すぐに節電モードから復帰します。ただし室温や周囲の環境などによって約15 〜 180 秒かかる場合があります。

用紙の取り扱い

2
CHAPTER

機能に合わせた用紙の選択とセット方法、および補給方法を説明します。

使用できる用紙について

快適なプリント結果を得ていただくため、当社推奨用紙のご使用をお勧めします。市販されている用紙の種類によっては、本製品での使用に適さない場合があります。用紙に関するご質問は、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターへお問い合わせください。

用紙の保管

規格に合った用紙でも、保管が悪いと変質してしまうことがあります。変質した用紙は給紙不良や紙づまりの原因になったり、印字品質の低下を招くことがあります。

用紙を保管するときは、次のことに気をつけてください。

重要
- 用紙は特に水分を嫌いますので、湿らせないようにしてください。
- 用紙の包装紙は、湿気を防ぐはたらきをします。使用するまでは包装したままにしておいてください。また、使用しない用紙は包装紙に包んでおいてください。
- 平らな場所に保管してください。
- 床面は一般的に湿度が高いので、床に用紙を直接置かないでください。
- 用紙がカールしたり、折り目がつくような置き方をしないでください。
- 用紙を立てて保管したり、あまり多く積み重ねないでください。
- 直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しないでください。
- 保管場所と使用する場所の温度に著しく差がある場合は、包装したままで 1 日ほど使用する場所に置いて、室温に慣らしてから使用してください。急激な温度や湿度の変化は、用紙がカールしたり、しわの原因になります。

プリントの保管について

本製品でプリントした印刷物の取り扱いや保管については、次の点に気をつけてください。

重要
- クリアホルダなど PVC 素材（ポリ塩化ビニール）のものといっしょに保存しないでください。トナーが溶けて用紙と PVC 素材が貼り付いてしまうことがあります。
- のり付けするときは、必ず不溶性の接着剤をご使用ください。溶解性の接着剤を使用すると、トナーが溶けてしまいます。接着剤をご使用になる場合は、不要になった印刷物で試してから使用してください。
- プリントを重ねる場合は、完全に乾いていることを確認してください。乾ききらないうちに重ねると、トナーが溶けることがあります。
- 平らな場所に保管してください。折れたりしわになったりすると、トナーがはがれることがあります。
- 高温の場所に保管しないでください。トナーが溶けて色がにじむことがあります。
- 長期間（2 年以上）保管する場合は、バインダーなどに入れて保管してください。（長時間保管すると、用紙の変色によって、プリントが変色したように見える場合があります。）

2

用紙の取り扱い

■ 使用できない用紙

次の種類の用紙にはプリントしないでください。紙づまりが発生する場合があります。

- 大きくカールした用紙やしわのある用紙
- カラーコピー機／プリンタ用の OHP フィルム
- 片面がすでにデジタルカラーコピー機でプリントされている用紙（裏面にはプリントしないでください）
- 片面がすでに熱転写プリンタでプリントされている用紙（裏面にはプリントしないでください）

■ 使用できる用紙

用紙	カセット	手差し
用紙サイズ	A4、B5、A5、エグゼクティブ、レター、リーガル	A4、B5、A5、ISO-C5、洋形 4 号、洋形 2 号、ハガキ、往復ハガキ、レター、リーガル
重量	60 ～ 105 g/m^2	60 ～ 163 g/m^2
紙種	普通紙	普通紙、厚紙、OHP フィルム

重要
- カラー OHP フィルムにはプリントしないでください。本製品が正常に機能しないことがあります。OHP フィルムはモノクロ OHP フィルムのみ対応しています。

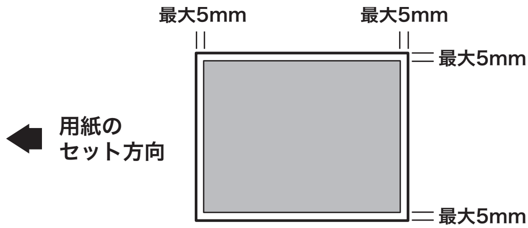
メモ
- 用紙サイズ、紙種、指定枚数によって、通常よりもプリント速度が遅くなる場合があります。
- 用紙の種類によっては、カセットや手差しトレイにきちんとセットできない場合があります。

プリント範囲

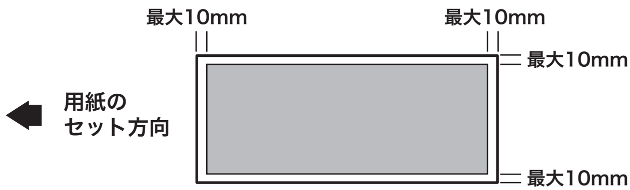
プリント推奨領域は以下の淡色部分です。

メモ
- この領域の外にあるイメージは、プリントされなかったり、きれいにプリントされない可能性があります。

■ 用紙



■ 封筒



用紙をセットする

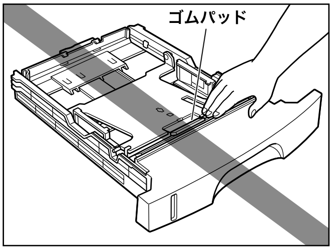
カセットおよび手差しトレイへの用紙のセット方法を説明します。

注意
- 用紙をセットする際は、用紙の端で手を切らないように注意してください。
- 手差しトレイをご使用にならないときは、確実に閉めておいてください。

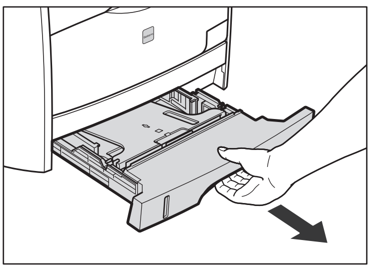
メモ
- カセットには、最大で約 250 枚の用紙（60g/m^2）をセットできます。

用紙をカセットにセットする

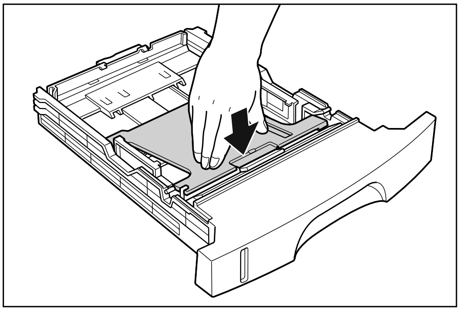
- カセットの黒いゴムパッドには触れないでください。給紙不良の原因になります。



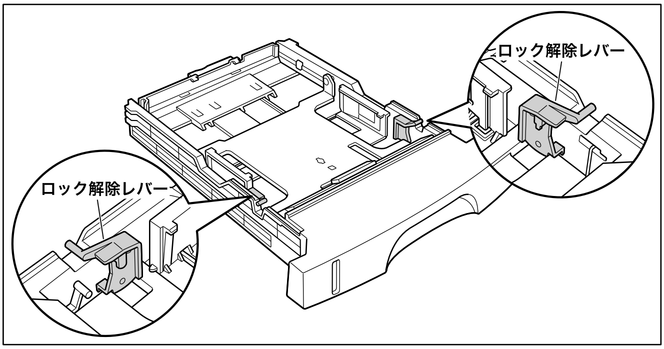
1 カセットを引き出します。



2 カセットのプレートを押して、ロックします。

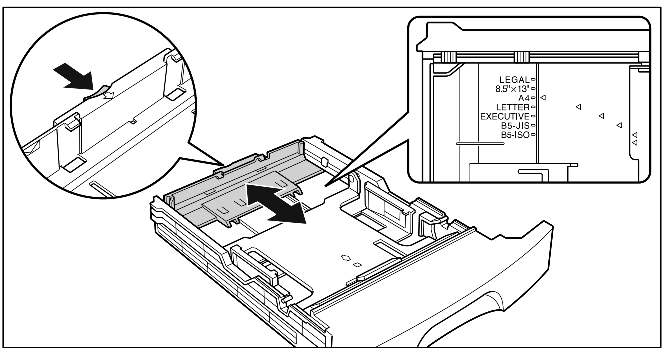


⚠注意
- カセットのプレートがロックされているときは、カセットの左右にあるロック解除レバーには触れないでください。ロックが解除されてプレートが勢いよく上がり、けがの原因になることがあります。



3 用紙ガイドの後ろ側のロック解除レバーをつまみながら、セットする用紙サイズの位置に合わせて用紙ガイドを移動します。

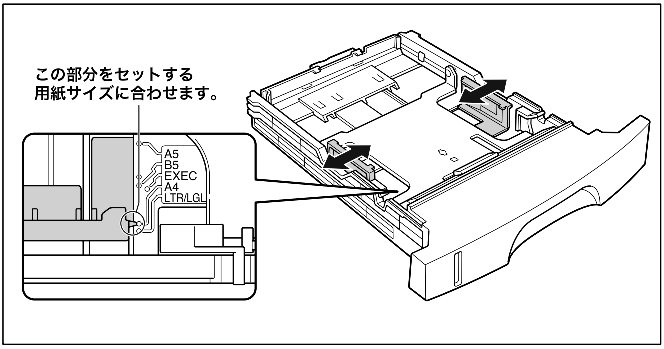
用紙ガイドに記載されている用紙サイズと◁を合わせます。



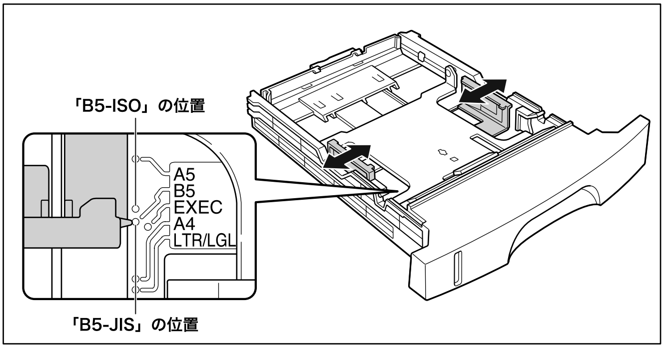
重要
- B5 サイズ（182mm × 257mm）を使用する場合は、用紙ガイドを「B5-JIS」に合わせてください。「B5-ISO」、「8.5" × 13"」の位置は使用できません。

4 側面の用紙ガイドをセットする用紙サイズの位置に合わせます。

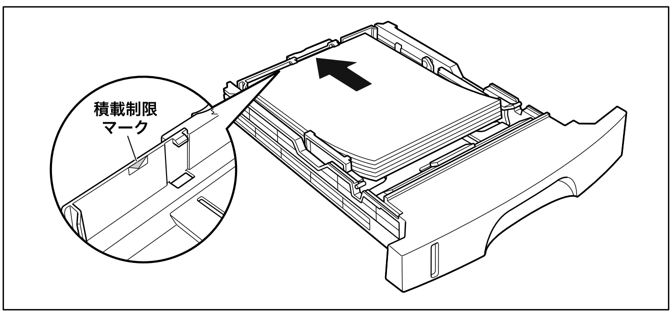
用紙ガイドを動かすときは、左右の用紙ガイドを持ってください。



重要 ● B5 サイズ（182mm × 257mm）を使用する場合は、用紙ガイドを図の位置（「B5-JIS」の位置）に合わせてください。「B5-ISO」の位置は使用できません。



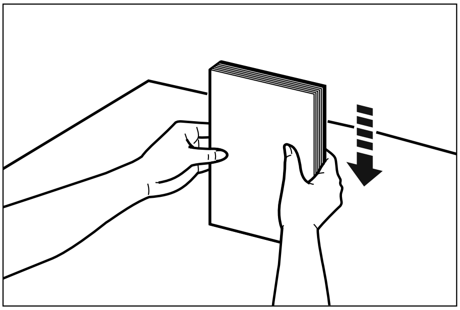
5 用紙の後端を用紙ガイドに合わせてセットします。



注意 ● 用紙を補給するときは、用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

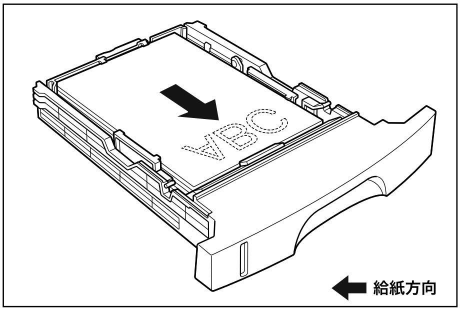
重要 ● 必ず用紙ガイドがセットする用紙サイズに合っているかを確認してください。用紙ガイドがセットする用紙サイズに合っていないと、給紙不良の原因になります。

- カセットにセットできる用紙の枚数は、普通紙で約 250 枚（60g/m^2 の用紙）です。絶対に用紙ガイドの積載制限マークを超えない範囲でセットしてください。積載制限マークを超す量の用紙をセットすると、給紙不良の原因となります。
- 裁断状態が悪い用紙を使用すると、重送しやすくなる場合があります。そのような場合は、用紙を平らな場所でよくそろえてからセットしてください。



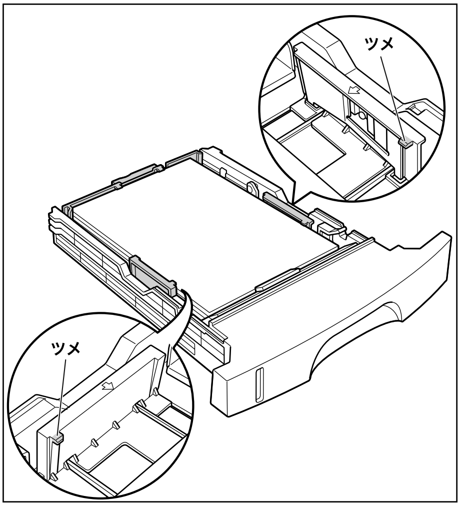
メモ

- レターヘッドやロゴ付きの用紙などにプリントする場合は、用紙の表面（プリントする面）を下に向け、用紙の上端が手前になるようにセットします。



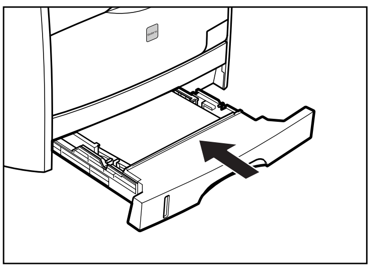
6 用紙が用紙ガイドの側面にあるツメの下に入るように、用紙の左右を押さえます。

ツメと用紙の間に十分なすき間があることを確認してください。すき間が十分ない場合は、用紙を少し減らします。



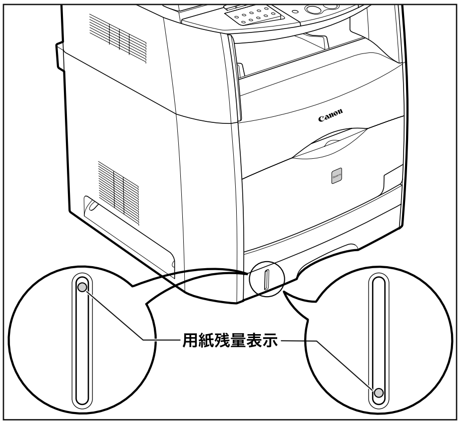
7 カセットを本製品にセットします。

カセット前面が本製品の前面とそろうまで、しっかりと奥まで押し込みます。



● 用紙残量表示について

カセットには、セットされている用紙の量を示す用紙残量表示があります。用紙がいっぱいまで入っていると、用紙残量表示が上がります。用紙が減るに従って表示が下がってきますので、用紙の残量を知る目安になります。



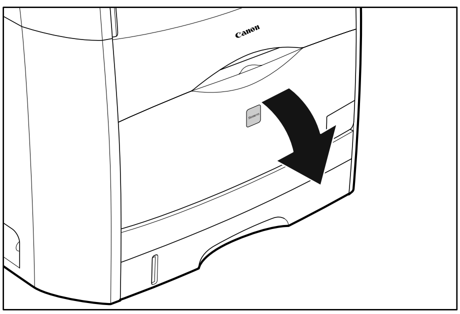
メモ
- カセットに用紙がなくなると、ディスプレイに<ヨウシガ　アリマセン>と表示されます。新しい用紙をセットしてください。

手差しトレイの開けかた

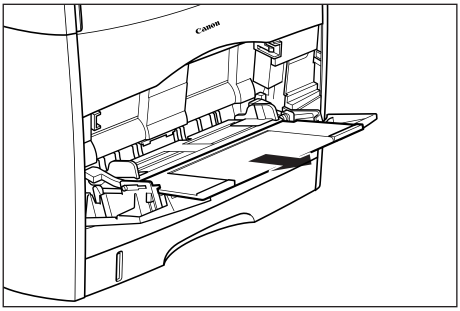
手差しトレイは、次の手順で開けます。

1 手差しトレイを開けます。

手差しトレイは中央の取っ手を持って開けます。

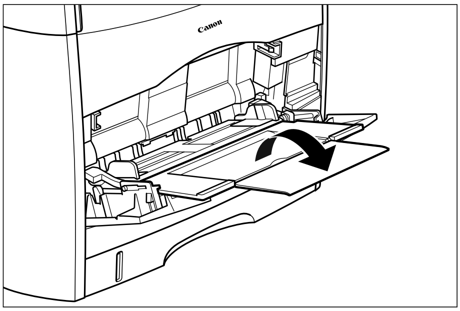


2 補助トレイを引き出します。



重要 ●手差しトレイに用紙をセットするときは、必ず補助トレイを引き出してください。

3 A4などの長いサイズの用紙をセットするときは、延長トレイを開けます。

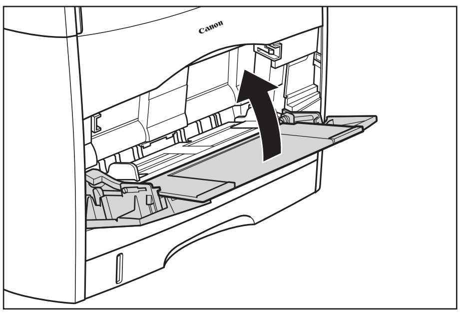


手差しトレイの閉めかた

手差しトレイは、次の手順で閉めます。手差しトレイを使わないときは、閉めておいてください。

1 **セットされている用紙を取り除き、延長トレイを閉め、補助トレイをしまいます。**

2 **手差しトレイを閉めます。**



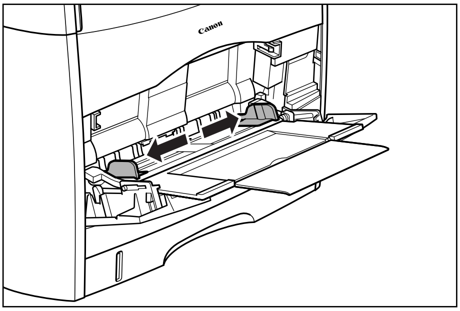
手差しトレイに用紙をセットする

カセットにセットされている用紙と種類やサイズが異なる用紙は、手差しトレイにセットしてプリントします。

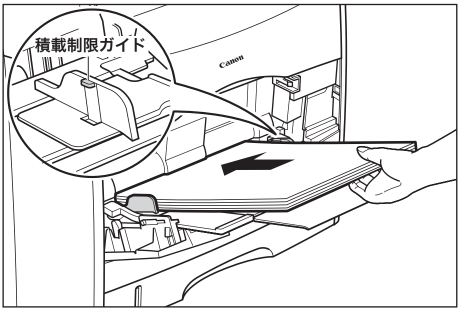
1 **手差しトレイを開け、補助トレイを引き出します。**

手差しトレイの開けかたは、「手差しトレイの開けかた」（→ P.2-9）を参照してください。

2 用紙ガイドの幅を紙幅より少し広めにセットします。



3 用紙のプリント面を上にして、奥に当たるまでゆっくりと差し込みます。

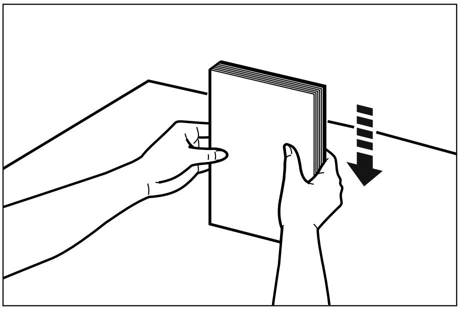


用紙束は積載制限ガイドの下を通してください。

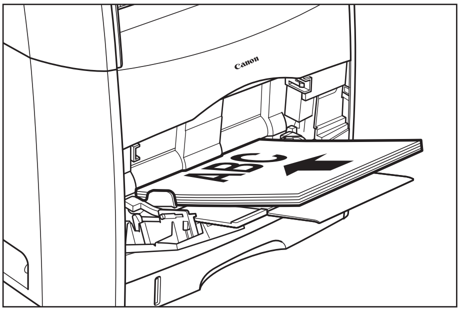
注意
- 用紙を補給するときは、用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

重要
- 手差しトレイにセットできる枚数は、用紙の種類によって異なります。詳しくは、「使用できる用紙」（→ P.2-2）を参照してください。
- 積載制限ガイドと用紙との間に十分なすき間があることを確認してください。すき間がない場合は、用紙を少し減らします。
- 用紙を斜めにセットしないでください。
- 用紙の後端が不揃いになっていると、給紙不良や紙づまりの原因になります。
- 用紙の先端が折れ曲がっていたり、カールしている場合は、端を伸ばしてからセットしてください。

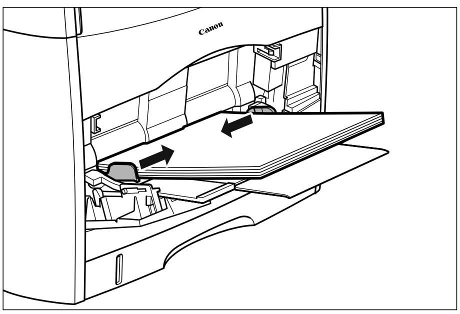
- 裁断状態の悪い用紙を使用すると、重送しやすくなる場合があります。そのような場合は、用紙を平らな場所で良くそろえてからセットしてください。



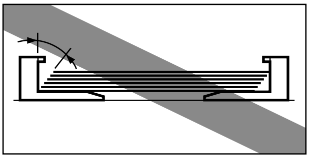
メモ
- レターヘッドやロゴ付きの用紙などにプリントする場合は、用紙の表面（プリントする面）を上に向け、用紙の上端が奥になるようにセットします。

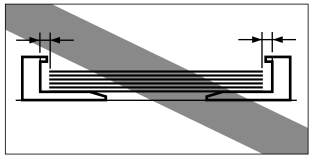


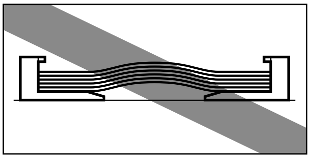
4 用紙ガイドをスライドさせて、用紙の左右にぴったりと合わせます。



重要
- 必ず用紙ガイドを用紙の幅に合わせてください。ゆるすぎたりきつすぎたりすると、正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります







- プリント中は、手差しトレイの用紙に触れたり、引き抜いたりしないでください。動作異常の原因になります。

2
用紙の取り扱い

封筒を手差しトレイにセットする

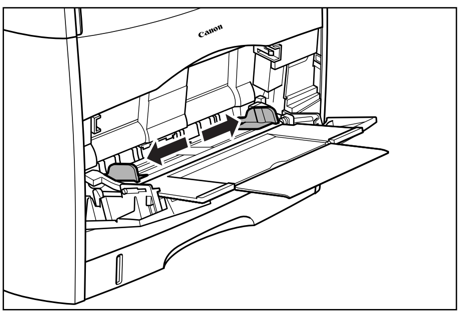
封筒にコピーまたはプリントする場合は、手差しトレイを使用します。

重要
- 推奨封筒は洋形 4 号、洋形 2 号、ISO-C5 のみです。他の封筒を使用すると、きちんと印刷されない場合があります。

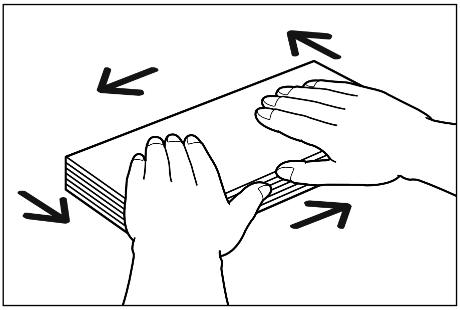
1 手差しトレイを開き、補助トレイを引き出します。

手差しトレイの開けかたは、「手差しトレイの開けかた」（→ P.2-9）を参照してください。

2 用紙ガイドの幅を封筒の幅より少し広めにセットします。

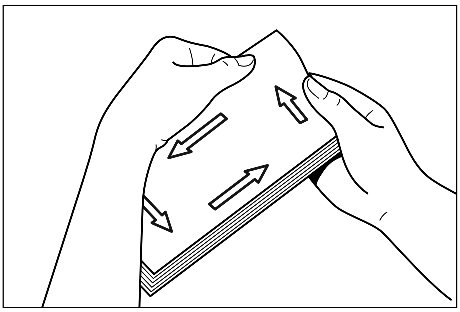


3 封筒の束を平らな場所へ置き、上面を押して空気を抜いてから、縁の折り目をきちんと付けて、平らにします。

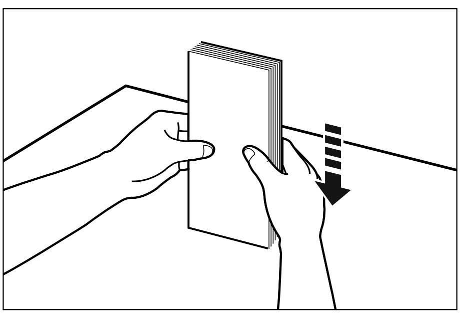


⚠注意 ● 封筒の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

4 封筒の四隅の固い部分を図のようにほぐし、反り返りを平らに直します。

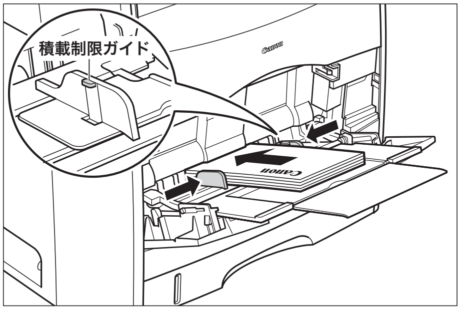


5 封筒を平らな場所でそろえます。



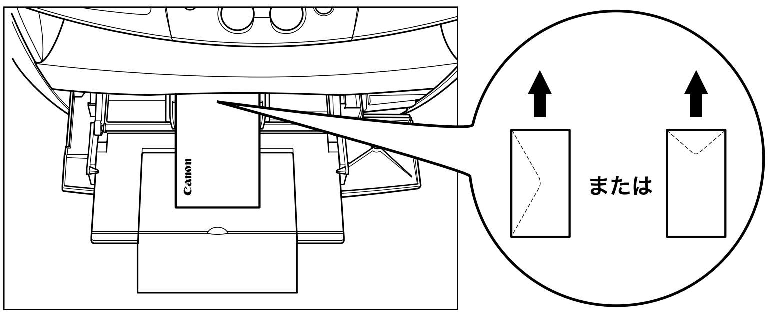
6 封筒の宛名を書く面を上に、ふたを左側にして、奥に当たるまでゆっくりと差し込みます。

封筒の束は積載制限ガイドの下を通してください。



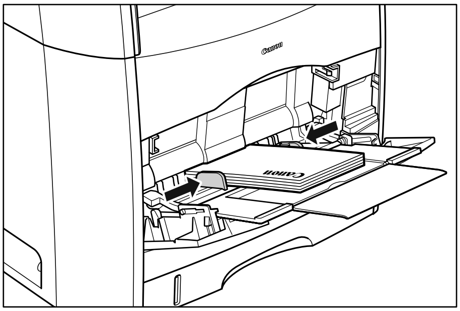
⚠注意 ● 封筒を補給するときは、封筒の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

重要
- 封筒は、約 10 枚までセットできます。
- 積載制限ガイドと封筒との間に十分なすき間があることを確認してください。すき間がない場合は、封筒を少し減らします。
- 封筒は、裏面（貼り合わせのある面）にはプリントできません。
- ふたが左側になるようにセットしてください。



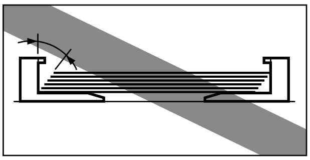
- 縦長の封筒にプリントするときは、ふたを閉じて、封筒上部から給紙される向きにセットしてください。
- 封筒を斜めにセットしないでください。
- 封筒の後端が不揃いになっていると、給紙不良や紙づまりの原因になります。

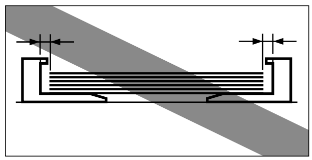
7 用紙ガイドをスライドさせて、封筒の左右にぴったりと合わせます。

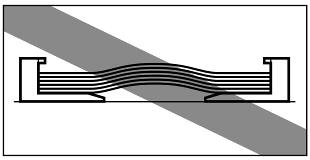


重要

- 必ず用紙ガイドを封筒の幅に合わせてください。ゆるすぎたりきつすぎたりすると、正しく送られなかったり、紙づまりの原因になります。





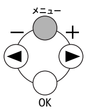


- プリント中は、手差しトレイの封筒に触れたり、引き抜いたりしないでください。動作異常の原因になります。

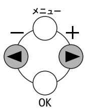
用紙のサイズと種類を指定する（カセット、手差しトレイに共通）

用紙のサイズを指定する

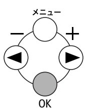
お買い求めのとき、用紙のサイズは A4 に設定されています。カセットや手差しトレイに設定とは異なるサイズの用紙をセットしたときは、その都度、用紙の設定をしてください。



1 **[メニュー] を押します。**



2 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜1.ヨウシ　セッテイ＞を選択し、[OK]を押します。**



3 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜1.カセット＞または＜2.テザシトレイ＞を選択し、[OK] を押します。**

4 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜1.ヨウシ　サイズ＞を選択し、[OK]を押します。**

5 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して用紙のサイズを選択し、[OK] を押します。**

次のサイズから選択できます

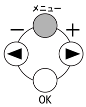
・カセットの場合は、A4、B5、A5、エグゼクティブ、レター、リーガルが選択できます。
・手差しトレイの場合は、A4、B5、A5、ISO-C5、洋形 4 号、洋形 2 号、ハガキ、往復ハガキ、レター、リーガルが選択できます。

メモ
- 封筒を使用するときは ISO-C5、洋形 4 号、または洋形 2 号を選択してください。

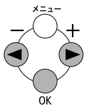
6 **[ストップ／リセット] を押して待受画面に戻ります。**

用紙の種類を指定する

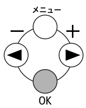
お買い求めのとき、用紙の種類は＜フツウシ＞に設定されています。普通紙以外の用紙を使用する場合は、手差しトレイに用紙をセットし、次の手順で設定してください。
設定しないと、プリントの画質が低下したり、正しくプリントされないことがあります。



1 [メニュー] を押します。



2 [◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜1.ヨウシ　セッテイ＞を選択し、[OK]を押します。



3 [◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜2.テザシトレイ＞を選択し、[OK]を押します。

4 [◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜2.カミシュ＞を選択し、[OK]を押します。

5 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して用紙の種類を選択し、[OK] を押します。

次の種類から選択できます。

・普通紙（60 ～ 105 g/m^2）：＜フツウシ＞
・厚紙（106 ～ 163 g/m^2）：＜アツガミ＞
・OHP フィルム：＜ OHP フィルム＞

メモ
- 封筒、ハガキ、ラベルは＜アツガミ＞を選択してください。
- 「用紙のサイズを指定する」(→ P.2-18) の手順３で＜ 1. カセット＞を選択した場合は、普通紙または厚紙しか選択できません。

6 [ストップ／リセット] を押して待受画面に戻ります。

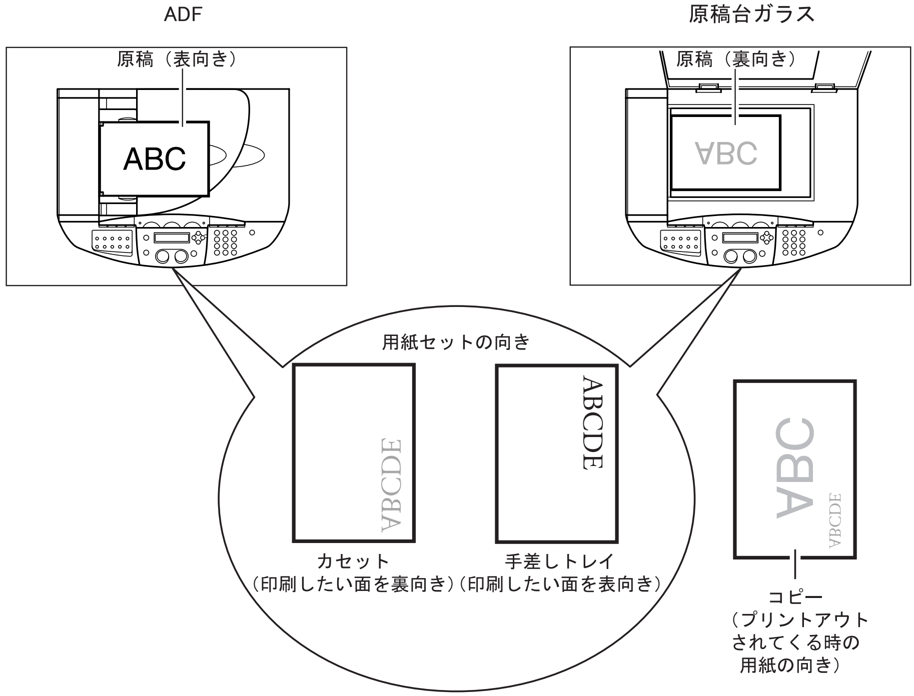
メモ
- カセットでは普通紙のみご利用いただけます。用紙設定は出来ません。厚紙、OHP フィルム、封筒をセットする場合は手差しトレイをご利用のうえ用紙設定を行ってください。

原稿および用紙のセット方向

ADF に原稿をセットする場合の原稿の方向と、原稿台ガラスにセットする原稿の方向は次のとおりです。

ADF に原稿をセットする場合：原稿を表向きにセット

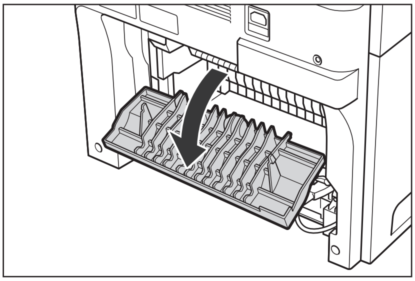
原稿台ガラスに原稿をセットする場合：原稿を裏向きにセット



排紙エリアの選択

フェイスダウン排紙エリアでは、プリント面が下向きの状態でプリントした用紙が排紙トレイに排出されます。フェイスアップ排紙エリアには、プリント面が上向きの状態でプリントした用紙が排出されます。フェイスアップカバーを開閉して、目的に合わせてプリント面を選択してください。

フェイスアップカバーを開くと、プリント面が上向きの状態でプリントした用紙が排出され、フェイスアップカバーを閉じると、プリント面が下向きの状態でプリントした用紙が排出されます。



重要 • コピーおよびプリント中はフェイスアップカバーを開閉しないでください。

紙種と排紙エリア

紙種および目的に合わせて、最適な排紙エリアを選択してください。

紙種	排紙エリア	出力枚数
普通紙	フェイスアップ	1 枚
	フェイスダウン	80 〜 100 枚（60 〜 105g/m^2）
再生紙	フェイスアップ	1 枚
	フェイスダウン	80 〜 100 枚（60 〜 105g/m^2）
厚紙	フェイスアップ	1 枚
	フェイスダウン	約 20 枚（106 〜 163g/m^2）
OHP フィルム	フェイスアップ	1 枚
	フェイスダウン	10 枚*
ラベル	フェイスアップ	1 枚
封筒	フェイスアップ	1 枚
	フェイスダウン	10 枚*

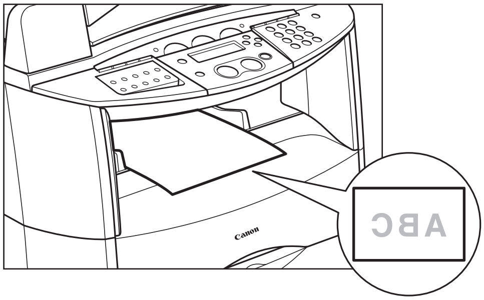
紙種	排紙エリア	出力枚数
官製ハガキ	フェイスアップ	1 枚
	フェイスダウン	10 枚*

＊ カールしやすいので、フェイスアップ排紙エリアをお使いになることをお勧めします。

フェイスダウン排紙エリア

プリント面が下向きの状態でプリントした用紙が本体前面の排紙トレイに排出されます。用紙はプリント順に積み重ねられます。

フェイスダウン排紙エリアを使用するときは、フェイスアップカバーを閉じてください。



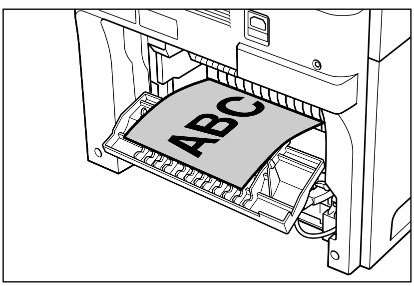
重要
- 排紙トレイに排出された用紙を押し戻さないでください。紙づまりが発生する場合があります。
- 排紙トレイには用紙以外のものを乗せないでください。紙づまりが発生する場合があります。

フェイスアップ排紙エリア

プリント面が上向きの状態でプリントした用紙が本体の裏側に排出されます。用紙が本体からまっすぐに排出されるため、カールしやすい OHP フィルム、封筒、ハガキやラベルのプリントに便利です。

フェイスアップカバーを開いてください。

- 排出された用紙を 1 枚ずつ取り除きます。



重要

- 無理に用紙を引き出さないでください。
- 本体にはフェイスアップ排紙トレイは装着されていません。排紙された用紙は手で取り除いてください。
- 紙づまりを防ぐため、排紙エリアの手前にはものを置かないでください。

原稿の取り扱い

3
CHAPTER

原稿についてと、原稿台ガラスまたは ADF に原稿をセットする方法を説明します。

原稿について

原稿台ガラスまたは ADF にセットできる原稿は次のとおりです。

原稿	原稿台ガラス	ADF
原稿の種類	普通紙、厚い書類、写真、小さい原稿（名刺など）、特殊用紙（トレーシングペーパ*1、OHP フィルム*1 など）、書籍	普通紙（同一サイズ・厚さ・重量の複数ページの原稿、または 1 ページの原稿）
原稿サイズ（ヨコ X タテ）	［最大］216mm × 297mm	［最大］216mm × 356mm（リーガル） ［最小］148mm × 105mm（A6）
枚数	1 枚	最大 30 枚（80g/m^2）、またはカールした用紙を含め厚さ 8mm 以内の重ねた原稿
重量	最大 2kg	60 ～ 163g/m^2

*1　トレーシングペーパや OHP フィルムのような透過原稿の場合は、原稿の上に白色の普通紙を重ねてセットしてください。

メモ
- 小さい原稿をコピーする場合、通常よりもコピー速度が遅くなることがあります。
- 原稿の厚さは、新聞紙 0.05 ～ 0.06 mm、上質紙 0.10 mm、官製はがき 0.23 mm を目安にしてください。

セットできない原稿

- のり、インク、修正液が完全に乾いているか確認してから、原稿を原稿台ガラスまたは ADF にセットしてください。
- ホチキス、クリップなどの留め具をすべて取り外してから、原稿を ADF にセットしてください。
- ADF の紙づまりを防ぐため、次の用紙を使用しないでください。
  ・しわや折り目のある用紙
  ・破れている用紙
  ・とじ穴が開けられた用紙
  ・カーボン紙、裏がカーボン紙になっている原稿
  ・コート紙
  ・薄質半透明紙、薄紙

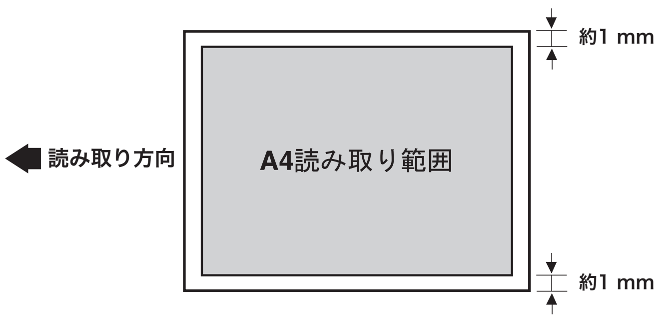
3

原稿の取り扱い

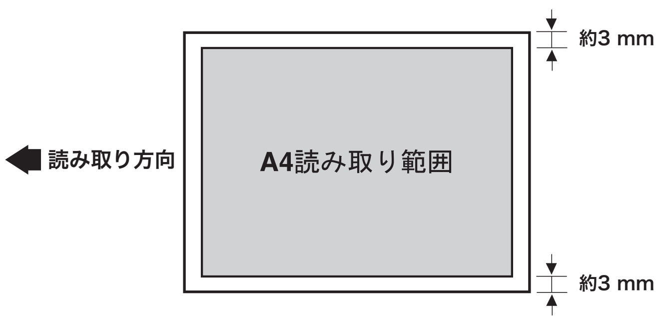
読み取り可能な範囲

本製品の読み取り可能範囲は次の図のとおりです。原稿の文字や画像がこの余白にはみ出ていないか確認してください。

■ ファクス時の読み取り可能範囲



■ コピー時の読み取り可能範囲



原稿をセットする

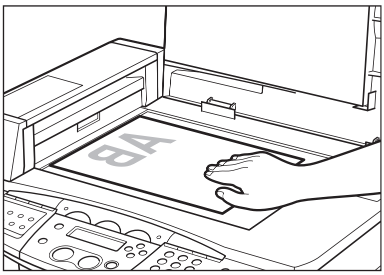
原稿は、原稿台ガラスまたは ADF にセットして読み取ります。どちらを使うかは、原稿のサイズと種類によって異なります。詳細は、「原稿について」（→ P.3-1）を参照してください。

原稿台ガラスに原稿をセットする

1 **原稿台ガラスカバーを開きます。**

2 **読み取る側を下にして、原稿を原稿台ガラスにセットします。**

適切な用紙サイズの印に原稿を合わせます。

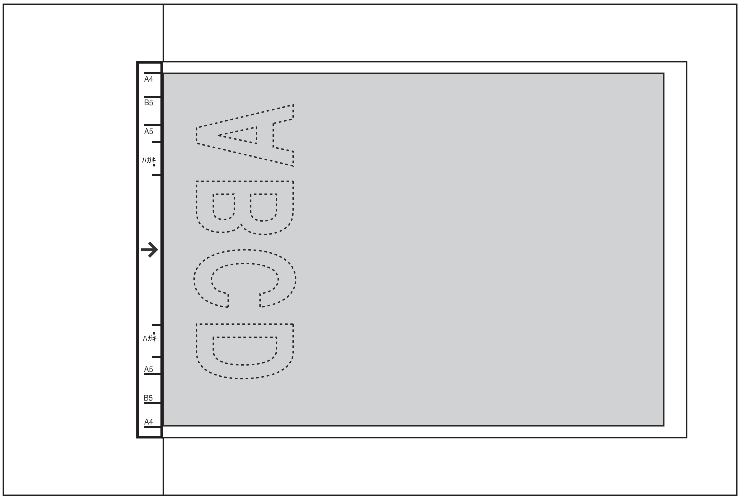


● **原稿の位置合わせ**

原稿台ガラスの左端にある用紙サイズの印を使って、原稿の位置合わせをします。

・標準サイズの用紙（A4、B5 など）の場合は、対応する印に原稿を合わせてください。
・原稿のサイズが分からない場合や、対応する印がない場合は、原稿の中心を→印に合わせてください。

A4 サイズの原稿をセットする場合の位置は次のとおりです。



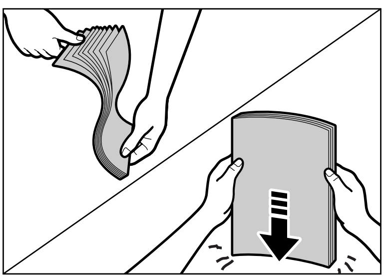
3 **原稿台ガラスカバーをゆっくり閉じます。**

原稿を読み取る準備が完了しました。

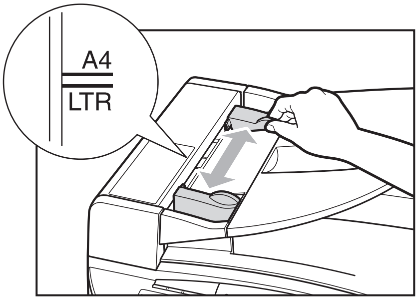
ADF に原稿をセットする

メモ ● 原稿台ガラスに原稿がセットされていないことを確認してください。

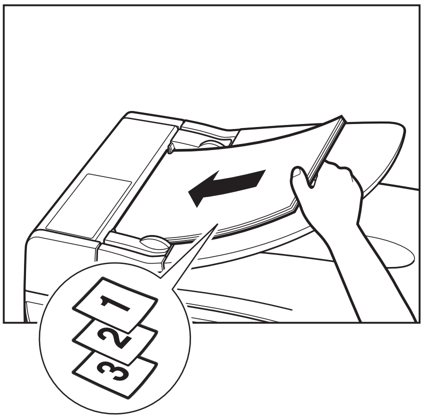
1 **本体にセットする原稿束を持って端をさばいてから、平らな場所で原稿の縁をそろえます。**



2 スライドガイドを調整し、原稿の幅に合わせます。



3 読み取る面を上にして、ADF に原稿をセットします。

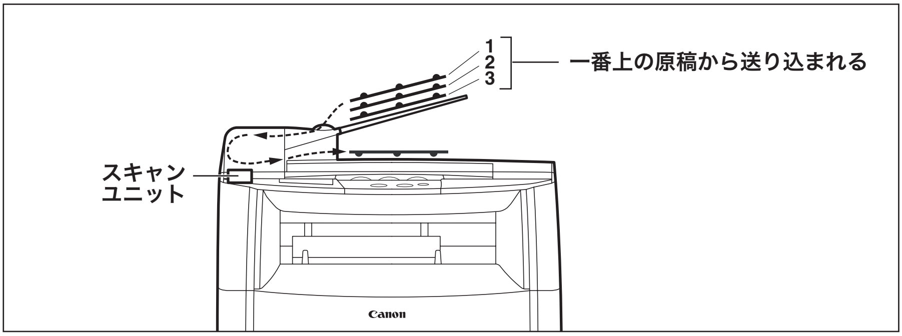


ディスプレイに<ゲンコウガ　セット　サレマシタ>というメッセージが表示されます。

メモ

- 複数ページの原稿をセットした場合、原稿は上（先頭ページ）から順に 1 枚ずつ送り込まれます。
- すべての原稿が読み取られてから新しい作業を行ってください。原稿読み取り中は、キャンセル以外の操作は出来ません。
- ADF には、A4 サイズの原稿 30 枚（$80g/m^2$）、またはカールした用紙を含め厚さ 8mm の束までセットできます（保証値）。（温度 15 ～ 27 ˚C、湿度 10 ～ 80% の場合の参考値）。これ以上の枚数をセットすると、紙づまりが発生する場合があります。
- 排紙口がふさがれると、原稿を破損するおそれがありますので、原稿排紙部に物などを置かないでください。
- 読み込み中にセットした原稿を抜き取ったり、追加したりしないでください。
- 読み込みが終わった原稿は、順次原稿排紙トレイから取り除いてください。紙づまりの原因になります。

ADF の読み取り経路



メモ

- ADF に原稿をセットすると、スキャンユニットが上図の位置に移動し、その位置で原稿を読み取ります。
- 原稿台ガラスに原稿をセットすると、スキャンユニットは移動しながら原稿を読み取ります。

プリンタとして使う

4
CHAPTER

付属の CD-ROM に入っているプリンタドライバを使って、本製品をプリンタとして使います。

プリントする前に

本製品でプリントする前に、付属のプリンタドライバをあらかじめコンピュータにインストールしておいてください。

- インストールが終了していない場合は、「ソフトウェアガイド」の「第 1 章　インストールする」を参照してインストールしてください。

複数のプリンタを、ネットワーク経由またはコンピュータに接続して使用する場合、本製品を通常使うプリンタとして設定したい場合は、まずプリンタの設定を確認してください。

- アプリケーションの [印刷] 画面を開き、[プリンタ名] に本製品が表示されていれば、本製品が通常使うプリンタに設定されています。詳しくは「原稿をプリントする」（→ P.4-3）を参照してください。

本製品が通常使うプリンタに設定されていない場合は、以下の手順に従ってください。

メモ
- 本製品のプリンタドライバは［Canon MF8100 Series］と表示されます。

1 **[プリンタとFAX]（Windows 98/Me/2000では[プリンタ]）フォルダを開きます。**

● **Windows XP/Server 2003 の場合：**

[スタート] メニューの [コントロールパネル] を開き、[プリンタと FAX] を選択します。

● **Windows 98/Me/2000 の場合：**

[スタート] メニューの [設定] を開き、[プリンタ] を選択します。

2 本製品のプリンタアイコンをクリックします。

3 [ファイル]メニューから、[通常使うプリンタに設定]をクリックします。

原稿をプリントする

原稿をプリントする一般的な方法は以下のとおりです。

1 **カセットまたは手差しトレイに用紙をセットします。**

用紙のセット方法については、「用紙をセットする」（→ P.2-4）を参照してください。

2 **アプリケーションから原稿を開きます。**

3 **プリントコマンドを選択します。**

[ファイル] メニューから、[印刷] を選択します。

[印刷] 画面が表示されます。

4 **[プリンタの選択] リストボックスまたは [印刷] 画面の [プリンタ名 (名前)］ プルダウンリストから、本製品を選択します。**

メモ
- 本製品のプリンタドライバは［Canon MF8100 Series］と表示されます。

5 **[プロパティ] または [詳細設定] をクリックします。**

メモ
- アプリケーションによっては、使用するプリンタを［印刷］画面の［全般］タブで選択してから、[プロパティ] や [詳細設定] に相当するタブを選択してプリントの設定をします (Windows 2000 のみ)。

6 **必要に応じて詳細を設定し、[OK] をクリックします。**

プリントの詳細設定については、「ソフトウェアガイド」を参照してください。

7 **[印刷] または [OK] をクリックします。**

プリントが始まります。

メモ
- プリントを取り消すには、[キャンセル] または［閉じる］をクリックします。

プリントを中止する

1 **[プリンタと FAX] (Windows 98/Me/2000 では [プリンタ]) フォルダを開きます。**

● **Windows XP/Server 2003 の場合：**

[スタート] メニューの [コントロールパネル] を開き、[プリンタと FAX] を選択します。

● **Windows 98/Me/2000 の場合：**

[スタート] メニューの [設定] を開き、[プリンタ] を選択します。

2 **本製品のプリンタアイコンをダブルクリックします。**

メモ
- 本製品のプリンタドライバは［Canon MF8100 Series］と表示されます。

3 **プリントを中止したいプリントジョブを右クリックし、[キャンセル]をクリックします。**

メモ
- 本体の操作パネルの［システムモニタ］を使ってプリントジョブを中止することもできます。(→ P.7-4「PC プリントジョブを確認／削除する」)

さらに詳しい使いかたについて

プリント機能についての詳細は、「ソフトウェアガイド」の「第２章　印刷する」を参照してください。

コピーするには

5
CHAPTER

コピーの基本操作、画質向上のための設定、拡大／縮小コピー、その他のコピー機能などについて説明します。

コピーできる原稿

コピーできる原稿の種類や条件、セット方法の詳細については、「第３章　原稿の取り扱い」（→ P.3-1）を参照してください。

重要
- ADF で原稿をスキャンした場合、鮮明さに欠ける場合があります。より鮮明な画質をお求めの際は、原稿台ガラスに原稿を置いてスキャンしてください。

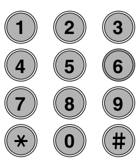
コピーをとる

メモ
- A4 よりも小さいサイズの用紙で連続コピーをした後に A4 サイズの用紙でコピーを取ると、コピーが汚れる場合があります。コピーの汚れを防ぐため、1 分程度待ってからコピーしてください。
- 小さいサイズの用紙、厚紙などの用紙にコピーする場合は、コピー速度が通常よりも若干遅くなります。
  ・用紙の種類をメニューで選択してください。(→ P.2-19「用紙の種類を指定する」)
- 熱転写プリンタで印刷した用紙にコピーしないでください。コピーが汚れたり、紙づまりが発生したりすることがあります。熱転写プリンタと本製品とを併用する場合は、本製品で先にコピーしてください。
- OHP フィルムにコピーすると、カールしたりフィルム同士が離れにくくなるので、フェイスアップ排紙エリアを使用するか、1 枚づつよくさばいてから使用してください。
- 手差しトレイを使用する場合は、[用紙選択] を押して [◀ (-)] または [▶ (+)] で＜テザシトレイ＞に切り替えてください。

1 **原稿台ガラスまたは ADF に原稿をセットします。**

原稿のセット方法に関する詳細については、「原稿をセットする」(→ P.3-3)を参照してください。

2 **[コピー] を押します。**

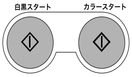


3 **[テンキー] でコピー部数を入力します。**

最大 99 部まで設定できます。

4 **原稿に合わせて設定を行います。**

・用紙サイズと用紙の種類を設定します。(→ P.2-19「用紙の種類を指定する」)
・読み取り解像度を選択する場合は、[画質] を押します。(→ P.5-6「画質を調節する」)
・読み取り濃度を選択する場合は、[濃度] を押します。(→ P.5-6「濃度を調節する」)
・コピー倍率を選択する場合は、[拡大／縮小] を押します。(→ P.5-4「コピー倍率を設定する」)



5 [白黒スタート] または [カラースタート] を押します。

メモ

- コピーを中止する場合は、[ストップ／リセット] を押してからディスプレイの指示に従って操作してください。
- [システムモニタ] を押してもコピーを中止することができます。(→ P.7-3「コピージョブを確認／削除する」)
- ADF を使って読み込みをしているときにジョブを中止すると ADF に原稿がつまることがあります。原稿がつまったときは、ディスプレイには<ゲンコウヲ　テンケン　シテクダサイ>、または<ゲンコウガナガスギマス>というメッセージが表示されます。(→ P.9-23「つまった原稿を ADF から取り除く」)

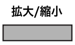
重要

- 電源投入後すぐにコピーをとると、画質が粗くなる場合があります。
  電源投入後は、本体の稼動音がなくなってからコピーをお取りください。
- 連続して［白黒スタート］または［カラースタート］を押さないでください。スキャン表示のまま停止することがあります。

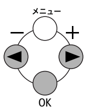
コピー倍率を設定する

原稿を原稿台ガラスにセットする場合、定形変倍を選択するか、直接コピー倍率を入力して、拡大／縮小コピーを取ることができます。

定形変倍を使用して拡大／縮小する



1 [拡大／縮小] を押します。



2 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押してコピー倍率を選択し、[OK]を押します。

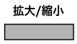
次の項目から選択できます。

・200%　MAX.
・141%　A5 → A4
・122%　A5 → B5
・115%　B5 → A4
・100%
・86%　A4 → B5
・81%　B5 → A5
・70%　A4 → A5
・50%　MIN.

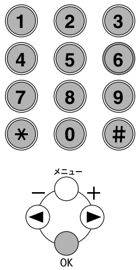
メモ

- ＜3.コピー　シヨウ　セッテイ＞メニューの＜6.サイズ　ケイレツ＞設定が＜A＞または＜インチ＞に設定されている場合、定形変倍は次のようになります。
  ・A　：50%、70%、100%、141%、200%
  ・インチ：50%、64%、78%、100%、129%、200%
- コピー倍率をリセットする場合は、[拡大／縮小] を押し、[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して＜100%＞を選択し、[OK] を押してください。
- [ストップ／リセット] キーを押してもコピー倍率をリセットできます。

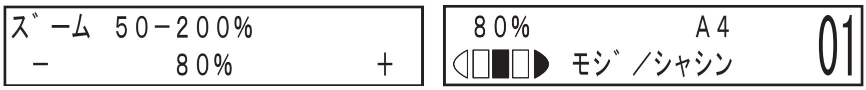
コピー倍率を入力して拡大／縮小する



1 **[拡大／縮小] を２回押します。**



2 **テンキーでコピー倍率を入力して [OK] を押します。**



コピー倍率は、50 〜 200% の範囲で 1% 単位で入力可能です。

コピー倍率の入力後も、[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、コピー倍率を変更できます。コピー倍率を大きくする場合は [▶ (+)]、小さくする場合は [◀ (-)] を押してください。

メモ

- テンキーでコピー倍率を直接入力する場合は、3桁で入力してください。(例:50%→050)
- コピー倍率をリセットする場合：
  - ・[拡大／縮小] を押し、[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して< 100% > を選択し、[OK] を押してください。または［拡大／縮小］を３回押し、<トウバイ>が表示されたら［ＯＫ］を押してください。
  - ・メニューから< 100% > を選択して等倍に戻すことができます。(→ P.10-1「登録／設定メニューを使う」)
  - ・倍率を直接入力して 100%に戻すこともできます。
  - ・［ストップ／リセット］キーを押してもコピー倍率をリセットできます。

画質／濃度を調節する

画質を調節する

文字原稿や写真原稿に合わせて、画質を調整できます。3つの画質調整モードがあります。

画質

1 **[画質] を押します。**

2 **[画質] を繰り返し押して設定する画質を選択し、［OK］を押します。**

次の項目から選択できます。

・＜モジ＞は、文字原稿に適しています。
・＜シャシン＞は、写真原稿に適しています。
・＜モジ／シャシン＞は、文字と写真の両方を含む原稿に適しています。＜モジ／シャシン＞を選択したときはさらに、＜フツウ＞、＜シャシン　ユウセン＞、＜モジ　ユウセン＞を選択することができます。

メモ
- ＜モジ／シャシン＞か＜シャシン＞を選択すると、濃度は自動的に手動設定に切り替わります。

濃度を調節する

原稿の濃度に合わせて、自動または手動で濃度を調節できます。

自動設定

濃度

1 **[濃度] を２回押して自動モードを選択し、[OK] を押します。**

```
ﾉｳﾄﾞ
   ｼﾞﾄﾞｳ
```

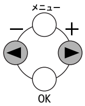
```
100%          A4
◁ A ▶ ﾓｼﾞ              01
```

コピー濃度は自動的に調整されます。

メモ
- ＜ジドウ＞に設定すると自動的に＜モジ＞モードになります。
- 自動設定は白黒コピーのみ有効です。＜ジドウ＞に設定し、[カラーコピー] を押すと、手動設定の画面表示に変わります。

手動設定

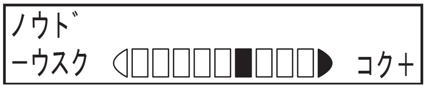
1 **[濃度] を押して、手動モードを選択します。**



2 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して濃度を選択し、[OK] を押します。**

薄く設定する場合は、[◀ (-)] を押します。

濃く設定する場合は、[▶ (+)] を押します。

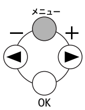


メモ
- 濃度を薄くすると目盛りは左に移動します。
- 濃度を濃くすると目盛りは右に移動します。

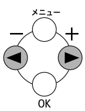
カラーバランスを調整する

カラーコピーのときにカラーバランスの調整ができます。ブラック、シアン、マゼンタ、イエローの濃度を調整して、好みの色調に設定してください。

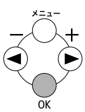
カラーバランスの調整はカラーコピーにのみ反映されます。



1 **[メニュー] を押します。**



2 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜3.コピー　シヨウ　セッテイ＞を選択し、[OK] を押します。**



3 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜7.カラーバランス＞を選択し、[OK]を押します。**

4 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押してカラーを選択し、[OK] を押します。**

4 つのモードから選択できます。

・ブラック
・シアン
・マゼンタ
・イエロー

5 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押すか、テンキーでカラーバランスの濃度を入力します。

カラーバランスの濃度は各カラーとも 1 から 7 の間で設定できます。お買い求めのときは、すべて 5 に設定されています。数字が大きくなるほど濃くなります。

カラーバランス機能を使ってカラーコピーの色調を調整する場合以下を参考にしてください。

コピー画像が黄色がかっている場合	イエロー（黄色）の数値を下げるもしくはマゼンタ（赤系色）、シアン（青系色）の数値を上げてください。
コピー画像がマゼンタがかっている場合	マゼンタ（赤系色）の数値を下げるもしくはイエロー (黄色)、シアン（青系色）の数値を上げてください。
コピー画像がシアンがかっている場合	シアン（青系色）の数値を下げるもしくはイエロー（黄色）、マゼンタ（赤系色）の数値を上げてください。
コピー画像が赤みがかっている場合	イエロー（黄色）、マゼンタ（赤系色）の数値を下げるもしくはシアン（青系色）の数値を上げてください。
コピー画像が緑がかっている場合	イエロー（黄色）、シアン（青系色）の数値を下げるもしくはマゼンタ（赤系色）の数値を上げてください。
コピー画像が青みがかっている場合	マゼンタ（赤系色）、シアン（青系色）の数値を下げるもしくはイエロー（黄色）の数値を上げてください。

モノトーンの中間調部分で調整すると効果的です。

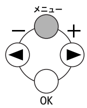
6 [OK] を押します。

7 [ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。

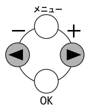
色調を調整する

原稿に合わせて、色調を調整することができます。色調の調整はカラーコピーにのみ反映されます。

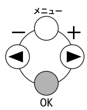
次の 3 つのモードから選択してください。



1 **[メニュー] を押します。**



2 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜3.コピー　シヨウ　セッテイ＞を選択し、[OK] を押します。**



3 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して＜9.シキチョウ＞を選択し、[OK]を押します。**

4 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して色調を選択し、[OK] を押します。**

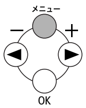
原稿に合わせて、3 つのモードから選択できます。

・ヒョウジュン
・アザヤカナ
・オチツイタ

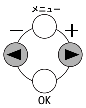
5 **[ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。**

地色を取り除く

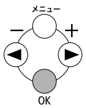
原稿の地色の濃さを 5 段階で調整できます。これにより薄い背景を除去します。
地色の調整はカラーコピーにのみ反映されます。



1 **[メニュー] を押します。**



2 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して<3.コピー　シヨウ　セッテイ>を選択し、[OK] を押します。**



3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して< 10. ジイロ　ジョキョ>を選択し、[OK] を押します。**

4 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押すか、テンキーで数字を入力し、[OK] を押します。**

数字が小さいほど地色は強く除去され、数字が大きいほど地色は弱く除去されます。

5 **[ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。**

メモ
- 数値を 1 に設定しても、地色が除去されない場合があります。
- 濃い色の地色は除去されない場合もあります。

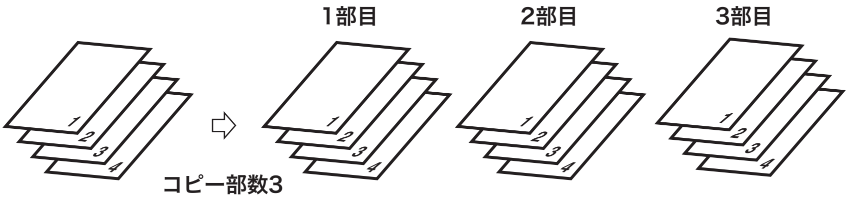
その他の機能

本製品は次のような便利な機能を使って、特殊なコピーが簡単にできます。

- ソートコピー　　でき上がったコピーをページ順に並べます。
- コピー予約　　プリントしている間に次のジョブを予約できます。

ソートコピー

ソートコピーでは、コピーをページ順に並べることができます。複数ページの原稿を複数部コピーする場合に便利です。



原稿を ADF にセットする場合

1 **読み取る側を上にして、原稿を ADF にセットします。**

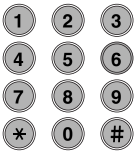
ADF への原稿のセット方法についての詳細は、「ADF に原稿をセットする」（→ P.3-4）を参照してください。

2 **[ソート] を押します。**

ディスプレイに＜ソート＞と表示されます。

メモ

- メニューの＜３．コピー　シヨウ　セッテイ＞の＜５．ジドウ　ソート＞が＜スル＞に設定されている場合は、複数部数のコピーをとると自動的にソートされます。

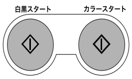


3 テンキーでコピー部数を入力します。

【例】

```
100% ソート      A4
◁□■□▶ モジ゛/シャシン   03
```

最大 99 部まで設定できます。



4 [白黒スタート] または [カラースタート] を押します。

先頭ページから読み込みが開始されます。読み込みが終わると、原稿はページ順に排出されます。

メモ

- 複数ページの原稿の読み込み中にメモリがいっぱいになった場合は、ディスプレイに<メモリガ イッパイデス>と表示され、ADF で読み込み中の原稿が停止します。「つまった原稿を ADF から取り除く」(→ P.9-23) の手順に従ってつまった原稿を取り除いてください。この場合は、原稿をいくつかに分けてコピーするか、画質モードを<モジ>に設定してからコピーし直してください。

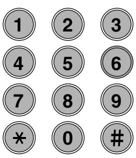
原稿を原稿台ガラスにセットする場合

1 原稿の 1 ページ目を原稿台ガラスにセットします。

原稿台ガラスへの原稿のセット方法についての詳細は、「原稿台ガラスに原稿をセットする」(→ P.3-3) を参照してください。

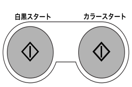
2 [ソート] を押します。

ディスプレイに<ソート>と表示されます。



3 テンキーでコピー部数を入力します。

最大 99 部まで設定できます。



4 [白黒スタート] または [カラースタート] を押します。

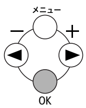
1 枚目の原稿が読み込まれ、1 部だけプリントします。

5 原稿の次のページを原稿台ガラスにセットします。

ツギ゛ノ ペ゜ージ゛	:スタート
ヨミトリ シュウリョウ	:OK

6 [白黒スタート] または [カラースタート] を押します。

次のページが読み込まれ、1 部だけプリントします。手順 5 と 6 を繰り返して、全ての原稿を読み込み、1 部だけプリントします。



7 [OK] を押します。

残りの部数のプリントが始まります。

メモ
- 複数ページの原稿の読み込み中にメモリがいっぱいになった場合は、ディスプレイに<メモリガ イッパイデス>と表示され、原稿の読み込みがキャンセルされます。この場合は、原稿をいくつかに分けてコピーするか、画質モードを<モジ>に設定してからコピーし直してください。

予約コピー

この機能を使用すると、印刷している間でも次のジョブを予約できます。

メモ
- メモリには最大 10 件のコピージョブを保存できます。

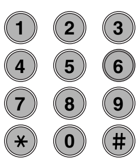
1 印刷中に [ストップ／リセット] を 2 回押します。

待受画面に戻ります。

メモ
- 次のコピージョブを予約する前に、必ず待受画面に戻してください。

2 予約する原稿を原稿台ガラスまたは ADF にセットします。

原稿をセットする方法の詳細は「原稿をセットする」（→ P.3-3）を参照してください。

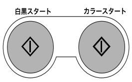


3 テンキーでコピー部数を入力します。

最大 99 部まで設定できます。

4 必要に応じて、原稿に合わせて設定を変更します。

・読み取り解像度を選択する場合は、[画質] を押します。（→ P.5-6「画質を調節する」）
・読み取り濃度を選択する場合は、[濃度] を押します。（→ P.5-6「濃度を調節する」）
・コピー倍率を選択する場合は、[拡大／縮小] を押します。（→ P.5-4「コピー倍率を設定する」）



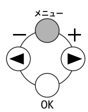
5 [白黒スタート] または [カラースタート] を押します。

読み込みが開始されます。

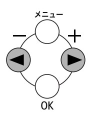
メモ
- 現在のコピージョブの印刷が完了すると、次のコピージョブが開始されます。
- 原稿の読み込み中にメモリがいっぱいになった場合は、ディスプレイに<メモリガ　イッパイデス>と表示されます。ADF を使用して読み込みを行っている場合は、読み込み中の原稿が ADF 内で停止します。「つまった原稿を ADF から取り除く」（→ P.9-23）の手順に従ってつまった原稿を取り除いてください。
- <メモリガ　イッパイデス>と表示されると、読み込まれたすべての原稿が消去されるため、原稿をいくつかに分けてコピーするか、画質モードを下げてからコピーし直してください。

トナーを節約する

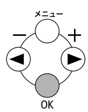
白黒プリント時にトナーの消費を抑えることができます。



1 [メニュー] を押します。



2 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、< 2. キョウツウ　キノウ　セッテイ > を選択し、[OK] を押します。



3 [◀ (-)]または[▶ (+)]を押して、<3.シロクロプリント　トナーセーブ> を選択し、[OK] を押します。

4 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、<スル>を選択し、[OK] を押します。

5 [ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。

重要

- シロクロプリントトナーセーブモードを使うと、印刷の濃度が薄れ、印刷された文字がかすれる場合があります。この機能は、画像（写真）などの印刷範囲の広いものを大量に印刷するときにお使いください。印刷範囲の狭い印刷データではあまり効果が得られません。
- カラープリントの場合は、プリンタドライバでトナーセーブを設定することができます。

スキャンするには

6
CHAPTER

本製品付属の CD-ROM に入っているスキャナドライバを使って、原稿をスキャンします。スキャンした原稿をコンピュータに取り込むための基本操作を説明します。

スキャンする前に

本製品でスキャンするには、付属のスキャナドライバをあらかじめコンピュータにインストールしておいてください。

- インストールが終了していない場合は、「ソフトウェアガイド」の「第 1 章　インストールする」を参照してインストールしてください。

コンピュータにスキャナドライバがインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

1 [スキャナとカメラ]（Windows 98/2000 では [スキャナとカメラのプロパティ］画面）フォルダ を開きます。

● **Windows XP/Server 2003 の場合：**

［スタート］メニューの［コントロールパネル］から［プリンタとその他のハードウェア］を選択し、［スキャナとカメラのプロパティ］をダブルクリックします。

● **Windows 98/2000 の場合：**

［スタート］メニューの［設定］から［コントロールパネル］を選択し、［スキャナとカメラ］をダブルクリックします。

2 **対応するスキャナドライバ名、またはスキャナアイコンがあることを確認します。**

メモ
- 本製品のプリンタドライバは［Canon MF8100 Series］と表示されます。

スキャン方法

本製品で原稿をスキャンする方法には次の３種類があります。

・本製品の操作パネルの [スキャン] を使う

・MF Toolbox を使う

・TWAIN または WIA（Windows XP のみ）対応 Windows のアプリケーションソフトを使う

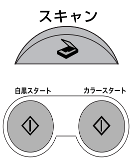
重要 ● ADF で原稿をスキャンした場合、鮮明さに欠ける場合があります。より鮮明な画質をお求めの際は、原稿台ガラスに原稿を置いてスキャンしてください。

ここでは、本製品の操作パネルの［スキャン］を使う方法を説明します。

本製品の操作パネルの［スキャン］→［白黒スタート］または［カラースタート］を押すと、原稿をスキャンしてコンピュータに取り込むことができます。

1 原稿を原稿台ガラスまたは ADF にセットします。

原稿のセット方法の詳細は、「原稿をセットする」（→ P.3-3）を参照してください。



2 ［スキャン］を押し、［白黒スタート］または［ カラースタート］を押します。

コンピュータの画面に起動するプログラムを選択する指示が表示されたときは、＜ MF Toolbox Ver4.7 ＞を選択します。

読み取りが始まります。

MF Toolbox と MF Toolbox 設定画面が開きますが、コンピュータで［スタート］の操作をしなくても原稿のスキャンが始まります。

読み取った原稿は設定に従って処理されます。

メモ ● ［白黒スタート］または［カラースタート］を押すと、自動的に［マイドキュメント］フォルダの［マイピクチャ］フォルダに読み取り日のフォルダが作成され、原稿はこのフォルダに保存されます。［マイピクチャ］フォルダがないときは、読み取り日のフォルダは［マイ　ドキュメント］フォルダの中に作成され、原稿はこのフォルダに保存されます。

さらに詳しい使いかたについて

スキャン機能についての詳細は、「ソフトウェアガイド」の「第３章　原稿をスキャンする」を参照してください。

システムモニタでジョブを確認する

7
CHAPTER

本製品に蓄積されたジョブ状況をチェックし、必要に応じて確認や削除する方法を説明します。

各ジョブ状況を確認する

メモリに保存されているジョブの確認や削除を行うには、[システムモニタ] を使用します。

[システムモニタ] を繰り返し押すと、ディスプレイにはそれぞれのモードに応じて次の順序で、保存されているジョブが表示されます。

コピーモード

- コピー　ジョウキョウ
  ↓
- ツウシン　ジョウキョウ
  ↓
- ツウシン　リレキ
  ↓
- プリント　ジョウキョウ
  ↓
- レポート　ジョウキョウ
  （最初に戻る）

ファクスモード

- ツウシン　ジョウキョウ
  ↓
- ツウシン　リレキ
  ↓
- プリント　ジョウキョウ
  ↓
- レポート　ジョウキョウ
  ↓
- コピー　ジョウキョウ
  （最初に戻る）

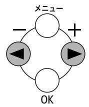
メモ
- スキャンモードでは、システムモニタは利用できません。

ファクスジョブを確認／削除する

次の手順で送受信の状況を確認できます。

システムモニタ

1 [システムモニタ] を押します。



2 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ツウシン　ジョウキョウ ＞を選択し、[OK] を押します。

メモ
- ジョブが存在しない場合は、＜ツウシンチュウノ　ブンショハアリマセン＞と表示されます。
- ファクスジョブが 1 つだけの場合は、手順 4 に進みます。
- ディスプレイに表示される番号は＜0001 ＞から＜4999 ＞が送信ジョブで、＜5001 ＞から＜ 9999 ＞が受信ジョブです。

3 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、該当する作業番号と作業時間を確認します。

メモ
- ファクスの宛先が複数の場合（同報送信）、最初に入力したファクス番号だけが通話中に表示されます。

4 ファクスジョブを削除する場合は、[OK] を押します。

メモ
- 同報通信のファクスジョブを削除すると、指定されたどの宛先にもファクスは送信されません。

5 ジョブの削除を確定する場合は、[◀ (-)] を押して、＜ハイ＞を選択します。

メモ
- ジョブの削除を取り消す場合は、[▶ (+)] を押して、＜イイエ＞を選択します。いったん削除されたジョブは復元できません。

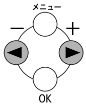
6 [ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。

メモ
- ファクスについての詳細は、「ファクスガイド」を参照してください。

通信結果を確認する

次の手順で通信結果が確認できます。

1 [システムモニタ] を押します。



2 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、<ツウシン　リレキ>を選択し、[OK] を押します。**

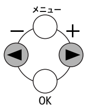
メモ
- ジョブが存在しない場合は、<ウケツケ　バンゴウ　カクニン>と表示されます。

3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、通信結果を確認します。**

4 **[ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。**

コピージョブを確認／削除する

1 **[システムモニタ] を押します。**



2 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、<コピー　ジョウキョウ>を選択し、[OK] を押します。**

メモ
- ジョブが存在しない場合は、<コピー　ジョブハ　アリマセン>と表示されます。
- コピージョブが 1 つだけの場合は、手順 4 に進みます。

3 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して、ジョブ番号とコピー部数を確認します。**

4 **コピージョブを削除する場合は、[OK] を押します。**

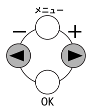
5 **ジョブの削除を確定する場合は、[◀ (-)] を押して、<ハイ>を選択します。**

メモ
- ジョブの削除を取り消す場合は、[▶ (+)] を押して、<イイエ>を選択します。いったん削除されたジョブは復元できません。

6 **[ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。**

PC プリントジョブを確認／削除する

1 **[システムモニタ] を押します。**



2 **[◀ (-)]または[▶ (+)]を押して、<プリント　ジョウキョウ>を選択し、[OK] を押します。**

メモ
- ジョブが存在しない場合は、<プリント　ジョブハ　アリマセン>と表示されます。
- プリントジョブが 1 つだけのときは手順 4 へ進んでください。

3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押してファイル名を確認します。**

4 **プリントジョブを削除する場合は、[OK] を押します。**

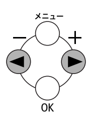
5 **ジョブの削除を確定する場合は、[◀ (-)] を押して、<ハイ>を選択します。**

メモ
- ジョブの削除を取り消す場合は、[▶ (+)] を押して、<イイエ>を選択します。いったん削除されたジョブは復元できません。
- ディスプレイは文字を ASCII コードで表示できます。ASCII コード以外の文字を使用すると、ディスプレイに表示される文字が化けることがあります。

6 **[ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。**

レポートジョブを確認／削除する

1 **[システムモニタ] を押します。**



2 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、<レポート　ジョウキョウ>を表示させ、[OK] を押します。**

メモ
- ジョブが存在しない場合は、<レポート　ジョブハ　アリマセン>と表示されます。
- レポートジョブが 1 つだけの場合は、手順 4 に進みます。

3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、レポートを確認します。**

4 レポートジョブを削除する場合は、[OK] を押します。

5 ジョブの削除を確定する場合は、[◀ (-)] を押して、＜ハイ＞を選択します。

メモ
- ジョブの削除を取り消す場合は、[▶ (+)] を押して、＜イイエ＞を選択します。いったん削除されたジョブは復元できません。

6 [ストップ／リセット] を押して、待受画面に戻ります。

日常のメンテナンス

8
CHAPTER

日常のお手入れ、トナーカートリッジの交換、本製品の再梱包と移送の方法について説明します。

日常のお手入れ

本製品は定期的なメンテナンスはほとんど必要ありません。必要な清掃の手順を説明します。

重要

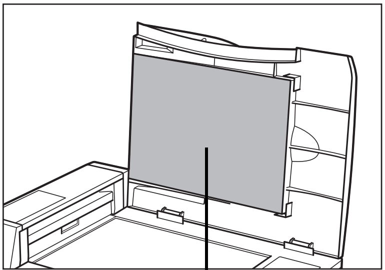
- 本体表面や原稿台ガラスを清掃するときは、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
- 清掃には、ティッシュペーパー、紙タオルなどを使用しないでください。これらは本体内部に繊維が付着したり、静電気発生の原因になることがあります。
本製品に傷が付かないよう、清掃には柔らかい布をお使いください。
- シンナーやベンジン、アセトンなどの溶剤、および他の化学クリーナーは、本体内部の部品を損傷することがあります。絶対に使わないでください。

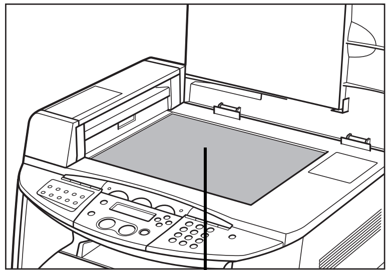
本体のお手入れ

水または薄めた中性洗剤を含ませた柔らかく清潔な布を固く絞り、汚れを拭き取ります。

読み取りエリアの清掃

水または薄めた中性洗剤を含ませた柔らかく清潔な布を固く絞り、読取部（網掛け部分）の汚れを拭いてから、別の乾いた布で拭きます。

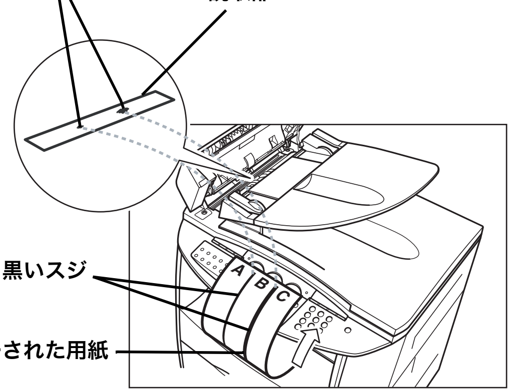


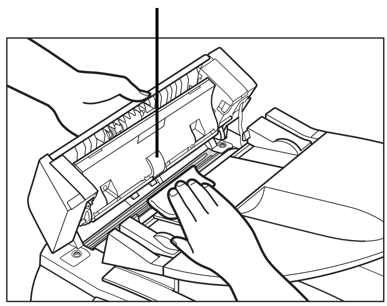


ADF エリアのお手入れ

ADF を使って原稿を給紙すると、出力紙に黒いスジが出る場合があります。
これは、ADF の読取部（網掛け部分）に付着したのり、インク、修正液などの異物が原因です。柔らかく清潔な布で、読取部を拭いてください。出力紙に黒いスジが出る箇所は、特に丁寧に清掃します。

読取部の汚れが落ちにくい場合は、水または薄めた中性洗剤を含ませた布で拭いてから、別の乾いた布で拭いてください。





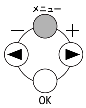
重要

- 原稿に付着したのり、インク、修正液が乾いていないうちに、ADF で原稿を送ると、のり、インク、修正液などの異物が ADF を汚損することがあります。これがコピーに黒いスジが出る原因です。原稿を ADF にセットするときは、原稿に付着したのり、インク、修正液が完全に乾いていることを確認してください。
- ADFの読取部を清掃する場合は、ADFの中央にある白いローラを損傷しないようご注意ください。

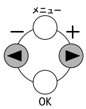
定着ローラを清掃する

プリントした用紙の表面や裏面に黒点状の汚れが付着するような場合は、次の手順で定着ローラを清掃してください。清掃することで、画像不良の発生を防止します。定着ローラの清掃は、まず A4 サイズまたはレターサイズの用紙にクリーニング用紙をプリントします。そのクリーニング用紙を手差しトレイから給紙して、定着ローラの清掃を行います。

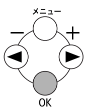
重要
- A4 サイズまたはレターサイズの用紙以外に、クリーニング用紙をプリントすることはできません。A4 サイズまたはレターサイズの用紙をご用意ください。



1 **[メニュー] を押します。**



2 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ 10. メンテナンス＞ を選択し、[OK] を押します。**

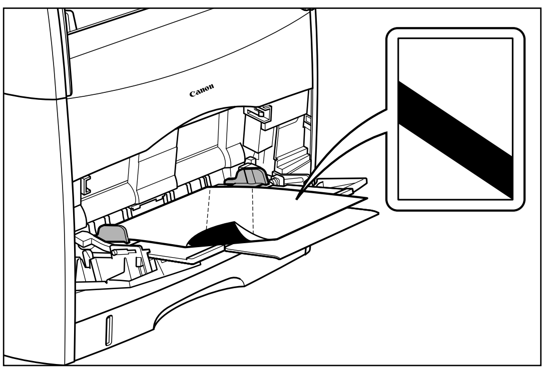


3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ 3. ローラクリーニング＞ を選択し、[OK] を押します。**

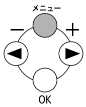
4 **[◀ (-)] または[▶ (+)] を押して、＜2. クリーニング　ヨウシ　プリント＞を選択し、[OK] を押します。**

クリーニング用紙がプリントされます。

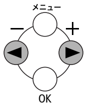
5 **クリーニング用紙のプリント面を下にして、余白の多いほうが奥になるように手差しトレイにセットします。**



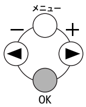
手差しトレイにほかの用紙がセットされている場合は、取り除いてからクリーニング用紙をセットしてください。



6 **[メニュー] を押します。**



7 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ 10. メンテナンス＞ を選択し、[OK] を押します。**



8 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ 3. ローラクリーニング＞ を選択し、[OK] を押します。**

9 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ 1. クリーニング　ジッコウ＞ を選択し、[OK] を押します。**

用紙がゆっくりと送り込まれ、定着ローラの清掃が開始されます。

メモ
- 定着ローラの清掃には、約 3 分間かかります。
- 定着ローラの清掃は途中で中止することができません。完了するまでお待ちください。

8
日常のメンテナンス

トナーカートリッジを交換する

トナーカートリッジの交換の手順について説明します。

重要 • 出力紙の印字が薄くなったり、ムラが出るようになったらトナーカートリッジの取り換え時期です。画質が低下しますので早めにお取り換えになることをお勧めします。

メモ • キヤノン純正カートリッジ1本あたりの印字可能枚数は次のとおりです。（A4 サイズで印字率 5%、標準濃度の原稿を基準にしています）

機種名	同梱品 / 交換品 (対応するキヤノン純正カートリッジ)		印字枚数
MF8180	同梱品	Toner Cartridge Black	A4 サイズで約 5,000 枚
		Toner Cartridge Yellow Toner Cartridge Magenta Toner Cartridge Cyan	A4 サイズで約 2,000 枚
	交換品	Toner Cartridge 301 Black	A4 サイズで約 5,000 枚
		Toner Cartridge 301 Yellow Toner Cartridge 301 Magenta Toner Cartridge 301 Cyan	A4 サイズで約 4,000 枚

• カートリッジの取り扱いは、「トナーカートリッジの保管について」（→ P.8-16）を参照してください。

トナーカートリッジの交換について

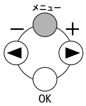
トナーが少なくなると、エラーランプが点滅します。ディスプレイに＜＊カートリッジ モウスグ　コウカン＞と表示され、トナーがなくなると、＜＊カートリッジヲ　コウカン＞と表示されます。表示された色のトナーを用意して、次の手順に従ってトナーを交換してください。

＊には色が入ります。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー）

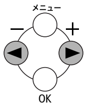
警告 • 使用済みのカートリッジを火の中に投げ込まないでください。残っているトナーに引火して、火災ややけどの原因になります。

注意 • トナーが衣服についたときは直ちに水で洗い流してください。温水を使うとトナーが生地に定着し、汚れが取れなくなります。

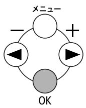
重要 • 必ず本製品専用のカートリッジを使用してください。



1 **[メニュー] を押します。**



2 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜ 10. メンテナンス＞を選択し、[OK] を押します。**



3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、＜1. カートリッジ　コウカン＞を選択し、[OK] を押します。**

4 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、交換するトナーの色を選択し、[OK] を押します。**

次の中から選択できます。

1. ブラック

2. シアン

3. マゼンタ

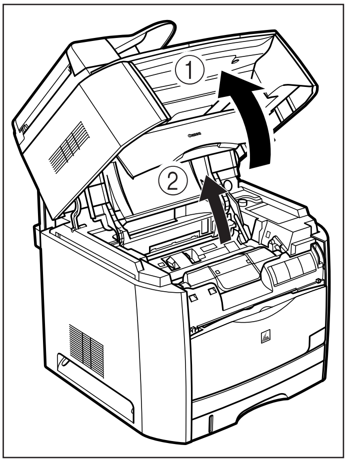
4. イエロー

5. ゼンショク

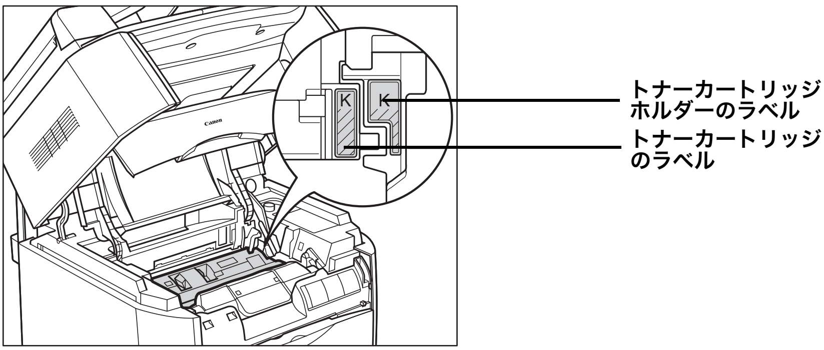
メモ

- ＜ 5. ゼンショク＞を選択した場合は、カートリッジカバーを開閉するたびに、交換できるトナーの位置が変わります。カートリッジカバーを開閉しながら、順にトナーを交換してください。
- トナー交換を途中で止めるときは、[ストップ／リセット] を押します。

5 操作音が止まったら、操作パネル部 ① を上げ、カートリッジカバー ② を開けます。



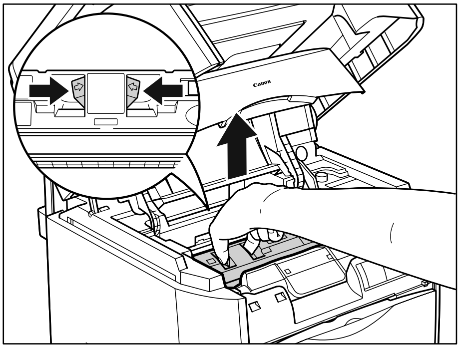
6 交換するトナーカートリッジが取り出せる位置に来ていることを、トナーカートリッジのラベルとトナーカートリッジホルダーのラベルで確認します。



トナーカートリッジが取り出せる位置に来ていないときは、カートリッジカバーをいったん閉じて、操作音が止まってから再度開けてください。交換するカートリッジが取り出せる位置に来るまでこの開閉操作を繰り返してください。

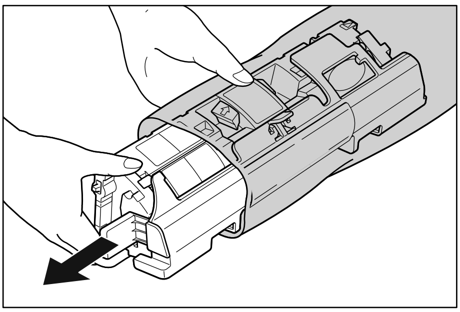
7 トナーカートリッジを取り出します。

交換するトナーカートリッジの上のツマミを持ってまっすぐに上に引き上げます。

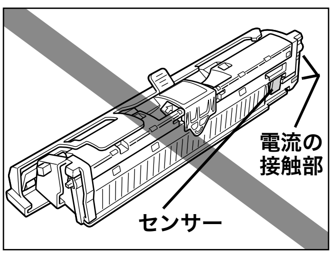


8 トナーカートリッジホルダーの色ラベルを確認して、新しいトナーカートリッジを保護袋から取り出します。

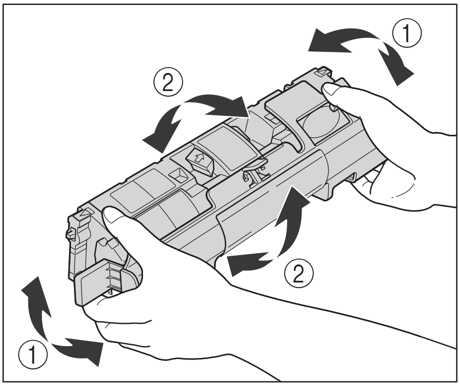
カートリッジを傷つけないよう、保護袋ははさみなどで切って開けてください。



重要
- トナーカートリッジが入っていた保護袋は、捨てずに保管しておいてください。プリンタのメンテナンスなど、トナーカートリッジを取り出すときに必要になります。
- 内部のドラムを手で触れたり、傷を付けたりすると、印字品質が低下します。絶対に、手で触れないでください。また、トナーカートリッジのセンサーや電流の接触部には、触れないでください。故障の原因になります。



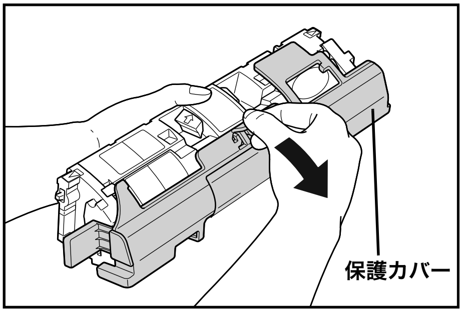
9 トナーカートリッジをゆっくりと左右①、前後②に５～６回振って、中のトナーを均一にならします。



重要
- トナーが均一にならされていないと画質が低下します。必ずこの手順に従ってください。
- カートリッジはゆっくり振ってください。乱暴に扱うとトナーがこぼれることがあります。

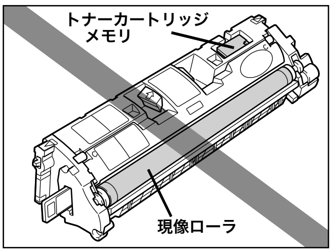
10 トナーカートリッジの保護カバーを取り外します。

保護カバーは、図のように取っ手を持って外してください。



メモ
- ぴったりとはめ込まれていますが、取り外せます。

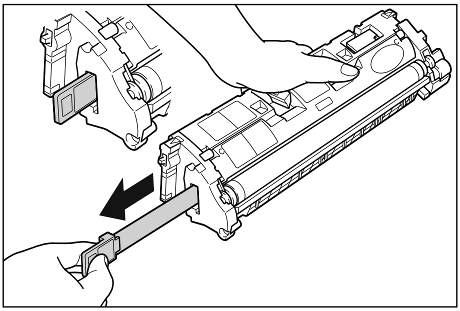
重要
- 現像ローラは、持ったり触れたりしないでください。印字品質が低下します。また、トナーカートリッジメモリに衝撃を与えたり、磁気を近づけたりしないでください。故障の原因になります。



メモ
- トナーカートリッジに付いていた保護袋と保護カバーは、お手入れの際、カートリッジを取り外したときに使いますので捨てずに保管しておいてください。

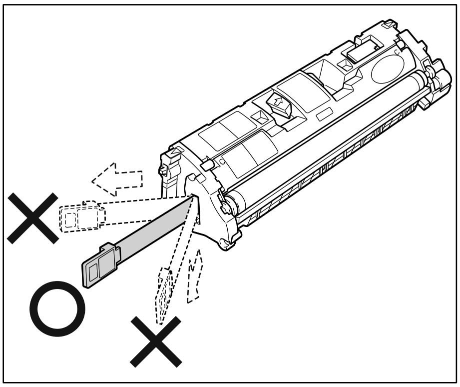
11 トナーカートリッジを平らな安定した場所に置き、シーリングテープ（長さ約 45cm）のタブをつまみ、矢印の方向に引き抜きます。

タブを持ってまっすぐに引き抜いてください。



注意 ● シーリングテープを勢いよく引き抜いたり、途中で止めたりするとトナーが飛び散ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。

重要 ● シーリングテープを曲げて引いたり、上向きや下向きに引っ張らないでください。シーリングテープが途中で切れ、完全に引き抜けなくなることがあります。

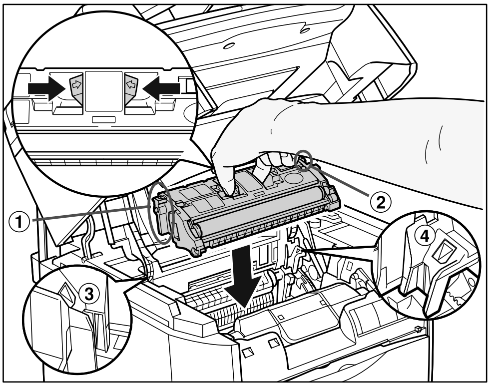


● シーリングテープは最後まで完全に引き抜いてください。シーリングテープがトナーカートリッジ内に残っていると、印字不良の原因になります。

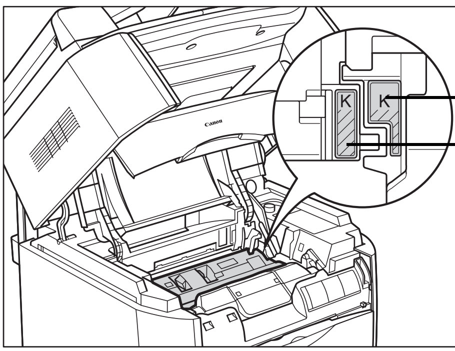
● 引き抜いたシーリングテープは、地域の条例に従って処分してください。

12 トナーカートリッジの上のツマミを持って、トナーカートリッジ両側の突起 ①, ② を本体のガイド ③, ④ に合わせ、スライドさせながら本体に押し込みます。

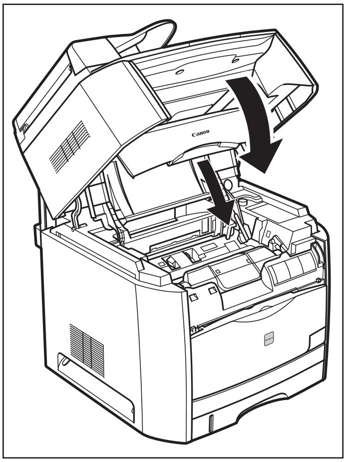
トナーカートリッジの三角マークと本製品についている三角マークが合うようにして押し込んでください。



トナーカートリッジが正しくセットされると、トナーカートリッジのラベルとトナーカートリッジホルダーのラベルが図のように並びます。



13 カートリッジカバーを閉じ、操作パネル部を下げます。



トナーカートリッジホルダーが自動的に回転します。

重要
- トナーカートリッジ交換後、すぐにコピーをとると、画質が粗くなる場合があります。トナーカートリッジ交換後は、本体の稼動音がなくなってからコピーをお取りください。
- トナーカートリッジ設置後、ディスプレイに<＊カートリッジヲ　セットシテクダサイ>が表示され続ける場合は、電源プラグを抜き差ししてください。
  ＊には色が入ります。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー）

メモ
- カラーラベルの色は、Y：イエロー、M：マゼンタ、C：シアン、K：ブラックの順になっています。もし違った色が現れた場合は、手順１から操作してください。

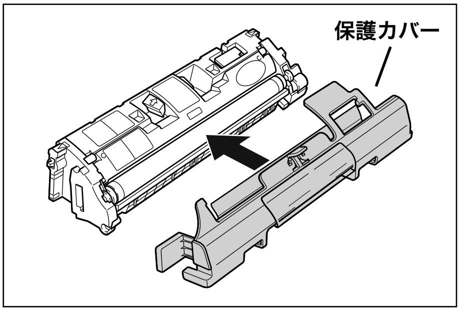
トナーカートリッジ取り扱いのご注意

トナーカートリッジは、精密な機構の部品で構成されています。粗雑な取り扱いは、破損や印字品質低下の原因になることがあります。トナーカートリッジの取り付けや取り外しを行うときは、次の点に気を付けて取り扱ってください。

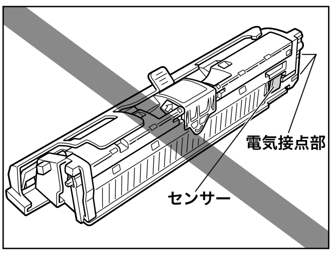
警告
- 使用済みのトナーカートリッジを火中に投じないでください。トナーカートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。

注意
- トナーで衣服や手を汚さないように注意してください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなることがあります。

重要
- プリンタの修理のためにトナーカートリッジをプリンタから取り出したときは、すみやかに保護カバーを取り付け、トナーカートリッジを梱包してあった保護袋に入れるか、厚い布で包んでください。

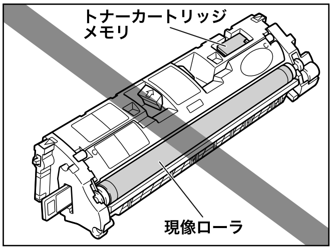


- 電気接点部やセンサーなど指定された以外の部分は、持ったり、触れたりしないでください。故障の原因になります。

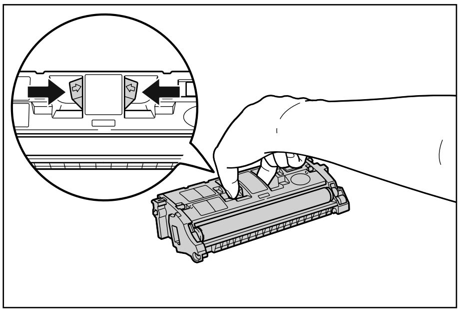


8
日常のメンテナンス

- 現像ローラは、持ったり触れたりしないでください。印字品質が低下します。また、トナーカートリッジメモリに衝撃を与えたり、磁気を近づけたりしないでください。故障の原因になることがあります。



- トナーカートリッジを取り扱う際は、図のように正しく持って取り扱ってください。立てたり、裏返したりしないでください。

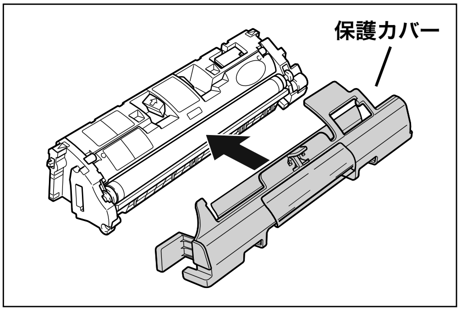


- 絶対に分解や改造などをしないでください。
- トナーカートリッジを急激な温度変化にさらすと、内部や外部に水滴が付着する（結露）ことがあります。寒い場所に保管してあった新品のトナーカートリッジを暖かい場所で取り付けるときなどは、保護袋を開封せずに 2 時間以上置き、周囲の温度に慣らしてから開封してください。
- 交換用に購入したトナーカートリッジは、パッケージに記載された有効期間内に使用してください。
- 交換用のトナーカートリッジは、キヤノン純正品をお使いになることをお勧めします。

トナーカートリッジの保管について

新しいトナーカートリッジや、修理時に取り出したトナーカートリッジは、次のような点に気をつけて保管してください。

重要
- 新しいトナーカートリッジは、実際に使用するときまで保護袋から取り出さないください。
- 本製品の修理のためにトナーカートリッジをプリンタから取り出したときは、すみやかに保護カバーを取り付け、トナーカートリッジを梱包してあった保護袋に入れるか、厚い布で包んでください。



- 立てたり、裏返しにしないでください。本製品にセットするときと同じ向きで保管してください。
- 直射日光の当たる場所は避けてください。
- 高温多湿の場所や、温度変化や湿度変化の激しい場所は避けてください。
  ・保管温度範囲：0 〜 35 ℃
  ・保管湿度範囲：35 〜 85 % RH（相対湿度・結露しないこと）
- アンモニアなどの腐食性のガスが発生する場所や、空気に塩分が多く含まれている場所、ほこりの多い場所での保管は避けてください。
- 幼児の手の届かないところに保管してください。

結露とは

保管湿度範囲内でも、外気との温度差によってトナーカートリッジ外部や内部に水滴が付着することがあります。このように水滴が付着する状態を結露といいます。結露はトナーカートリッジの品質に悪影響をおよぼします。

ドラムカートリッジを交換する

ドラムカートリッジの交換方法や保管時のご注意について説明します。

メッセージが表示されたら

ドラムカートリッジは消耗品です。印字のカスレやムラが出たら交換してください。

メモ
- キヤノン純正ドラムカートリッジの印字可能枚数は次のとおりです。(設定条件と使用条件により多少異なります)

機種名	同梱品 / 交換品 (対応するキヤノン純正カートリッジ)		印字枚数
MF8180	同梱品	Drum Cartridge	カラー出力：A4 サイズで約 5,000 枚 白黒出力：A4 サイズで約 20,000 枚*
	交換品	Drum Cartridge 301	

*：キヤノン標準評価で A4 サイズの用紙を連続で印字した場合の枚数です。
用紙の大きさ、種類によっては約半分の枚数となることがあります。

8

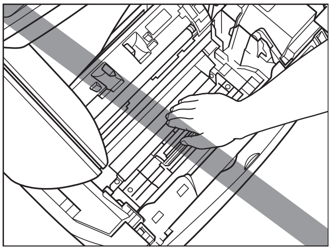
日常のメンテナンス

ドラムカートリッジを交換する

ディスプレイに<ドラム　モウスグ　コウカン>または<ドラムヲ　コウカン　シテクダサイ>と表示されたら、次の手順に従ってドラムカートリッジを交換してください。

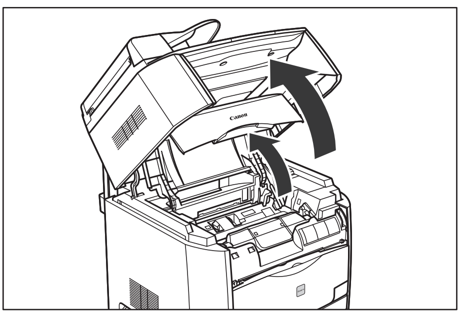
警告
- 使用済みのドラムカートリッジを火中に投じないでください。ドラムカートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。

注意
- トナーで衣服や手を汚さないように注意してください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなることがあります。
- カートリッジカバー内部の電気接点部やギヤには、絶対に触れないでください。感電やけがの原因になります。



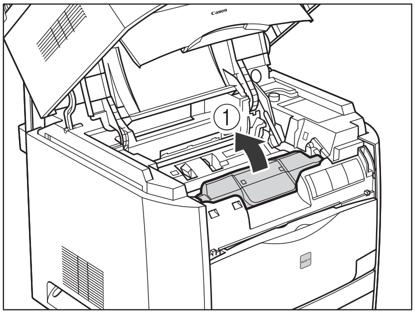
重要
- 必ず本製品専用のドラムカートリッジを使用してください。
- ドラムカートリッジの交換時には、プリンタ内部の清掃を行いますので、乾いた柔らかい布を用意しておいてください。
- ドラムカートリッジ交換後すぐにコピーをとると、画質が粗くなる場合があります。
ドラムカートリッジ交換後は、本体の稼動音がなくなってからコピーをお取りください。
- ドラムカートリッジ設置後、ディスプレイに<カートリッジヲ　セットシテクダサイ>が表示され続ける場合は、電源プラグを抜き差ししてください。

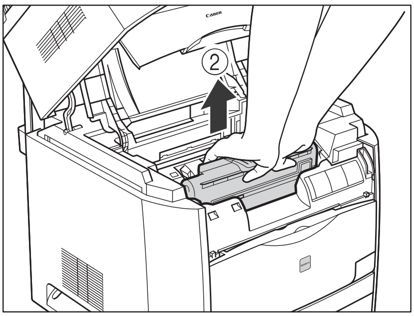
1 **操作パネル部を上げ、カートリッジカバーを開けます。**



2 ドラムカートリッジを本体から取り出します。

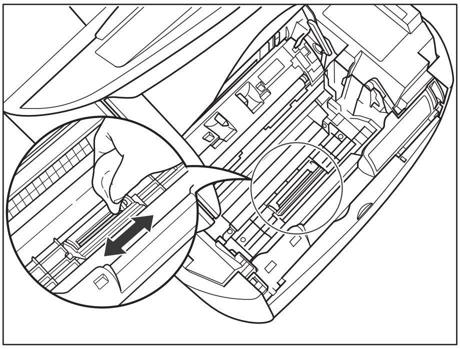
ドラムカートリッジの上の緑色の取っ手を矢印 ① の方向に引き上げ、矢印 ② の方向のようにまっすぐ上に取り出します。





8
日常のメンテナンス

3 乾いた柔らかい布で、ローラ部の透明シートの紙粉やトナーの汚れを拭き取ります。

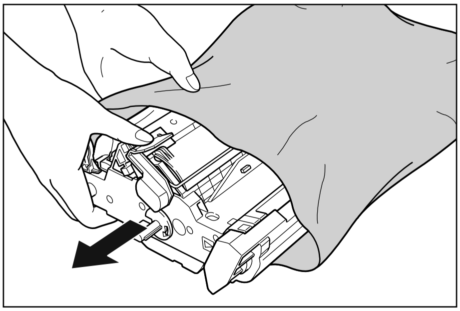


警告
- 清掃のときは必ず乾いた布を使ってください。布にアルコールやベンジン、塗料うすめ液など可燃性物質を付けて拭かないでください。可燃性物質が製品内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

重要
- 透明なシートは、無理にめくったり傷つけたりしないようにしてください。
- 水や中性洗剤を含ませた布は使用しないでください。
- プリンタ内部の部品に触れないように、気をつけて清掃してください。

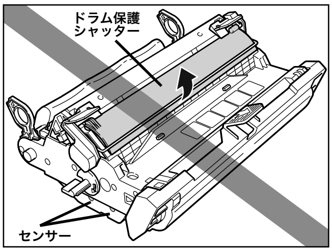
4 ドラムカートリッジを保護袋から取り出します。

カートリッジを傷つけないよう、保護袋ははさみなどで切って開けてください。

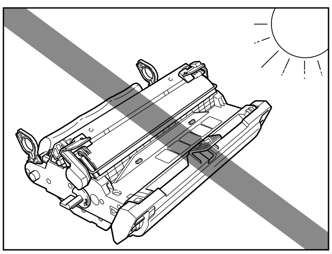


重要

- ドラムカートリッジが入っていた保護袋は、捨てずに保管しておいてください。プリンタのメンテナンスなど、ドラムカートリッジを取り出すときに必要になります。
- ドラムカートリッジの内部に触れないでください。印字品質が低下します。ドラムに触れたり、ドラム保護シャッターを開けないでください。また、センサーなど指示されていない部分には触れないでください。故障の原因となります。

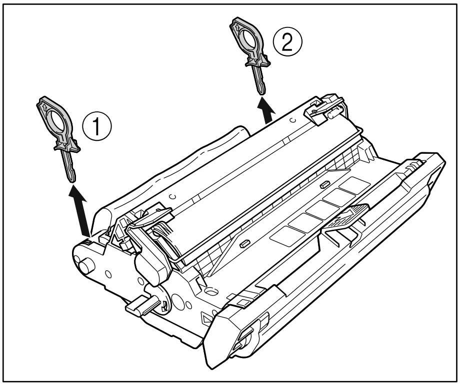


- ドラムカートリッジに直射日光や強い光を当てないでください。

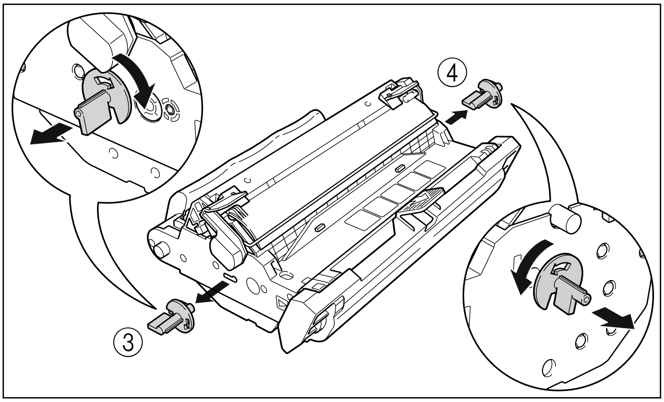


5 パッキング材（7つ）を取り除きます。

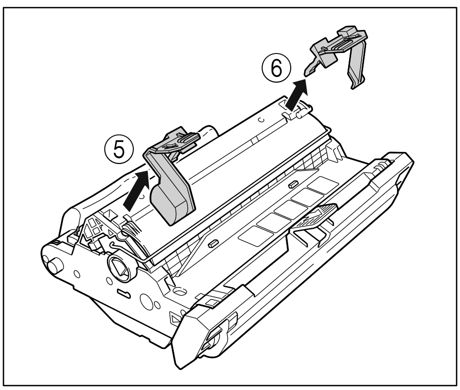
タブに指をひっかけて矢印の方向に引いて、パッキング材①と②を取り除いてください。



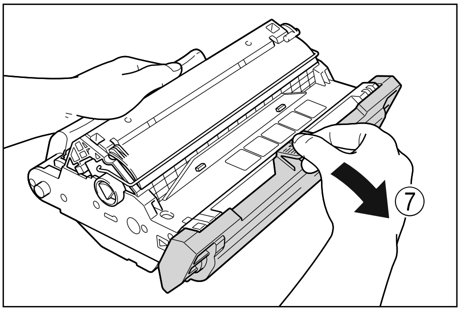
パッキング材③と④を矢印の方向に止まるまで回してから引っ張って取り除いてください。



取っ手を矢印の向きに引いて、パッキング材⑤と⑥を取り除いてください。

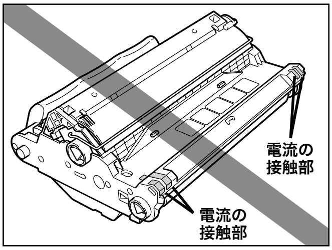


図のようにパッキング材⑦を取り除いてください。

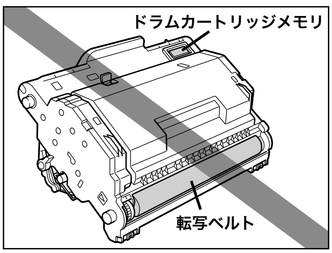


重要

- 電流の接触部には触れないでください。故障の原因となります。



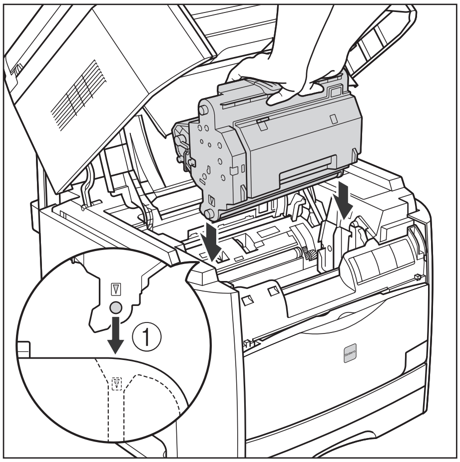
- 転写ベルトを持ったり、触れないでください。印字品質が低下します。また、ドラムカートリッジメモリにショックを与えたり、磁気を近づけないでください。故障の原因となります。



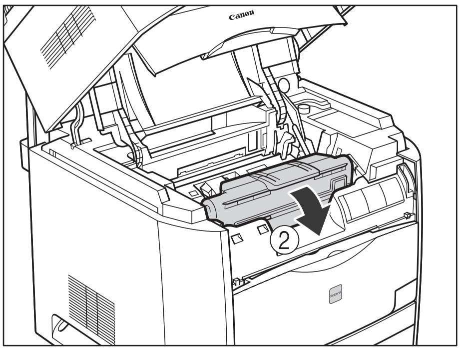
- パッキング材を取り除いたら、すみやかにドラムカートリッジを取り付けてください。
- 取り除いたパッキング材は地域の条例に従って廃棄してください。

6 両手でしっかりとドラムカートリッジを持ち、本体にセットします。

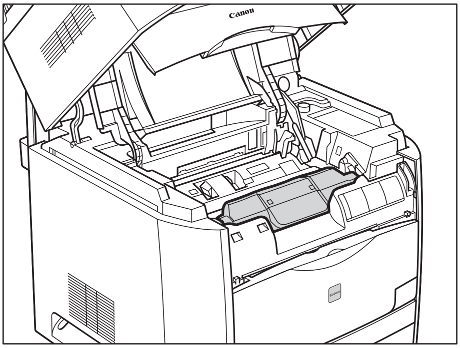
ドラムカートリッジ両側の突起（三角形のマーク）を矢印 ① のように本体のサイド（三角形のマーク）に合わせ、押し込みます。



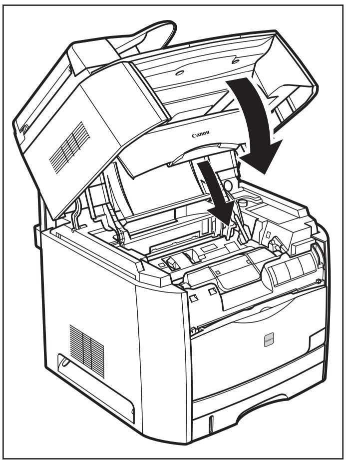
ドラムカートリッジを矢印 ② のように、手前に引くようにロックします。



重要 ●ドラムカートリッジは図のようにしっかりとロックしてください。



7 カートリッジカバーを閉じ、操作パネル部を下げます。



重要
- ドラムカートリッジ交換後、すぐにコピーをとると、画質が粗くなる場合があります。
- ドラムカートリッジ交換後は、本体の稼動音がなくなってからコピーをおとりください。
- ドラムカートリッジ設置後、ディスプレイに＜＊カートリッジヲ　セットシテクダサイ＞が表示されつづける場合は、電源プラグを抜き差ししてください。

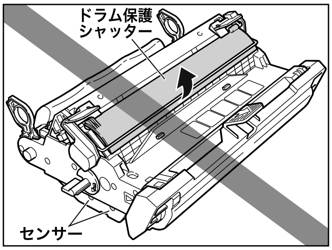
ドラムカートリッジ取り扱いのご注意

ドラムカートリッジは、光に敏感な部品や精密な機構の部品で構成されています。粗雑な取り扱いは、破損や印字品質低下の原因になることがあります。ドラムカートリッジの取り付けや取り外しを行うときは、次の点に気を付けて取り扱ってください。

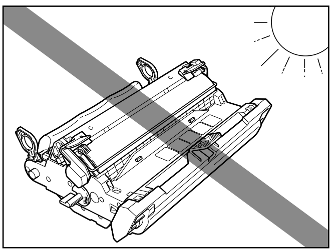
警告
- 使用済みのドラムカートリッジを火中に投じないでください。ドラムカートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。

注意
- トナーで衣服や手を汚さないように注意してください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れがとれなくなることがあります。

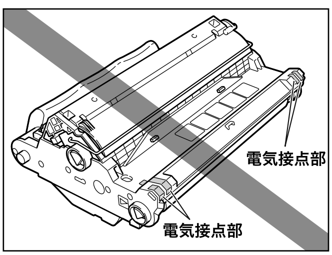
重要
- 内部のドラムを手で触れたり、傷を付けたりすると、印字品質が低下します。絶対に手で触れたり、ドラム保護シャッターを開けないでください。また、センサーなど指示された以外の部分は、持ったり、触れたりしないでください。故障の原因になることがあります。



- ドラムカートリッジは、絶対に直射日光や強い光に当てないでください。



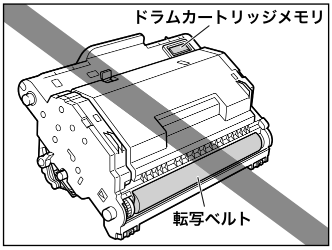
- プリンタの修理のためにドラムカートリッジをプリンタから取り出したときは、すみやかにドラムカートリッジを梱包してあった保護袋に入れてください。
- 電気接点部は、持ったり触れたりしないでください。故障の原因になることがあります。



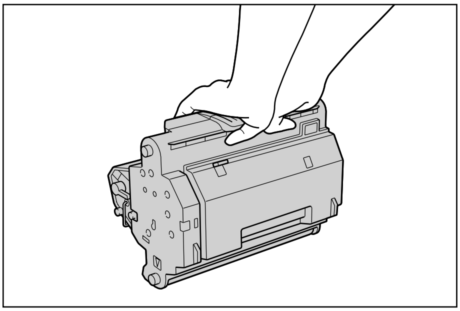
8

日常のメンテナンス

- 転写ベルトは、持ったり触れたりしないでください。印字品質が低下します。また、ドラムカートリッジメモリに衝撃を与えたり、磁気を近づけたりしないでください。故障の原因になることがあります。



- ドラムカートリッジを取り扱う際は、図のように正しく持って取り扱ってください。立てたり、裏返したりしないでください。



- 絶対に分解や改造などをしないでください。
- ドラムカートリッジを急激な温度変化にさらすと、内部や外部に水滴が付着する（結露）ことがあります。寒い場所に保管してあった新品のドラムカートリッジを暖かい場所で取り付けるときなどは、保護袋を開封せずに 2 時間以上置き、周囲の温度に慣らしてから開封してください。
- 交換用に購入したドラムカートリッジは、パッケージに記載された有効期間内に使用してください。
- 交換用のドラムカートリッジは、キヤノン純正品をお使いになることをお勧めします。

ドラムカートリッジの保管

新しいドラムカートリッジや、お手入れの際に取り外したカートリッジを保管するときは次のような点に気をつけて保管してください。

重要

- 新しいドラムカートリッジは、実際に使用するときまで保護袋から出さないでください。
- ドラムカートリッジをお手入れの際に取り外したときは、保護袋に入れ、すぐに厚い布でくるんでください。
- 直射日光の当たる場所は避けてください。
- 高温多湿の場所や、温度変化や湿度変化の激しい場所は避けてください。
  - ・保管温度範囲：0 ～ 35 ℃
  - ・保管湿度範囲：35 ～ 85 % RH（相対湿度・結露しないこと）
- アンモニアなど腐食性のガスが発生する場所や、空気に塩分が多く含まれている場所、ほこりの多い場所などでの保管は避けてください。
- 幼児の手の届かないところに保管してください。

結露とは

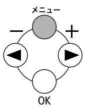
保管湿度範囲内でも、外気との温度差によってドラムカートリッジ外部や内部に水滴が付着することがあります。このように水滴が付着する状態を結露といいます。結露はドラムカートリッジの品質に悪影響をおよぼします。

本製品の梱包と輸送

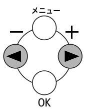
本製品を移動する前に、必ず電源コードを外してください。

長距離輸送の際に起こる振動などの影響を受ける場合があります。故障や、プリント品質が低下する場合がありますので、本製品を移動させるときは以下のことに注意してください。

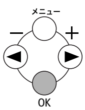
1 **ケーブル類をすべて外します。**



2 **[メニュー] を押します。**



3 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、< 10. メンテナンス >を選択し、[OK] を押します。**



4 **< 1. カートリッジ　コウカン >の表示を確認して、[OK] を押します。**

5 **[◀ (-)] または [▶ (+)] を押して、交換する< 5. ゼンショク >を選択し、[OK] を押します。**

メモ

- < 5. ゼンショク >を選択した場合は、カートリッジカバーを開閉するたびに、交換できるトナーの位置が変わります。カートリッジカバーを開閉しながら、順にトナーを抜き出してください。
- 取り出せないトナーカートリッジがあった場合は、手順5の操作にて個別に色を指定して、交換できるトナーの位置を変えることもできます。
- 途中で止めるときは、[ストップ／リセット] を押します。

6 **操作パネル部を持ち上げます。**

7 **カートリッジカバーを開けます。**

8 **トナーカートリッジを取り外し、購入したときの保護袋に入れ、直射日光の当たらない場所に保管します。**

9 カートリッジカバーを閉じます。

10 次のカートリッジの位置に回転します。手順７～９の操作を繰り返し、全部のトナーカートリッジを取り外します。

11 再度カートリッジカバーを開けます。

12 ドラムカートリッジを取り外し、保管します。

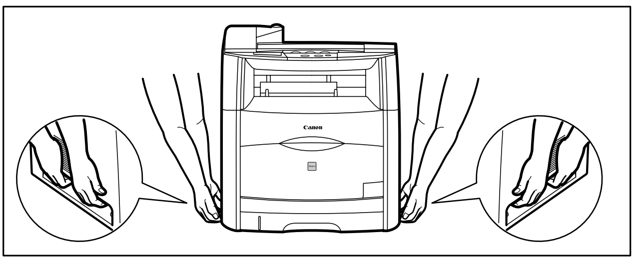
（→ P.8-28「ドラムカートリッジの保管」）

13 カートリッジカバーと操作パネル部を閉めます。

14 原稿給紙トレイを持ち上げて取り外します。

15 電源コードのプラグを抜きます。

本製品を移動する



本製品を持ち上げたり、移動させるときは、原稿給紙トレイを取り外し、図のように２人以上で両側のハンドルをしっかりと持って、慎重に移動させてください。

警告 • 本製品を移動させるときは、２人以上でしっかりと持ってください。怪我の原因となります。

困ったときには

9
CHAPTER

トラブルが発生した場合の対処のしかたについて説明します。ご自分で解決できないときの連絡先も記載されています。

用紙がつまったときには

ここでは、つまった用紙の取り除きかたを説明します。

印字用紙が本体内部でつまると、ディスプレイに<ヨウシガ　ツマリマシタ>と<カバーヲ　アケテ　クダサイ>が交互に表示されます。

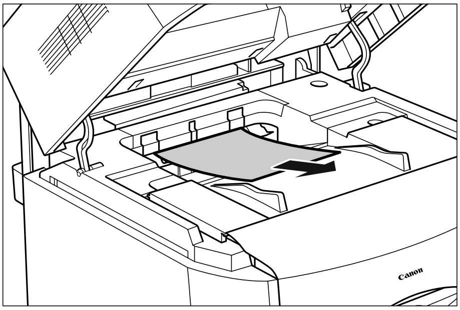
注意
- 本体内部とカートリッジは、高圧や高温を受ける部分があります。内部を調べる際は、やけどや感電をしないように、十分に注意してください。

メモ
- 本体内部からつまった用紙を取り除く際は、用紙についたトナーが手や服につかないように気をつけてください。トナーがついた場合は、すぐに冷水で洗ってください。温水で洗うとトナーが定着し、汚れが落ちなくなることがあります。

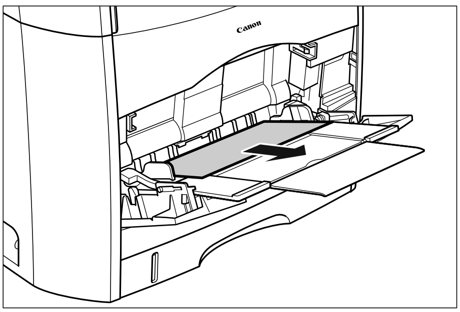
本体内部の紙づまり

ディスプレイに<ヨウシガ　ツマリマシタ>と<カバーヲ　アケテ クダサイ>が交互に表示されたら、次の手順に従って用紙を取り除いてください。

1 **排紙トレイに紙がつまっている場合、つまっている用紙を取り除きます。**

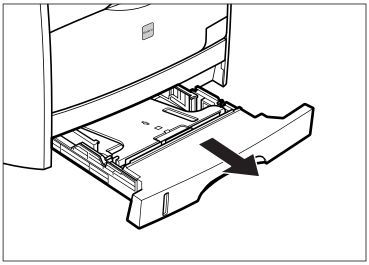


2 **手差しトレイに紙がつまっている場合、つまっている用紙を取り除きます。**

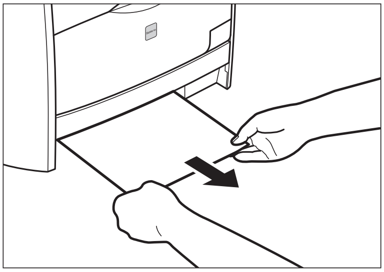


重要
- つまった用紙が簡単に取り除けない場合は、無理に引っぱらずに次の手順に進んでください。

3 給紙カセットを引き出します。

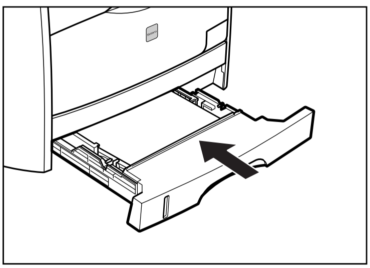


4 つまっている用紙を取り除きます。



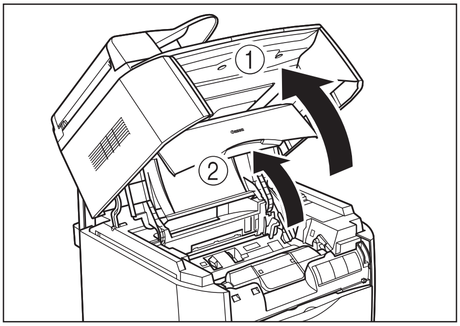
重要
- つまった用紙が簡単に取り除けない場合は、無理に引っぱらずに次の手順に進んでください。

5 給紙カセットをセットします。



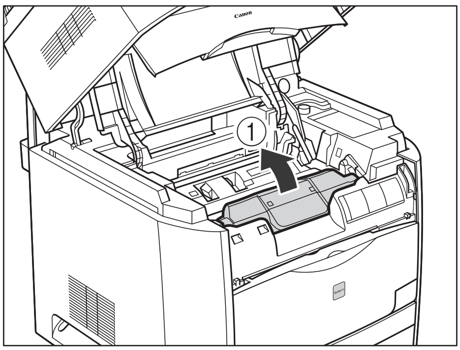
6 操作音が止まったら操作パネル①を上げ、カートリッジカバー②がロックされる位置まで開けます。

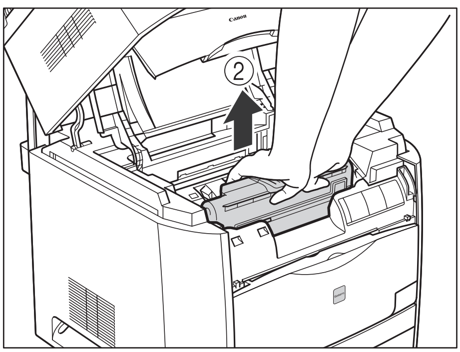
操作パネル部は前面の取っ手を持って、止まるまでいっぱいに開けます。



7 ドラムカートリッジを本体から取り出します。

ドラムカートリッジを矢印①の方向に止まるまで押してから、矢印②のようにまっすぐ上に取り出します。



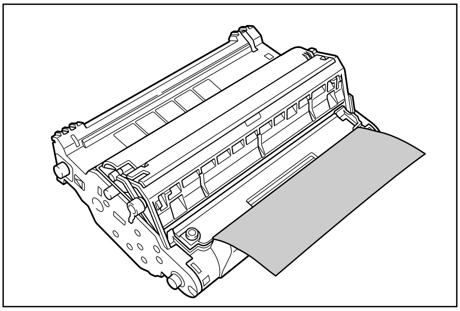


ドラムカートリッジを取り出し、本体内側につまっている用紙を取り除きます。

9

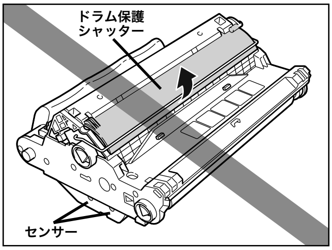
困ったときには

取り出したドラムカートリッジに用紙がつまっているときは、無理に引っぱらずに「ドラムカートリッジ内に用紙がつまっているときには」（→ P.9-21）を参照してください。

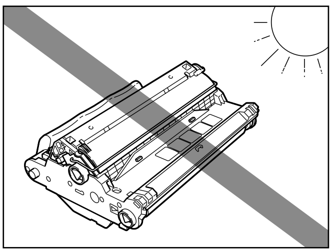


重要

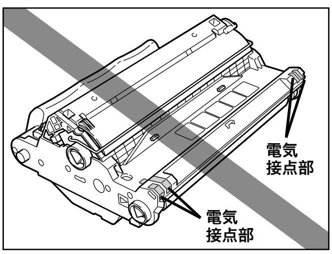
- 内部のドラムを手で触れたり、傷を付けたりすると、印字品質が低下します。絶対に手で触れたり、ドラム保護シャッターを開けないでください。また、センサーなど指示された以外の部分は、持ったり、触れたりしないでください。故障の原因になることがあります。



- ドラムカートリッジは、絶対に直射日光や強い光に当てないでください。

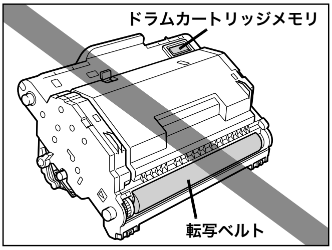


- 電気接点部は、持ったり触れたりしないでください。故障の原因になることがあります。

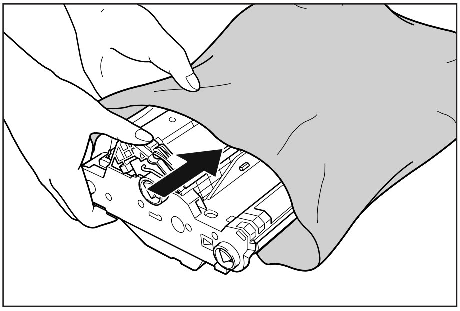


9
困ったときには

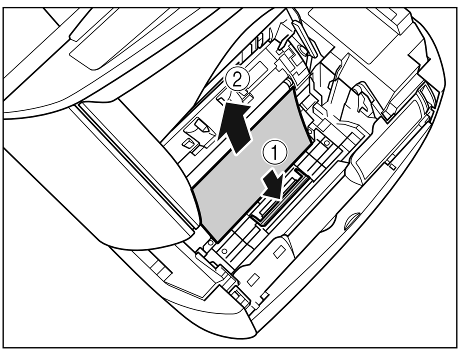
- 転写ベルトは、持ったり触れたりしないでください。印字品質が低下します。また、ドラムカートリッジメモリに衝撃を与えたり、磁気を近づけたりしないでください。故障の原因になることがあります。



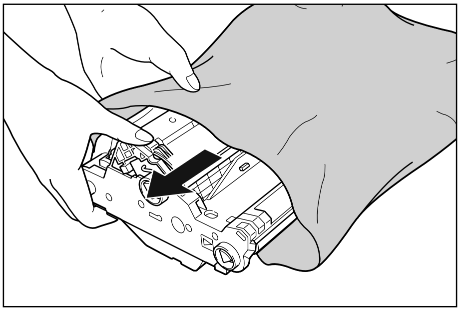
8 ドラムカートリッジを保護袋に入れます。



9 緑色のロック解除レバーを①の方向へ押しながら、つまっている用紙を②の方向へ取り除きます。

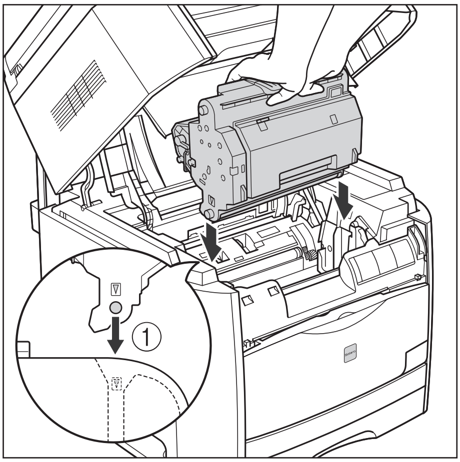


10 ドラムカートリッジを保護袋から取り出します。

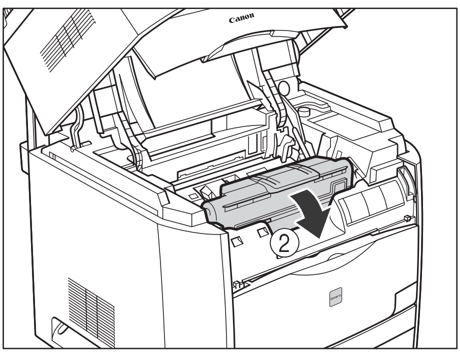


11 ドラムカートリッジを両手で持ち、本体に取り付けます。

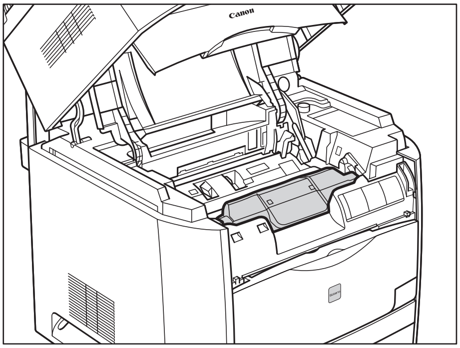
ドラムカートリッジの三角マークを①のように本体の三角マークに合わせて差し込みます。



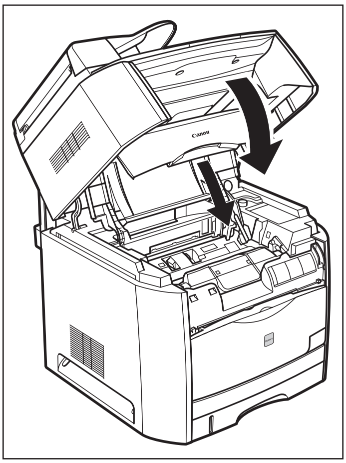
ドラムカートリッジを矢印 ② のように手前に倒してロックします。



重要 • ドラムカートリッジは図のような状態になるまで確実にロックしてください。



12 カートリッジカバーと操作パネル部を閉めます。

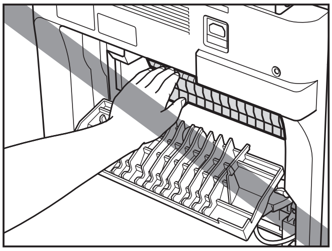


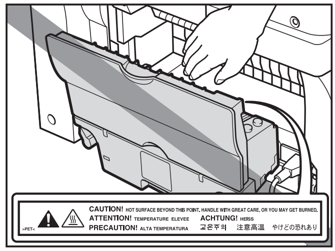
カートリッジカバーを閉めても紙づまりのメッセージが消えないときは、まだ用紙の断片などが内部に残っている可能性があります。再度プリンタの各部を点検し、つまっている用紙を完全に取り除いてください。

本体背面の紙づまり

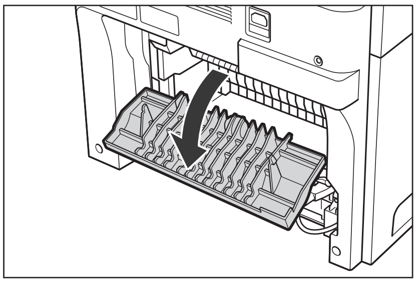
ディスプレイに<ヨウシガ　ツマリマシタ>または、<カバーヲ アケテ　クダサイ>と表示されたら、次の手順に従って用紙を取り除いてください。

⚠注意 • 本製品使用中は定着器が高温になっています。定着器周辺には触れないように注意してください。やけどまたは感電の原因になります。

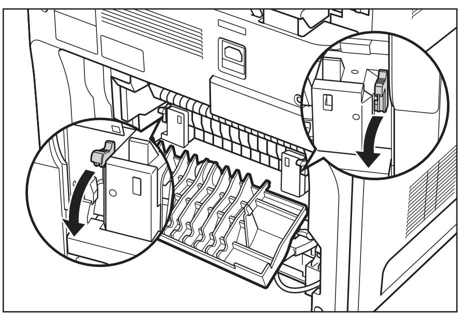




1 **フェイスアップカバーを開けます。**



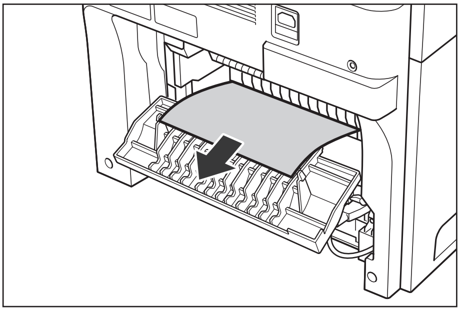
2 **定着ユニットの左右にある緑色のロック解除レバーを手前に倒します。**



9

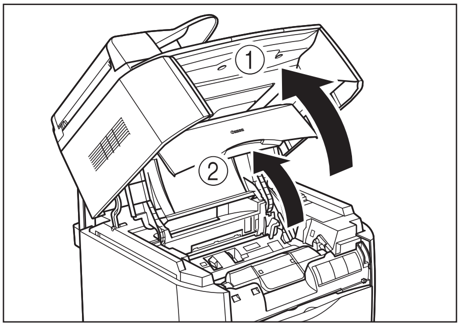
困ったときには

3 つまっている用紙を取り除きます。



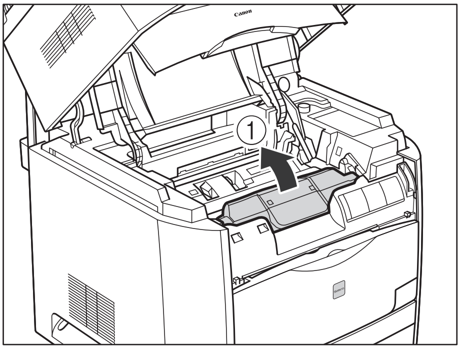
4 操作パネル部①とカートリッジカバー②を開けます。

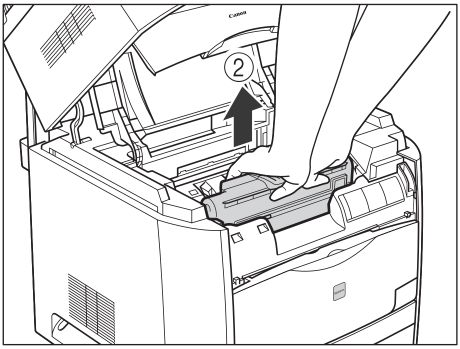
操作パネル部は前面の取っ手を持って、止まるまでいっぱいに開けます。



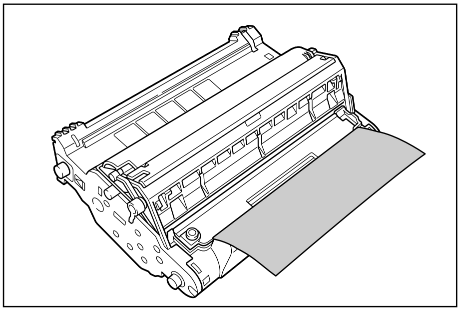
5 ドラムカートリッジを本体から取り出します。

ドラムカートリッジを矢印①の方向に止まるまで押してから、矢印②のようにまっすぐ上に取り出します。

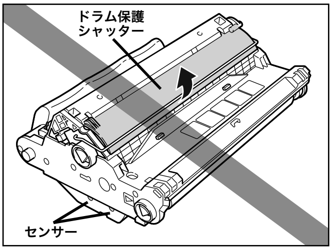




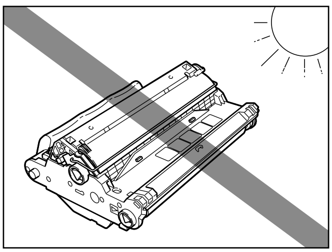
取り出したドラムカートリッジに用紙がつまっているときは、無理に引っぱらずに「ドラムカートリッジ内に用紙がつまっているときには」（→ P.9-21）を参照してください。



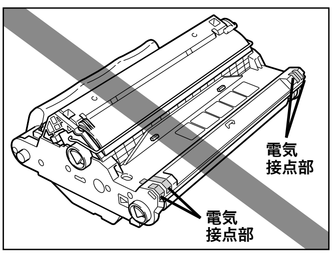
重要
- 内部のドラムを手で触れたり、傷を付けたりすると、印字品質が低下します。絶対に手で触れたり、ドラム保護シャッターを開けないでください。また、センサーなど指示された以外の部分は、持ったり、触れたりしないでください。故障の原因になることがあります。



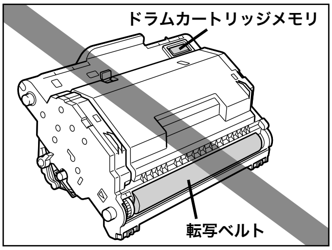
- ドラムカートリッジは、絶対に直射日光や強い光に当てないでください。



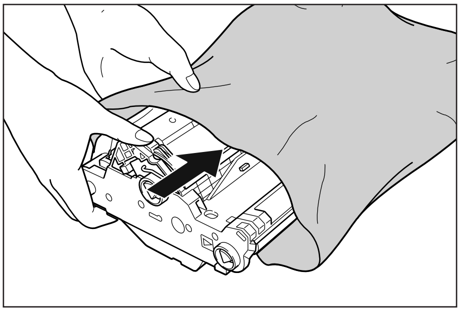
- 電気接点部は、持ったり触れたりしないでください。故障の原因になることがあります。



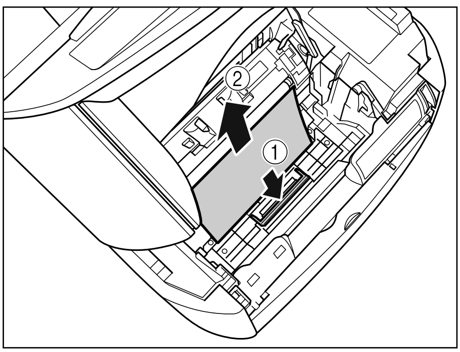
- 転写ベルトは、持ったり触れたりしないでください。印字品質が低下します。また、ドラムカートリッジメモリに衝撃を与えたり、磁気を近づけたりしないでください。故障の原因になることがあります。



6 ドラムカートリッジを保護袋に入れます。



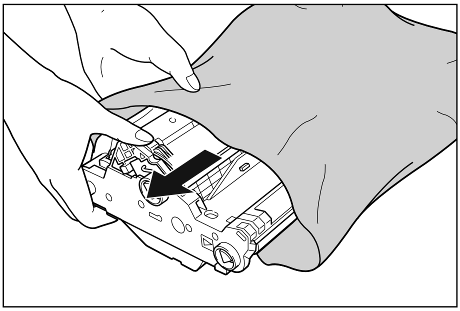
7 緑色のロック解除レバーを①の方向へ押しながら、つまっている用紙を②の方向へ取り除きます。



重要

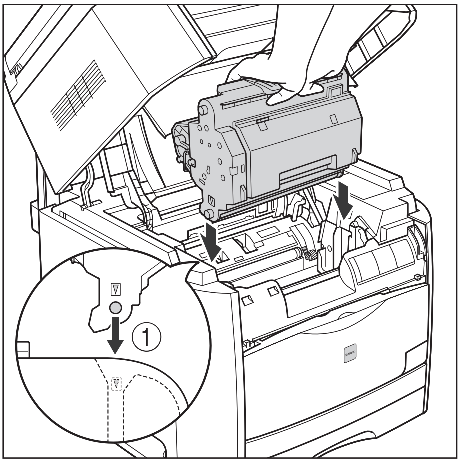
- 上記までの操作で用紙がつまっていなかった場合、本製品背面の定着器内につまっている可能性があります。この場合は、手順 8 ～ 9 を行わずに、手順 11（→ P.9-16）以降に従って用紙を取り除いてください。また、その際、本製品のカートリッジカバーは絶対に閉めないでください。復旧困難な紙づまりの原因になることがあります。定着器内の紙づまりを取り除いたら、手順 8 ～ 10 を行ってドラムカートリッジをセットしてください。

8 ドラムカートリッジを保護袋から取り出します。

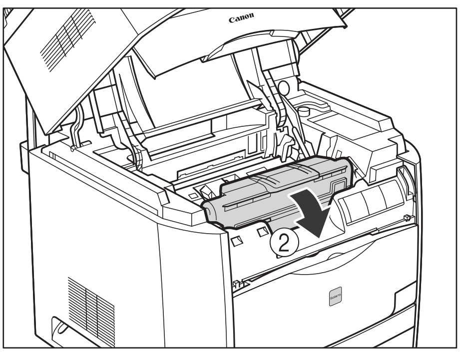


9 ドラムカートリッジを両手で持ち、本体に取り付けます。

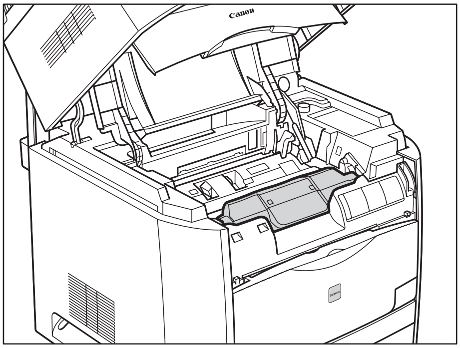
ドラムカートリッジの三角マークを①のように本体の三角マークに合わせて差し込みます。



ドラムカートリッジを矢印 ② のように手前に倒してロックします。

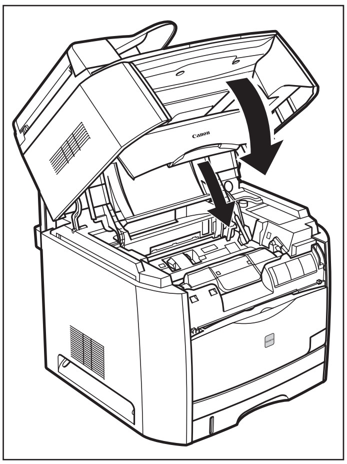


重要 ●ドラムカートリッジは図のような状態になるまで確実にロックしてください。



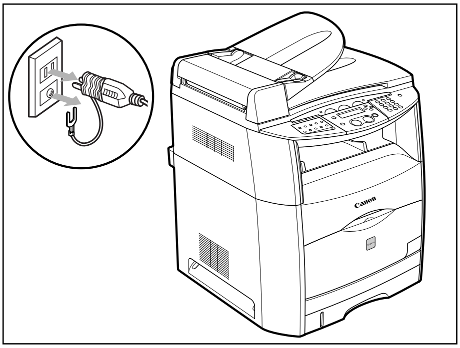
10 カートリッジカバーと操作パネル部を閉めます。

カートリッジカバーは取っ手を最後まで持ってゆっくりと閉めます。

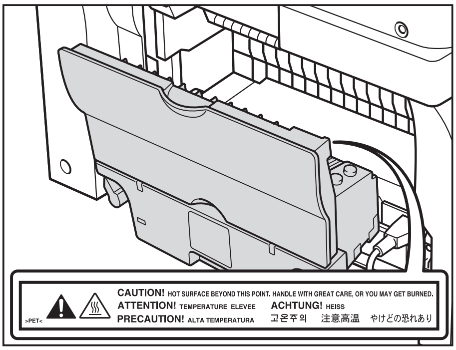


カートリッジカバーを閉めても紙づまりのメッセージが消えないときは、次の手順に進んでください。

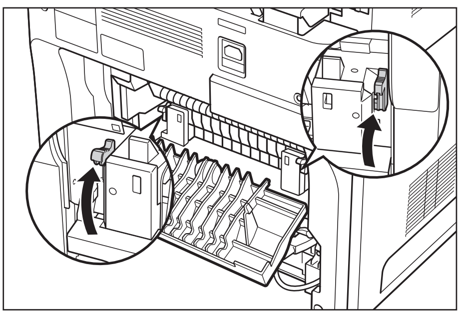
11 電源プラグを電源コンセントから抜いてから、アース線をアース線端子から取り外します。



⚠注意
- 本製品使用中は定着器周辺が高温になっています。以降の手順を行うときは、定着器が完全に冷えてから作業を行ってください。定着器が高温のまま触れると、やけどの原因になることがあります。

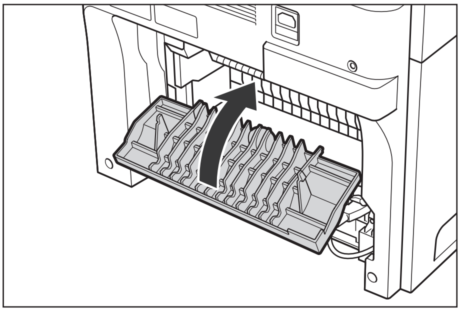


12 定着ユニットの左右にある緑色のロック解除レバーを元にもどします。

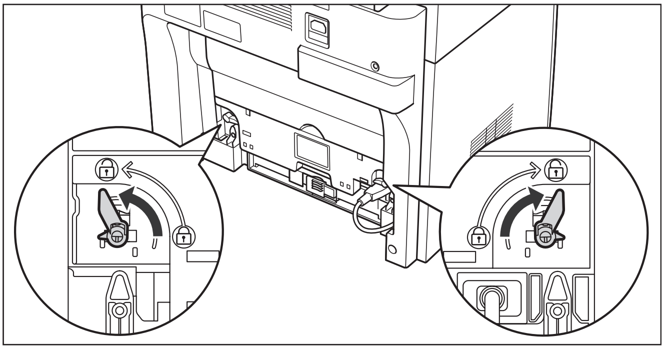


9
困ったときには

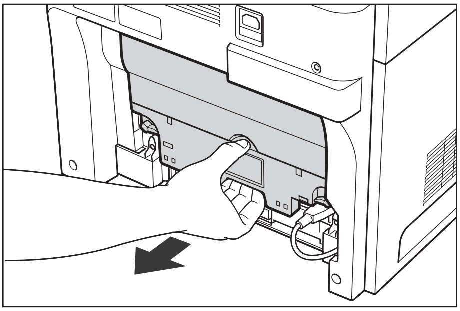
13 フェイスアップカバーを閉めます。



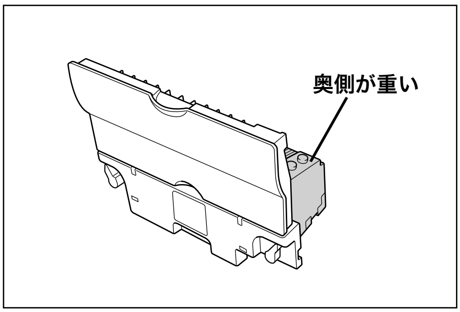
14 本体背面にある2つのロック解除レバーを矢印の方向に回し、ロックを解除します。



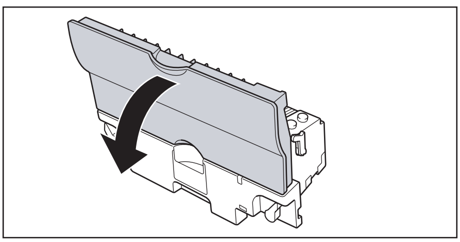
15 定着器の取っ手を持ち、取り外します。



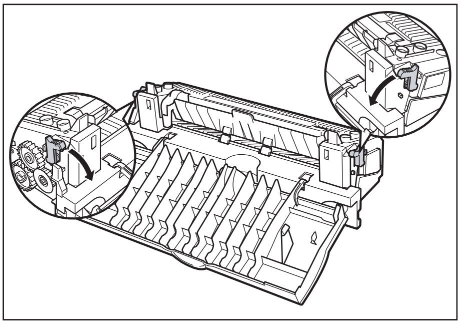
注意 • 定着器は約 1.7kg あり、奥側が重くなっています。定着器を持つときは、取っ手をしっかりと持ってください。足などの上に落とすとけがの原因になることがあります。



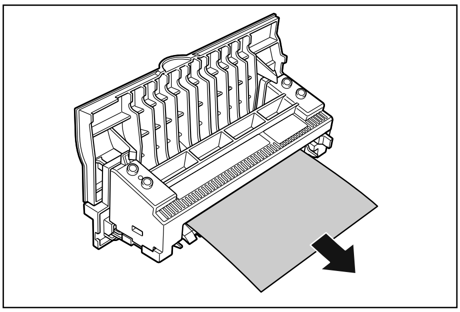
16 サブ出力トレイを開けます。



17 定着ユニットの左右にある緑のロックレバーを手前に倒しロックを解除します。

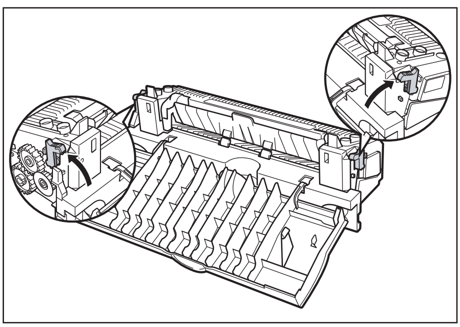


18 つまっている用紙を取り除きます。

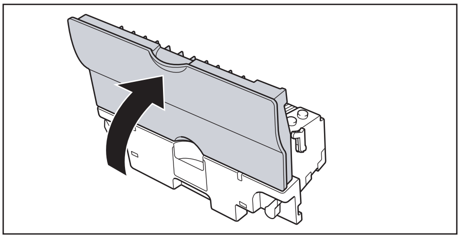


重要
- 用紙が定着ローラに完全に巻き付いていて用紙が取り除けない場合は、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

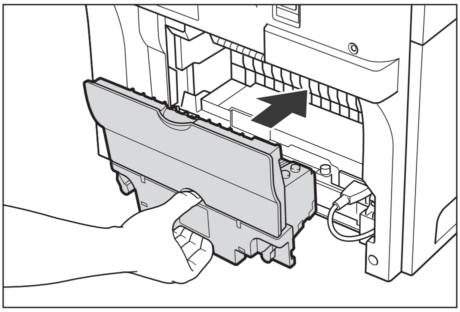
19 定着ユニットにある緑色のロック解除レバーを元の位置に戻します。



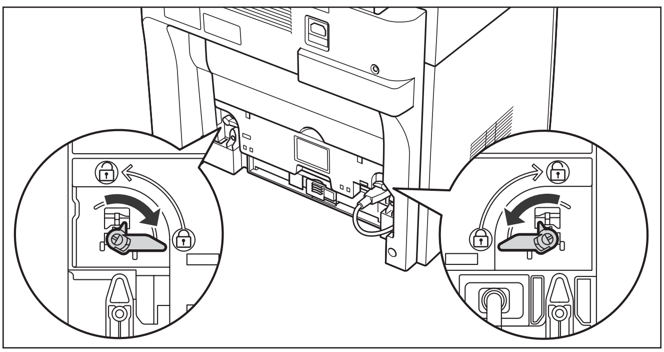
20 サブ出力トレイを閉じます。



21 定着器の取っ手を持ち、しっかりと奥まで取り付けます。



22 2 つのロック解除レバーを矢印の方向に回し、ロックします。



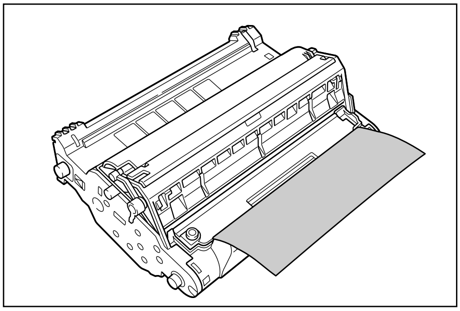
23 すべての接続ケーブルや電源コードを接続します。

24 アース線を専用のアース線端子へ、電源プラグを電源コンセントへ接続します。

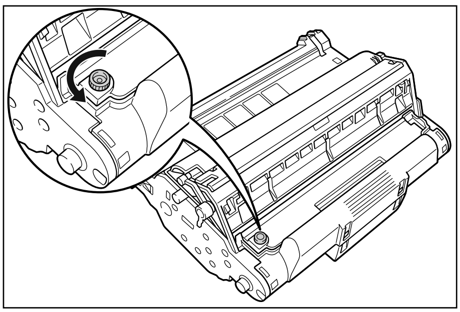
電源プラグを接続しても紙づまりのメッセージが消えないときは、まだ用紙の断片などが内部に残っている可能性があります。再度プリンタの各部を点検し、つまっている用紙を完全に取り除いてください。

ドラムカートリッジ内に用紙がつまっているときには

図のようにドラムカートリッジに用紙がつまっているときは、次の手順で用紙を取り除いてください。

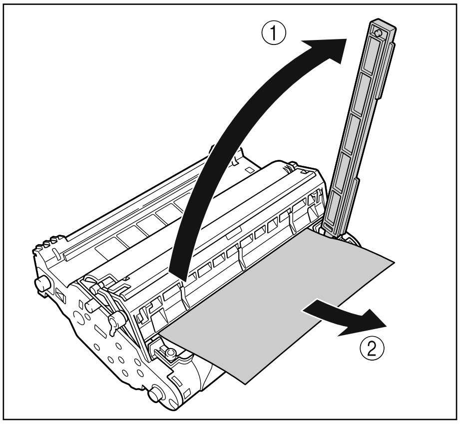


1 ドラムカートリッジのツマミを矢印の方向に回します。

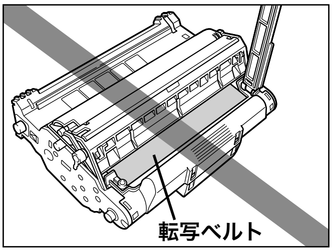


9
困ったときには

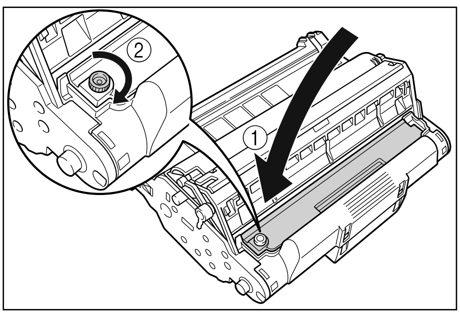
2 ①のようにカバーを上げ、つまっている用紙を②の方向へ取り除きます。



重要 • 転写ベルトには触れないでください。印字品質が低下します。



3 カバーを元の位置に戻し①、ツマミを矢印の方向に回します②。



引き続き、紙づまりの処理を行いますので、次の手順に進んでください。

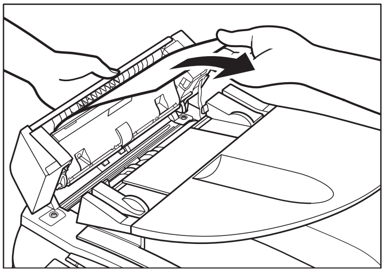
・「本体内部の紙づまり」を処理する場合→ P.9-6 の手順 8
・「本体背面の紙づまり」を処理する場合→ P.9-9 の手順 1

つまった原稿を ADF から取り除く

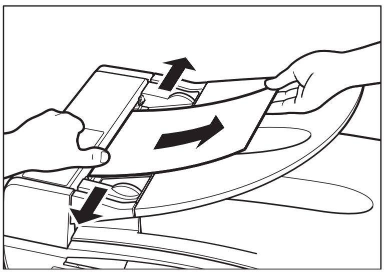
原稿が ADF につまると、ディスプレイに<ゲンコウヲ　テンケン　シテクダサイ>が表示されます。

メモ ● 原稿台ガラスカバーは、紙づまりが解消されるまで開けないでください。用紙がつまったまま開けると、原稿と用紙を傷めることがあります。

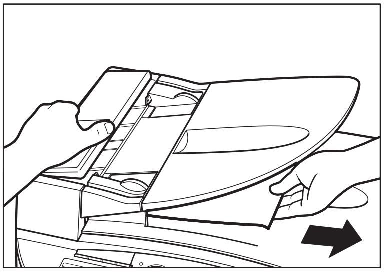
1 **ADF を開けて、つまった原稿を静かに ADF から取り除きます。**



2 **スライドガイドを一杯に開けて、スライドガイドに引っ掛からないように原稿を取り除きます。**



3 ADF を開けて、つまった用紙を静かに排紙トレイから取り除きます。



メモ
- 紙づまりを取り除いたら、ADF にセットし直す前に原稿の縁をそろえてください。

ディスプレイのメッセージ

機能が実行されたとき、または、エラーが発生すると、以下のメッセージがディスプレイに表示されます。

プリンタヲ　テンケン　シテクダサイ

原因 1：プリンタで異常が発生している。

処　置：操作パネル部を上げ、カートリッジカバーを開閉して本体をリセットしてください。それでも表示が消えない場合は、電源コードを電源コンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターに連絡してください。

原因 2：トナーカートリッジが正しく装着されていない。

処　置：トナーカートリッジを正しく装着してください。

カバーガ シマッテ　イマセン

原　因：カートリッジカバーが閉まっていない。

処　置：カートリッジカバーを確認しきちんと閉めてください。

ゲンコウヲ　テンケン　シテクダサイ

原因 1：ADF に紙がつまっている。

処　置：ADF から原稿を取り除いてください。（→ P.9-23「つまった原稿を ADF から取り除く」）
原稿が長すぎたり短すぎたりしないか確認してください。（→ P.3-1「原稿について」）

原因 2：ADF ローラが原稿を送らずに空転している。

処　置：本体にセットする前に用紙の縁をさばき、原稿の縁を平らな面でそろえてください。

ゲンコウガ　ナガスギマス

原　因：原稿が 1 m より長い、または正しく給紙されていない。

処　置：原稿の長さを 1 m 以下にしてください。

ヨウシノ　サイズヲ チェック

原　因：カセットまたは手差しトレイの用紙のサイズが、メニューの＜1.ヨウシ　セッテイ＞の＜1.ヨウシ　サイズ＞設定で指定された用紙サイズと違う。

処　置：正しいサイズの用紙をセットするか、メニューの＜1.ヨウシ　セッテイ＞の＜1.ヨウシ　サイズ＞設定を変更してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」、P.2-18「用紙のサイズを指定する」）
［ストップ／リセット］を押し、操作パネル部を上げて、カートリッジカバーを開閉して本体をリセットします。

＊カートリッジヲ　セットシテクダサイ

原　因：トナーカートリッジが装着されていないか、正しく装着されていない。

処　置：トナーカートリッジを正しく装着してください。（→ P.8-5「トナーカートリッジを交換する」）

＊ ＊には色が入ります。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y: イエロー）

トレイガ イッパイデス

原　因：排紙トレイがいっぱいになっている。

処　置：出力紙を取り除いてください。

チョウセイチュウ
スキャンスタートヲ　マッテイマス

原　因：電源コードを差した直後、または節電モードから復帰後、すぐにコピーができない。

処　置：本体の稼動音が止まるまで、しばらく（約 1 分）お待ちください。電源コードを差した直後は読み込めません。

メモリガ イッパイデス

原因１：大きな原稿のセット時にソートコピーが設定されていたので、メモリがいっぱいになっている。

処　置：原稿を分けて、別々にコピーしてください。

原因２：11 件以上のコピーを予約しようとした。

処　置：本製品は 10 件までコピーを予約できます。現在のジョブが終了するまで待つか、［システムモニタ］で予約されたコピージョブを取り消してください。

プリンタ　データエラー

原　因：処理中のジョブをキャンセルしたとき、次のジョブもスプール済みのジョブリストから削除された。

処　置：キャンセルしたジョブの直後にスプールされたジョブがスプールジョブリストに残っているか確認してください。USB ケーブルをいったん抜いてから差し直すか、電源プラグを抜き差しして、エラーメッセージを消してください。

ヨウシガ　ツマリマシタ

原　因：紙づまりしている。

処　置：紙づまりを解消して（→ P.9-1「用紙がつまったときには」）、用紙をカセットまたは手差しトレイにセットし直してください。［ストップ／リセット］を押し、操作パネル部を上げて、カートリッジカバーを開閉して本体をリセットします。

ヨウシガ　アリマセン

原　因：カセットがセットされていないか、カセットまたは手差しトレイに用紙がセットされていない。

処　置：カセットまたは手差しトレイに用紙をセットしてください。（→　P.2-4「用紙をセットする」）セットできる以上の用紙をカセットにセットしていないかどうか確認してください。
コピー中に用紙をセットする場合は、サイズの違う用紙をセットしないでください。
ディスプレイの２行目に＜カセット＞または＜テザシ＞と用紙サイズが表示されます。この場合は対応する用紙をセットしてください。

プリンタ　エラー
E078

原　因：ドラムカートリッジが正しく装着されていない。

処　置：ドラムカートリッジを正しく装着して、電源コードをもう１度抜き差ししてください。

プリンタ　エラー
E197

原　因：操作部／エンジン部接続コードが抜けている。

処　置：操作部／エンジン部接続コードを差し込み、電源プラグをコンセントから抜き差しして電源を入れ直してください。

プリンタ　エラー
Exxx*

原　因：本体に何らかのエラーが発生している。

処　置：電源コードをコンセントから抜いて３～５分ほど待ち、もう１度電源につなぎます。これで問題が解消しない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターに連絡してください。

*xxx には数字が入ります。

9

困ったときには

＊カートリッジ　モウスグ　コウカン*

原　因：トナーカートリッジの交換時期が近づいている。

処　置：新しいトナーカートリッジに交換してください。（→ P.8-5「トナーカートリッジを交換する」）

* ＊には色が入ります。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー）

ドラム　モウスグ　コウカン

原　因：ドラムカートリッジの交換時期が近づいている。

処　置：新しいドラムカートリッジに交換してください。

＊カートリッジヲ　テンケン＊

原　因：トナーカートリッジを点検する必要がある。

処　置：カートリッジカバーを開け閉めしてみてください。ディスプレイの表示が消えない場合は、すぐに電源を外し、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにお問い合わせください。

＊ ＊には色が入ります。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー）

＊カートリッジヲ　コウカン＊

原　因：トナーカートリッジを交換する必要がある。

処　置：新しいトナーカートリッジに交換してください。（→ P.8-5「トナーカートリッジを交換する」）

＊ ＊には色が入ります。（K：ブラック、C：シアン、M：マゼンタ、Y：イエロー）

ドラムヲ　コウカン　シテクダサイ

原　因：ドラムカートリッジを交換する必要がある。

処　置：新しいドラムカートリッジに交換してください。

ドラムヲ　セットシテクダサイ

原　因：ドラムカートリッジが装着されていない。

処　置：ドラムカートリッジを装着してください。

ハイ　トナーガ　イッパイデス
ドラムヲ　コウカン　シテクダサイ

原　因：ドラムカートリッジ内の廃トナーがいっぱいのため、ドラムカートリッジを交換する必要がある。

処　置：新しいドラムカートリッジに交換してください。

プリントヲ　ホショウデキマセン
＊カートリッジ　ヲ　テンケン

原　因：装着されているトナーカートリッジでは印字品質の保証ができません。

処　置：トナーカートリッジはすでに使用済みか、キヤノン純正以外のカートリッジが装着されています。キヤノン純正のカートリッジに置き換えてください。

＊：C, M, Y, K

給紙のトラブル

用紙がうまく送られない

原因 1：カセットまたは手差しトレイの用紙は、適切な枚数ですか？

処　置：カセットまたは手差しトレイの用紙が、セットできる枚数をオーバーしないようにしてください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

原因 2：用紙が正しくセットされていますか？

処　置：カセットまたは手差しトレイ内の用紙が正しくセットされているか、スライドガイドが正しく調節されているかどうか確認してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

原因 3：カセットが正しく差し込まれていますか？

処　置：カセットは奥までしっかり差し込んでください。カセットが傾いていたり、斜めに差し込まれたりしていないか確認してください。

斜めに用紙が送られる（印刷が曲がっている）

原　因：用紙が正しくセットされていますか？

処置 1：カセットまたは手差しトレイ内の用紙が正しくセットされているか、スライドガイドが正しく調節されているかどうか確認してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

処置 2：排紙の出口がふさがれていないか確認してください。

用紙が重なって送られる

原因 1：用紙が正しくセットされていますか？

処　置：カセットまたは手差しトレイ内の用紙が正しくセットされているか、スライドガイドが正しく調節されているかどうか確認してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

原因 2：カセットまたは手差しトレイにセットする前に、用紙をさばきましたか？

処　置：用紙をさばいてから、カセットまたは手差しトレイにセットしてください。用紙がくっつくのを防ぎます。

原因３：カセットまたは手差しトレイの用紙は、適切な枚数ですか？

処置１：カセットまたは手差しトレイの用紙が、セットできる枚数をオーバーしないようにしてください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

処置２：用紙をカセットまたは手差しトレイに無理に詰め込まないでください。

原因４：カセットまたは手差しトレイにセットされた用紙は、1 種類だけですか？

処置１：1 種類の用紙だけをセットしてください。

処置２：本製品に適した用紙をセットしているかどうか確認してください。（→ P.2-2「使用できる用紙」）

OHP フィルムがうまく送られない

原因１：OHP フィルムが正しくセットされていますか？

処　置：手差しトレイ内の OHP フィルムが正しくセットされているか、スライドガイドが正しく調節されているかどうか確認してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

原因２：適切な OHP フィルムが手差しトレイにセットされていますか？

処　置：カラーコピー機用の OHP フィルムは使わないでください。紙づまりの原因になります。当社推奨のモノクロ OHP フィルムをお使いください。

用紙がカールして送られる

原　因：適切な用紙がセットされていますか？

処　置：適切な用紙がカセットまたは手差しトレイにセットされているかどうか確認してください。（→ P.2-2「使用できる用紙」）

用紙が雑に排紙される

原　因：適切な用紙がセットされていますか？

処置１：適切な用紙がカセットまたは手差しトレイにセットされているかどうか確認してください。（→ P.2-1「使用できる用紙について」）

処置２：手差しトレイを使用の場合は、メニューの< 1. ヨウシ　セッテイ>の< 2. デザイントレイ>の中にある< 2. カミシュ>で適切な用紙種類を選択してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

紙づまりが何度も起きる

原因 1：適切な用紙がセットされていますか？

処　置：お使いの用紙のサイズ、厚さ、種類を確認してください。（→ P.2-2「使用できる用紙」）

原因 2：適切な用紙が正しくセットされていますか？

処　置：用紙をさばいてから、カセットにセットしてください。用紙がくっつくのを防ぎます。

原因 3：排紙トレイがふさがれていませんか？

処置 1：排出された用紙を、排紙トレイに戻さないでください。（→ P.2-22「フェイスダウン排紙エリア」）

処置 2：用紙以外の物を排紙トレイに置かないでください。（→ P.2-22「フェイスダウン排紙エリア」）

原因 4：適切な場所に設置されていますか？

処　置：本製品の設置場所を確認してください。（本製品の仕様については、P.11-1「仕様」を参照してください。安全上の警告や注意については、P.ix「安全にお使いいただくために」を参照してください。）

封筒がうまく送られない

原因 1：封筒が正しくセットされていますか？

処　置：封筒が正しくセットされているかどうか確認してください。（→ P.2-14「封筒を手差しトレイにセットする」）

原因 2：適切な封筒がセットされていますか？

処　置：推奨封筒（洋形 4 号、洋形 2 号、ISO-C5）を手差しトレイにセットしてください。（→ P.2-14「封筒を手差しトレイにセットする」）

コピーのトラブル

コピーできない

原因１：トナーカートリッジが正しく装着されていますか？

処　置：トナーカートリッジが正しく装着されているかどうか確認してください。(→P.8-5「トナーカートリッジの交換について」)

原因２：トナーカートリッジのシーリングテープが抜かれていますか？

処　置：トナーカートリッジからシーリングテープを抜いてください。(→ P.8-5「トナーカートリッジの交換について」)

原因３：カセットが本体にきちんと差し込まれていますか？

処　置：カセットは奥までしっかり差し込んでください。(→　P.2-4「用紙をカセットにセットする」)

原因４：電源コードを接続したばかりですか？

処　置：本体の稼動音が止まるまで、しばらくお待ちください。電源コードの接続直後は原稿を読み取れません。

原因５：節電モードになっていませんか？

処　置：節電モードのときは本製品で原稿を読み取れません。[節電] を押して節電モードを解除してください。

ADF で用紙を送ると、原稿に黒いスジや汚れがつく

原　因：原稿台ガラスの読取部が汚れていませんか？

処　置：原稿台ガラスの読取部を清掃してください。(→ P.8-2「ADF エリアのお手入れ」)

メモ
- このほか「印字品質のトラブル」(→ P.9-35) も参考にしてください。

印字品質のトラブル

印字品質がよくない。印刷が不鮮明、ドットが欠けている、白いスジが入る

原因 1：お使いの用紙のサイズ、厚さ、種類は、本製品の仕様の範囲内ですか？

処　置：お使いの用紙が本製品の仕様に対応しているかどうか確認してください。（→ P.2-1「使用できる用紙について」）

原因 2：カートリッジが正しく装着されていますか？

処　置：カートリッジが正しく装着されているかどうか確認してください。（→ P.8-5「トナーカートリッジを交換する」）

原因 3：トナーカートリッジにトナーが残っていますか？

処　置：「トナーカートリッジを交換する」（→ P.8-5）を参考に、必要ならばカートリッジを交換してください。

原因 4：濃度が正しく調整されていますか？

処　置：［濃度］で正しく調整してください。（→ P.5-6「濃度を調節する」）

コピーが汚い

原因 1：原稿台ガラスや原稿台ガラスカバーが汚れていませんか？

処　置：原稿台ガラスや原稿台ガラスカバーを清掃してください。（→ P.8-2「ADF エリアのお手入れ」）

原因 2：トナーカートリッジかドラムカートリッジが損傷していませんか？

処　置：トナーカートリッジかドラムカートリッジに傷がある場合は、新しいカートリッジと交換してください。（→ P.8-5「トナーカートリッジを交換する」）

原因 3：本製品は室温になじんでいますか？ そうでない場合は、内部で結露が発生していることがあります。

処　置：本製品を使用する前に、2 時間以上かけて室温になじませてください。

原因 4：安定した場所に設置されていますか？

処　置：本製品を適切な場所に設置してください。

コピーが濃すぎる、薄すぎる

原因１：濃度が正しく調整されていますか？

処　置：[濃度] で正しく調整してください。（→ P.5-6「濃度を調節する」）

原因２：トナーセーブモードが設定されていますか？

処　置：メニューの＜ 2. キョウツウ　キノウ　セッテイ＞の＜ 3. シロクロプリント　トナーセーブ＞（→ P.10-3）で＜シナイ＞を選択してください。

厚手の用紙にコピーすると、画像が部分的に欠けたり、ぼやけた状態になる

原　因：用紙の種類が正しく設定されていますか？

処　置：メニューの＜ 1. ヨウシ　セッテイ＞の＜ 2. デザイントレイ＞の中にある＜ 2. カミシュ＞で＜アツガミ＞を選択してください。（→ P.2-19「用紙の種類を指定する」）

目の粗い用紙にコピーすると、画像が欠ける

原　因：用紙の種類が正しく設定されていますか？

処　置：メニューの＜ 1. ヨウシ　セッテイ＞の＜ 2. デザイントレイ＞の中にある＜ 2. カミシュ＞で＜ OHP フィルム＞を選択してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

コピーすると、コピーの縁が汚い

原　因：用紙サイズが正しく設定されていますか？

処　置：メニューの＜ 1. ヨウシ　セッテイ＞の＜ 1. ヨウシサイズ＞に適切な用紙サイズを指定してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

2 色以上のトナーを重ねた画像がかすれる

原　因：用紙が適切ですか？

処　置：本製品で使用できる用紙と交換してください。（→ P.2-2「使用できる用紙」）

色ズレにより正しい色（指定した色）でプリントされない、カラーの文字がぼやけて見える

原因 1：4 色のカートリッジのいずれかのトナー残量が少ない、またはカートリッジが劣化していませんか？

処　置：残トナーがなくなりかけている色のトナーカートリッジを新しいトナーカートリッジに交換してください。（→ P.8-5「トナーカートリッジを交換する」）

原因 2：用紙が適切ですか？

処　置：本製品で使用できる用紙と交換してください。（→ P.2-2「使用できる用紙」）

原因 3：電源投入時など、キャリブレーション終了前にデータを送っていませんか？

処　置：稼動音がなくなり、待受画面になっていることを確認してから、データを送ってください。

カラーの線や文字がかすれる

原　因：細い線や文字を使用していませんか？

処　置：プリンタドライバのプロパティ画面または印刷設定画面の［印刷品質］タブで［詳細］をクリックし、［詳細設定］画面で［色付きの線や文字を優先して印刷する］にチェックマークを付けてください。（→「ソフトウェアガイド」）

カラーの文字がぼやけて見える

原　因：カラーの文字に太いフォントを使用していませんか？

処　置：プリンタドライバのプロパティ画面または印刷設定画面の［印刷品質］タブで［色の設定を行う］にチェックマークを付けて［色設定］をクリックし、［色設定］画面の［マッチング］タブで［マッチング方法］を［写真調］に設定してください。（→「ソフトウェアガイド」）

細い線や塗りつぶしパターンの色が指定した色でプリントされない、または消えてしまう

原因 1：色やパターンの組み合わせでコピーされていますか？

処置 1：アプリケーションソフトで色を調整して、プリントし直してください。

処置 2：アプリケーションソフトでパターンを変更して、プリントし直してください。

原因 2：網点のパターンにより、色が違って見えていますか？

処　置：濃い色に変更して、プリントし直してください。

網かけパターンが正しい色（指定した色）でプリントされない

原　因：プリントデータの網かけパターンとプリンタのディザパターンが干渉していますか？

処置 1：アプリケーションソフトで網かけパターンの設定をしないで、プリントし直してください。

処置 2：プリンタドライバのプロパティ画面または印刷設定画面の［印刷品質］タブで［詳細］をクリックし、［詳細設定］画面の［カラー中間調］を［階調］または［色調］に設定してください。（→「ソフトウェアガイド」）

写真などのプリントでディスプレイの色とプリントの色が異なる

原　因：画面（RGB）とプリンタ（CMYK）で色の調整方法が異なるため、プリントでは、画面の色が忠実に再現できない場合がある。

処置 1：プリンタドライバで［マッチング方法］の設定を［写真調］に設定してください。［マッチング方法］の設定は、［印刷品質］タブの［色の設定を行う］にチェックマークを付け、［色設定］をクリックして［マッチング］タブで行ってください。（→「ソフトウェアガイド」）

処置 2：プリンタドライバのプロパティ画面または印刷設定画面の［印刷品質］タブで［色の設定を行う］にチェックマークを付けて［色設定］をクリックし、［色設定］画面の［マッチング］タブで［マッチングモード］を［ガンマ補正］に設定してガンマ値を選択してください。（→「ソフトウェアガイド」）

印刷のトラブル

エラーランプが点灯する

原　因：用紙はうまく送られますか？　カセットまたは手差しトレイ内に用紙はありますか？

処置 1：紙づまりを直すか、カセットまたは手差しトレイに用紙をセットしてください。（紙づまりの直し方は「用紙がつまったときには」（→ P.9-1）、用紙のセットの仕方は「用紙をセットする」（→ P.2-4）を参照してください。）

処置 2：紙づまりでない場合、カセットまたは手差しトレイ内に用紙がセットされている場合は、電源コードをコンセントから抜いて 3 〜 5 分ほど待ってから、もう 1 度電源につないでください。問題が解消されていれば、エラーランプが消えてディスプレイは待受画面に戻ります。エラーランプが消えない場合は、電源コードをコンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにお問い合わせください。

プリントアウトが用紙サイズに合わない

原　因：用紙がカセットに正しくセットされていますか？　用紙が手差しトレイに正しくセットされていますか？

処　置：用紙が正しくカセットにセットされているか、手差しトレイに正しくセットされているかどうか確認してください。（→ P.2-4「用紙をセットする」）

スキャンのトラブル

原稿をスキャンできない

原因 1：電源コードを接続したばかりですか？

処　置：本体の稼動音が止まるまで、しばらくお待ちください。電源コードの接続直後は原稿を読み取れません。

原因 2：原稿が正しくセットされていますか？

処置 1：原稿を取り出して、必要ならば端をそろえて、ADF に正しくセットしてください。（→ P.3-4「ADF に原稿をセットする」）

処置 2：ADF が閉じているかどうか確認してください。

原因 3：USB ケーブルがきちんと接続されていますか？

処　置：USBケーブルが本製品とコンピュータにきちんと接続されていることを確認してください。いったん USB ケーブルを抜き、しばらくしてからもう 1 度正しく接続してください。

原因 4：節電モードはオフになっていますか？

処　置：節電モードから復帰するには、[節電] を押してください。節電モードのときは、操作パネルの操作では原稿を読み取れません。節電モード中でもコンピュータからはスキャンすることができます。

スキャンしたイメージが汚い

原　因：原稿台ガラスと原稿台ガラスカバーが汚れていませんか？

処　置：原稿台ガラスと原稿台ガラスカバーを清掃してください。（→ P.8-2「読み取りエリアの清掃」）

イメージの左側が欠ける

原　因：原稿は原稿台ガラスに正しくセットされていますか？

処　置：原稿台ガラスの端から約 3mm 離れた位置に原稿をセットしてください。

共通のトラブル

電源が入らない

原　因：電源コードはきちんと接続されていますか？

処　置：電源コードが、本製品とコンセントにきちんと接続されているかどうか確認してください。このとき、本製品背面の電源ソケットにまっすぐ差し込まれていることを確認してください。斜めに差し込まないようにしてください。まっすぐ差し込まれていないと、本製品が電源にきちんと接続されず、起動することができません。この場合は、いったん電源コードを抜き、2～3分待ってから、もう1度きちんと電源に接続してください。

ディスプレイに何も表示されない

原因1：電源コードはきちんと接続されていますか？

処　置：電源コードが、本製品とコンセントにきちんと接続されているかどうか確認してください。このとき、本製品背面の電源ソケットにまっすぐ差し込まれていることを確認してください。斜めに差し込まないようにしてください。まっすぐ差し込まれていないと、本製品が電源にきちんと接続されず、起動することができません。この場合は、いったん電源コードを抜き、2～3分待ってから、もう1度きちんとコンセントに接続してください。
それでもディスプレイに何も表示されないときは、電源コードをコンセントから抜いて、本製品内部の温度が下がるまで3～5分ほど待ってから、もう1度電源に接続します。ディスプレイに何も表示されないときは、電源コードをコンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

原因2：節電キーが点灯していませんか？

処　置：節電キーが点灯中は、節電モードになっています。節電モードから復帰するには、[節電]を押してください。

トラブルが解決しない場合

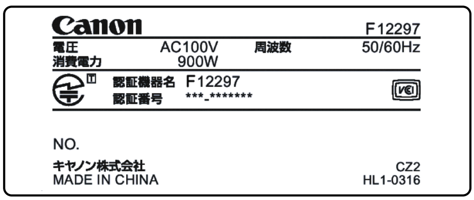
本製品にトラブルが発生し、この章の説明でも解決できない場合は、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

警告　• 本製品から変な音がしたり、煙が出たり変なにおいがする場合は、すぐに電源コードを電源コンセントから抜いて、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。ご自分で分解したり、修理したりしないでください。

重要　• ご自分で修理した場合、保証の対象外になることがあります。

お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターに連絡する前に、本製品に関する以下の情報をご用意ください。

- 本製品の名称：
  Satera MF8180
- 本製品の製造番号
  （本体 ADF の右下面ラベルに記載されています。）



- ソフトウェアのバージョン（「ソフトウェアガイド」の「第６章　用語集」を参照してください。）
- ご購入店
- トラブルの詳細な説明
- トラブルを解決するために取った措置とその結果

各種機能を登録する／設定する

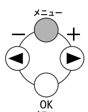
10
CHAPTER

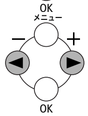
登録／設定メニューで使用できる各種設定内容について説明します。設定できる項目や値の一覧も記載されています。

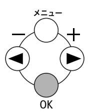
登録／設定メニューを使う

メモ
- ファクス機能の設定と登録は、「ファクスガイド」の「第８章　各種機能を登録する／設定する」を参照してください。

設定の変更は次の手順で行います。







1 [メニュー] を押します。

2 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して変更するメニューを選択し、[OK] を押します。

設定項目が表示されます。

3 [◀ (-)] または [▶ (+)] を押して変更する項目を選択し、[OK] を押します。

メモ
- 各メニュー項目については、「メニューの設定内容」（→ P.10-2）を参照してください。
- [OK] を押す前に [ストップ／リセット] を押すと、選択した項目は登録されません。
- メニューから出るには、[ストップ／リセット] を押します。
- [メニュー] を押すと、前の画面に戻ります。
- メニューで設定した設定値は自動的には以前の設定に戻りません。以前の設定に戻すときは新たに設定し直してください。

メニューの設定内容

用紙設定

設定項目	設定内容
1. ｶｾｯﾄ	
1. ﾖｳｼ ｻｲｽﾞ	カセットにセットした用紙のサイズを選択します。 セットできる用紙サイズは、 **A4** 、B5 、A5 、EXEC 、LTR 、LGL です。
2. ﾃｻﾞ ｼﾄﾚｲ	
1. ﾖｳｼ ｻｲｽﾞ	手差しトレイにセットする用紙のサイズを選択します。 セットできる用紙サイズは、**A4**、B5、A5、LTR、LGL、封筒（ISO-C5、洋形４号、洋形２号から指定可能）、はがき、往復はがきです。
2. ｶﾐｼｭ	手差しトレイで使用する用紙の種類を選択します。 セットできる用紙の種類は、**普通紙**、厚紙、OHP フィルムです。

（**太字**は工場出荷時の設定）

共通機能設定

設定項目	設定内容
1. ｼｮｷ ﾓｰﾄﾞ	本製品の初期設定モードをコピー、ファクス、スキャンから選択します。 電源コードの接続時やオートクリアされたときに、ディスプレイに表示されるモードを選択します。
ｺﾋﾟｰ	コピーモードが選択されます。
ﾌｧｸｽ	ファクスモードが選択されます。
ｽｷｬﾝ	スキャンモードが選択されます。
2. ｵﾝﾘｮｳ ﾁｮｳｾｲ	本製品の警告音量またはアラーム音量を調節します。
1. ｷｰ ﾀｯﾁ ｵﾝﾘｮｳ	キータッチ音量を調節します。 0 〜 3（**1**）
2. ｱﾗｰﾑ ｵﾝﾘｮｳ	アラーム音量調整を設定します。 0 〜 3（**1**）

（**太字**は工場出荷時の設定）

設定項目	設定内容
3. ｿｳｼﾝ ｼｭｳﾘｮｳｵﾝﾘｮｳ	送信終了音量調整を設定します。
ｴﾗｰｼﾞ ﾉﾐ ﾅﾗｽ	送信をしている間にエラーが発生した時のみ送信終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
ﾅﾗｻﾅｲ	送信終了音を消します。
ﾅﾗｽ	送信終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
4. ｼﾞｭｼﾝ ｼｭｳﾘｮｳｵﾝﾘｮｳ	受信終了音量調整を設定します。
ｴﾗｰｼﾞ ﾉﾐ ﾅﾗｽ	受信をしている間にエラーが発生した時のみ受信終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
ﾅﾗｻﾅｲ	受信終了音を消します。
ﾅﾗｽ	受信終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
5. ﾌﾟﾘﾝﾄ ｼｭｳﾘｮｳｵﾝﾘｮｳ	プリント終了音量調整を設定します。
ｴﾗｰｼﾞ ﾉﾐ ﾅﾗｽ	プリントをしている間にエラーが発生した時のみプリント終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
ﾅﾗｻﾅｲ	プリント終了音を消します。
ﾅﾗｽ	プリント終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
6. ﾖﾐﾄﾘ ｼｭｳﾘｮｳ ｵﾝﾘｮｳ	読み取り終了音量調整を設定します。
ｴﾗｰｼﾞ ﾉﾐ ﾅﾗｽ	スキャンをしている間にエラーが発生した時のみ読み取り終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
ﾅﾗｻﾅｲ	読み取り終了音を消します。
ﾅﾗｽ	読み取り終了音を鳴らします。 1～3（**1**）
7. ﾖﾋﾞﾀﾞｼ ｵﾝﾘｮｳ	呼び出し音量を調節します。 1～3（**1**）
8. ﾂｳｼﾝ ｵﾝﾘｮｳ	通信音量を調節します。 0～3（**1**）
3. ｼﾛｸﾛﾌﾟﾘﾝﾄ ﾄﾅｰｾｰﾌﾞ	モノクロコピー時でのトナーセーブモードを設定します。この機能はカラーコピーでのご使用は出来ません。
ｼﾅｲ	トナーセーブモード機能を設定しません。
ｽﾙ	トナーセーブモード機能を設定します。

（**太字**は工場出荷時の設定）

設定項目	設定内容
4.ﾄ ｸｼｭ ｲﾝｼﾞ ｼｮﾘ	コピーの品質を改善、補正するための設定をします。このオプション機能を指定する前によく説明をお読みください。 メモ 問題が改善されましたら、初期設定<ｼﾅｲ>にリセットしてください。
ｼﾅｲ	特殊印字処理を設定しません。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ 1	通常、本製品で一度プリントした用紙への裏面へのプリントはお勧めしませんが、やむを得ず用紙の両面にプリントしなければならないときには、裏面へのプリント時に［特殊設定 1］を設定します。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ 2	用紙の種類や使用環境（特に低湿度環境）によっては、文字やパターンの周囲にトナーが飛び散ったような跡が見受けられることがあります。このような場合に、［特殊設定 2］に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。 メモ 温度や湿度が高いところに保管されている用紙を使用する場合には、［特殊設定 2］に設定しないでください。印字品質が低下することがあります。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ 3	濃度の濃い原稿をプリントすると、次ページに残像が現れる場合があります。このような場合に、［特殊設定 3］に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ 4	使用環境（特に高湿度環境）によっては、黒色画像中に斑点あるいは縞状の画像不良が発生することがあります。このような場合に、［特殊設定 4］に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ 5	表面の粗い厚紙を使用すると、十分にトナーが定着されずに、印字がかすれてしまうことがあります。このような場合に、［特殊設定 5］に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。 メモ 薄い用紙を使用する場合には、［特殊設定 5］に設定しないでください。用紙が定着器に巻きつく等のトラブルの原因になります。 ［特殊設定 5］に設定する前に、［用紙タイプ］を［厚紙］に設定してプリントしてください。それでも、かすれが目立つときには、［特殊設定 5］に設定してプリントしてください。

（**太字**は工場出荷時の設定）

設定項目	設定内容
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ６	薄い用紙を使用すると、排紙された用紙のカールが目立ったり、黒い文字の残像が本来の印字部分以外に現れたりすることがあります。このような場合に、[特殊設定 6] に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。 メモ 厚い用紙を使用する場合には、[特殊設定 6] に設定しないでください。十分にトナーが定着されずに、印字がかすれてしまうことがあります。 [特殊設定 6] に設定する前に、[用紙タイプ] を [普通紙] に設定してプリントしてください。それでも、カールが目立つときや残像が現れるときには、[特殊設定 6] に設定してプリントしてください。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ７	ラベル用紙を使用すると、十分にトナーが定着されずに、印字がかすれてしまうことがあります。このような場合に、[特殊設定 7] に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。
ﾄｸｼｭｾｯﾃｲ８	用紙の種類や使用環境（特に高湿度環境）によっては、特に赤、青、緑といった 2 色以上のトナーを重ねた画像がかすれてしまうことがあります。このような場合に、[特殊設定 8] に設定すると、プリント結果を改善できる場合があります。

コピー仕様設定

設定項目	設定内容
1. ﾋｮｳｼﾞｭﾝ ｶﾞｼﾂ	原稿の種類を選択します。
ﾓｼﾞ／ｼｬｼﾝ	文字／写真モード ３段階のﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲができます。 **ﾋｮｳｼﾞｭﾝ**、ｼｬｼﾝ ﾕｳｾﾝ、ﾓｼﾞ ﾕｳｾﾝ
ﾓｼﾞ	文字モード
ｼｬｼﾝ	写真モード
2. ﾋｮｳｼﾞｭﾝ ﾉｳﾄﾞ	自動または手動の濃度設定モードを選択します。
ｼｭﾄﾞｳ	濃度を手動で調節します。 濃度は９段階で調節できます。（**5**）
ｼﾞﾄﾞｳ	濃度が自動調整されます。自動設定は白黒コピーのみ有効です。
3. ﾋｮｳｼﾞｭﾝ ﾊﾞｲﾘﾂ	拡大／縮小率を選択します。
ｼｭﾄﾞｳ	50%～ 200%の範囲で拡大／縮小率を選択します。（**100%**）
ﾃｲｹｲ ﾍﾝﾊﾞｲ	定形変倍を選択します。用紙サイズグループを変更すると、定形変倍も変わります。（**ﾄｳﾊﾞｲ**）
4 . ﾋｮｳｼﾞｭﾝ ﾌﾞｽｳ	コピー枚数を選択します。 1 ～ 99（1）
5. ｼﾞﾄﾞｳ ｿｰﾄ	自動ソート機能を設定します。
ｼﾅｲ	自動ソート機能を設定しません。
ｽﾙ	自動ソート機能を設定します。
6. ｻｲｽﾞ ｹｲﾚﾂ	用紙サイズグループを選択できます。用紙サイズグループが変わると、定形変倍が変更されます。
AB	定形変倍：50%、70%、81%、86%、100%、115%、122%、141%、200%
ｲﾝﾁ	定形変倍：50%、64%、78%、100%、129%、200%
A	定形変倍：50%、70%、100%、141%、200%
7. ｶﾗｰﾊﾞﾗﾝｽ	カラーモード時に各色のトナー濃度を１～７段階（**5**）で指定します。 1. ブラック、2. シアン、3. マゼンタ、4. イエロー
8. ｼｬｰﾌﾟﾈｽ	画像のシャープネス (鮮明度) を設定できます。 文字や線を鮮明にしたい場合は、大きな数値を選択します。写真をコピーする場合は、小さな数値を選択します。 1 ～ 9（**5**）

（**太字**は工場出荷時の設定）

設定項目	設定内容
9. ｼｷﾁｮｳ	カラーモード時の色調タイプを選択します。 **ﾋｮｳｼﾞｭﾝ**、ｱｻﾞﾔｶﾅ、ｵﾁﾂｲﾀ
10. ｼﾞｲﾛ ｼﾞｮｷｮ	カラーモード時に地色除去のレベルを選択します。 1 〜 5（**4**） ＊ 1 に設定しても地色が除去されない場合があります。

（**太字**は工場出荷時の設定）

ファクス仕様設定

「ファクスガイド」の「第８章　各種機能を登録する／設定する」を参照してください。

プリンタ仕様設定

設定項目	設定内容
1. ｴﾗｰﾀｲﾑｱｳﾄ	コンピュータからデータを受け取れない場合に本製品がエラーを返すまでの時間を設定します。
ｽﾙ	エラータイムアウトをオンにします。タイムアウト時間を設定します。 5 〜 300 ﾋﾞｮｳ（**15 ﾋﾞｮｳ**）
ｼﾅｲ	エラータイムアウトをオフにします。

（**太字**は工場出荷時の設定）

タイマー設定

設定項目	設定内容
1. ﾋﾂﾞｹ / ｼﾞｺｸ ｾｯﾄ	現在の日付と時刻 (年月日時分) を本製品に設定します。
2. ﾋﾂﾞｹ / ｼﾞｺｸ ﾀｲﾌﾟ	日付と時刻の表示形式を設定します。 **YYYY_MM/DD** 、MM/DD/YYYY 、DD/MM_YYYY
3. ｵｰﾄｸﾘｱ	オートクリア機能を設定します。本製品を一定時間操作しなかった場合に、ディスプレイの表示がスタンバイモードに戻ります。
ｽﾙ	オートクリア機能を設定します。1 〜 9 ﾌﾝ（**1 ﾌﾝ**）
ｼﾅｲ	オートクリア機能を設定しません。

（**太字**は工場出荷時の設定）

設定項目	設定内容
4. ｵｰﾄ ｾﾂﾃﾞﾝ	節電モードを設定します。
ｽﾙ	節電モードをオンにします。節電モードに移行するまでの時間を設定できます。
1. ｾﾂﾃﾞﾝﾓｰﾄﾞ 1 ｲｺｳｼﾞｶﾝ	3 ～ 30 ﾌﾝ（**5 ﾌﾝ**）
2. ｾﾂﾃﾞﾝﾓｰﾄﾞ 2 ｲｺｳｼﾞｶﾝ	3 ～ 300 ﾌﾝ（**120 ﾌﾝ**）
ｼﾅｲ	オート節電機能を設定しません。

（**太字**は工場出荷時の設定）

レポート／リスト

「ファクスガイド」の「第８章　各種機能を登録する／設定する」を参照してください。

メンテナンス

設定項目	設定内容
1. ｶｰﾄﾘｯｼﾞ ｺｳｶﾝ	交換するトナーカートリッジを選択します。
ｶｰﾄﾘｯｼﾞ ｾﾝﾀｸ	交換するカートリッジの色を選択します。 1. ブラック 2. シアン 3. マゼンタ 4. イエロー 5. ゼンショク
2. ｼﾞﾄﾞｳ ｶｲﾁｮｳ ﾎｾｲ	自動階調補正を設定します。
3. ﾛｰﾗｸﾘｰﾆﾝｸﾞ	定着ローラを清掃します。
1. ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ ｼﾞｯｺｳ	定着ローラの清掃を開始します。
2. ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ ﾖｳｼ ﾌﾟﾘﾝﾄ	クリーニング用紙をプリントします。

11
CHAPTER

付録

本製品の仕様一覧と索引です。

仕様

形式	パーソナルデスクトップ型
原稿台	固定
ADF への最大積載枚数	最大積載枚数 30 枚（80g/m^2）重ねた原稿の厚さ 8mm まで
プリント方式	電子写真方式（オンデマンド定着）
解像度	原稿台ガラス：モノクロ / カラー 約 600 × 600 dpi ADF：モノクロ 約 600 dpi × 400 dpi カラー 約 600 dpi × 600 dpi
階調	256 階調
原稿サイズ	リーガルサイズ（最大） 単葉紙、書籍、立体（2kg 以下）
記録用紙	カセット：60g/m^2 ～ 105g/m^2 手差しトレイ：60g/m^2 ～ 163g/m^2 普通紙、カラー用紙、再生紙、OHP フィルム、封筒、ラベル、厚紙（最大 163g/m^2）
コピーサイズ	原稿台ガラス：A4（210mm×297mm） ADF：リーガル（216mm×356mm）
印字できない範囲	用紙：上下左右の余白 5mm には印字できません。 封筒：上下左右の余白 10mm には印字できません。
ウォームアップタイム	約 60 秒 *（電源コードを接続してからディスプレイに待受画面が現れるまで。室温 20 ˚C、湿度 65%の場合） * ウォームアップタイムは、本製品の設置状況・環境により異なります。

ファーストコピータイム	原稿台ガラス：モノクロ　約 21 秒 　　　　　　カラー　　約 45 秒 ADF：モノクロ　約 28 秒 　　　カラー　　約 52 秒 A4 サイズまたは LTR サイズ、等倍、手動濃度調節、カセット給紙の場合（節電モードからの復帰直後を除く）
コピー速度	モノクロ：約 19 枚／分（A4 サイズ） カラー：約 4 枚／分（A4 サイズ）
拡大／縮小	1:1 ± 1.0%、1:2,000、1:1,416、1:1,224、1:1,157、1:0.865、1:0.817、1:0706、1:0.500 ズーム：0.500 〜 2.000（1% 単位）
給紙システム	カセット：250 枚（60g/m^2） 手差しトレイ：125 枚（60g/m^2）
コピー部数	1 〜 99 部
電源	100V（90 〜 110V）、50/60Hz
消費電力	最大：約 1.1kw 待機時：約 30w 節電モード 1：約 25w 節電モード 2：約 6w
直流抵抗値	329Ω**
寸法（幅 × 奥行 × 高さ）	510mm × 512mm × 641mm （トレイを含む）
設置スペース（幅 × 奥行）	610mm × 1016mm
重量	約 36kg（カートリッジ含む）
定着ユニット寿命	約 50000 枚／ A4

** 電話回線の抵抗値と本製品の抵抗値の合計が 1700Ω を超える場合など、電話回線や地域などの条件によって通信できないことがあります。このようなときには、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご相談ください。

この仕様は、製品の改良により予告なく変更される場合があります。

十分なプリント品質を得るために、キヤノンの推奨する用紙と OHP フィルムのご使用をお勧めします。市販の用紙には本製品での使用に適さないものがあります。用紙および OHP フィルムについてご不明の点があるときは、お近くのキヤノン販売店またはキヤノンお客様相談センターにご連絡ください。

索引

記号

A

O

U

あ

か

さ

11

付録

た

な

は

ま

や

ら

わ

本書は、本文に70%の
再生紙を使用しています。

消耗品のご注文先

販 売 先

電話番号

担当部門

担 当 者

サービス担当者 連絡先

販 売 店

電話番号

担当部門

担 当 者

Canon キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター
（全国共通番号） **050-555-90024**

[受付時間] 〈平日〉9:00〜20:00
〈土日祝祭日〉10:00〜17:00
（1/1〜3は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9627 をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

FA7-9168 (010) PRINTED IN CHINA